

令和7年度

「令和の日本型学校体育構築支援事業」

モデル校取組事例集

和歌山県教育委員会

## はじめに

体力は、人間の活動の源であり、健康の維持のほか意欲や気力といった精神面の充実に大きく関わっており、「生きる力」の重要な要素であると学習指導要領解説に記載されています。

県教育委員会では、「体力向上」を学校教育において取り組むべき大きな目標の一つとして掲げ、「運動機会の拡大」及び「学校体育の充実」に取り組んでいます。

「運動機会の拡大」については、各校において、体力調査の結果を基に児童生徒の実態に応じた「体力アッププラン」を作成し、実行することで、児童生徒の運動機会の創出と運動の日常化を図り、教育活動全体を通して計画的・継続的に体力向上に取り組むことができるように進めているところです。

「学校体育の充実」については、学習指導要領が示す「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、本年度は、「体育・保健体育指導力向上プログラムモデル校」を4校、「体力向上に向けた魅力ある授業づくりモデル校」を3校、「武道推進モデル校」を10校指定し、各モデル校に体育・保健体育科授業の改善に取り組んでいただきました。その中で、体育・保健体育指導力向上プログラムモデル校には、「身に付いた力が見取ることができる魅力ある授業づくりとは、いかにあるべきか」を探るため、「ボール運動」、「ゲーム」、「武道」の領域で授業研究会を開催いただきました。また、体力向上に向けた魅力ある授業づくりモデル校には、運動が好きな児童の育成に向け、体育科授業の愛好度形成に関する取組を検証していただきました。さらに、武道推進モデル校には、多様な武道等指導の充実に向け、複数種目を実施し、安全面に配慮した指導等を行っていただきました。

本取組事例集は、各モデル校の取組内容や成果と課題を掲載していますので、各学校における今後の授業づくりの一助として御活用いただければ幸いです。

結びに、本取組事例集の作成に御尽力賜りましたモデル校の関係各位に厚く御礼申し上げますとともに、今回の事業に御協力いただきました当該市町教育委員会及び地域の学校体育研究会に深く感謝の意を表します。

令和8年3月

和歌山県教育庁学校教育局健康体育課長 中谷 吉登

# 目 次

## 1 取組事例

体育・保健体育指導力向上プログラムモデル校	校種	学校名	学年等	領域等	授業者	ページ
	小学校	新宮市立 神倉小学校	4年2組	ボール運動 (ネット型)	矢花 栄太郎	1
	小学校	那智勝浦町立 下里小学校	3・4年	ボール運動 (ゴール型)	河野 美麻	15
	高等学校	和歌山県立 紀北工業高等学校	3年A組	武道 (剣道)	朝長 拓也	31
	特別支援学校	和歌山県立 きのかわ支援学校	小学部 知的3・4年	ボール運動	新家 一輝	38
魅力ある授業づくりモデル校	校種	学校名	学年等	領域等		ページ
	小学校	和歌山市立 楠見東小学校	全学年	体育科授業全般		51
		岩出市立 岩出小学校	4年	表現運動		53
		日高町立 志賀小学校	全学年	ゲーム・ボール運動		64
中学校	田辺市立衣笠中学校	1年	武道（合気道・なぎなた）		66	
	田辺市立近野中学校	全学年	武道（合気道・剣道）		68	
	田辺市立秋津川中学校	全学年	武道（合気道・柔道）		70	
	田辺市立上秋津中学校	2年	武道（剣道・合気道）		72	
	田辺市立上芳養中学校	1年	武道（合気道・柔道）		74	
	田辺市立新庄中学校	2年	武道（合気道・少林寺拳法）		76	
	田辺市立中芳養中学校	2年	武道（合気道・柔道）		78	
	田辺市立東陽中学校	1年	武道（合気道・なぎなた）		80	
	田辺市立明洋中学校	全学年	武道（合気道・剣道）		82	
	田辺市立龍神中学校	3年	武道（合気道・柔道）		84	

## 2 参考 【平成21～令和6年度授業研究会開催内容一覧】

体育・保健体育指導力向上  
プログラムモデル校  
取組事例

# 体育科学習指導案

日 時：令和 7 年 1 1 月 5 日（水） 1 3：1 5～1 4：0 0  
 場 所：新宮市立神倉小学校 体育館  
 学 級：4 年 2 組 3 6 名  
 授業者：教諭 矢花 栄太郎

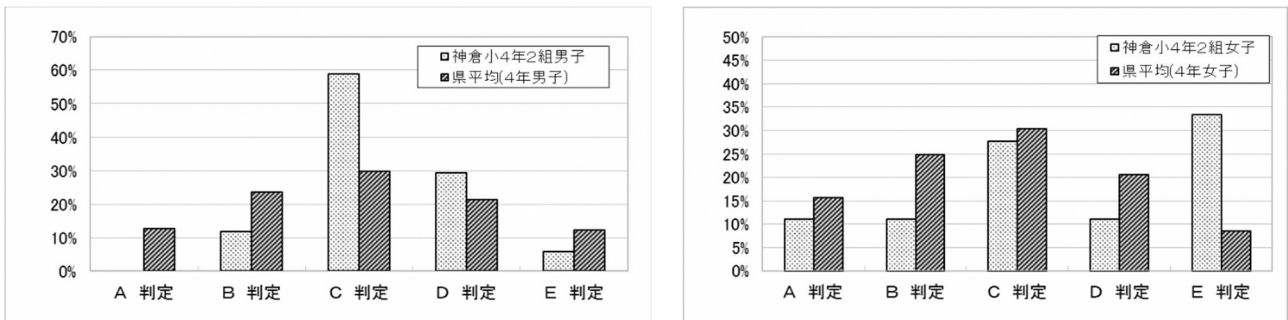
## 1 単元名

ボール運動ネット型ゲーム「プレルボール」  
 ～声をかけあい、心をつなぐ。勝利のパス！～

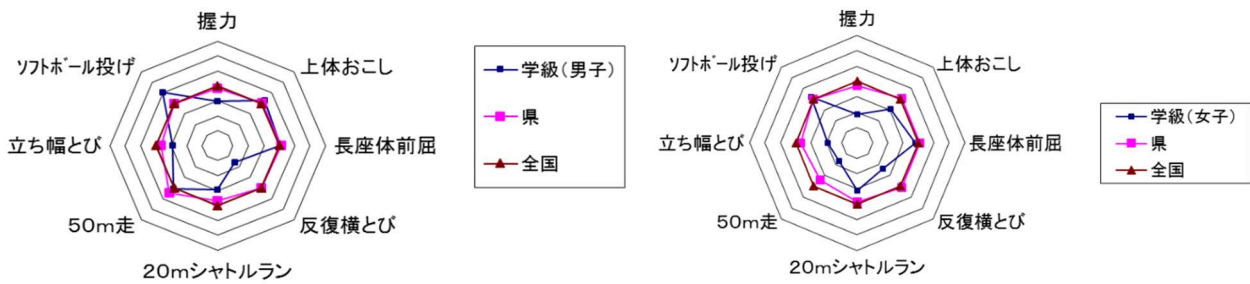
## 2 指導にあたって

(1) 児童の実態（アンケート調査、体力・運動能力調査結果）から見えてくる課題  
 [令和 7 年度児童生徒の体力・運動能力調査結果から見た実態]

[グラフ 1] 判定別割合（男女別）



[図 1] 【T スコアによる全国比較図（男女別）】



体力運動能力調査結果から、男子は A 層の児童がおらず、C・D 層に集中しているのが現状である。また、立ち幅跳びと反復横跳びの項目では、全国及び県平均よりも低いスコアになっている。特に反復横跳びはスコアを大きく下回っている。これは、下半身の瞬発力・敏捷性が低いと考えられる。また、正しいフォームで動いたり、素早く動いたりする技能が身に付いていないことが課題であると考えられる。

女子は、ソフトボール投げと長座体前屈以外は、全国や県平均以下という結果になった。現状、柔軟性はあるものの筋力や瞬発力を発揮するための基本的な動作が課題である児童が多い。また、最も多い割合だったのが E 層であった。普段から運動場に出て運動するより、教室で過ごす児童が多いことも起因していると考えられる。上記の結果が出てから、

意識的に児童に声かけをし、児童の要望に合わせて外遊びをするなどし、体力の向上や運動スキルの習得に努めた。教室遊びが好きな児童も外遊びに自ら参加してくれるようになり、1日の中で運動する時間が少しでも確保できるようになってきた。今後も体を動かして遊ぶことの楽しさを感じてもらい、児童らとの外遊びの時間を大事にしていきたい。

#### 児童アンケート調査

アンケート内容	『はい』	どちらかといえ ば『はい』	どちらかといえ ば『いいえ』	『いいえ』
1. 体育学習は好きですか	26人	4人	2人	1人
2. 体育学習は得意ですか	18人	10人	3人	2人
3. 今回学習する「ネット型」は好きですか	18人	13人	1人	1人
4. 3で「どちらかといえばいいえ」「いいえ」と答えた児童生徒の理由	理由 ・バレーボールが苦手だから ・自信がないから			
5. 今回学習する「プレルボール」は好きですか	16人	13人	1人	3人
6. 5で「どちらかといえばいいえ」「いいえ」と答えた児童生徒の理由	理由 ・バレーボールが苦手だから ・自信がないから			
7. 作戦を立てて試合をすることは好きですか。	25人	8人	0人	0人

運動すること自体に苦手意識をもつ児童がいる。「体育学習は得意ですか？」という質問に対し、「どちらかといえばいいえ」と「いいえ」が合わせて5名いる。運動能力に自信がなく、体を動かすことに抵抗がある児童が一定数いることがわかる。

「戦術を立てて試合をすること」には概ね肯定的な児童が多い。「作戦を立てて試合をすることは好きですか？」という質問に対し、「どちらかといえばいいえ」や「いいえ」と回答した児童はいなかった。従って、今回のプレルボールの授業において、作戦を立てることやチームで協力する活動は、苦手意識をもつ児童にとっても取り組みやすい要素である。チームで作戦を立てる時間を確実に確保し、得点を取るにはどんな動きをすれば良いかを組み立てていく話し合いが必要である。

## (2) 課題解決のための学習形態の工夫 等

### 1. 成功体験を積み重ねるための指導

#### ① 難易度を段階的に上げる

授業の導入では、難しい技術を教え込むのではなく、「ボールを相手コートに返す」といったシンプルな成功体験をまず積ませる。例えば、簡単なパスのやりとり、キャッチしてからパスを出す、ボールを柔らかいものにするなど、児童のレベルに合わせて調整できるルールを取り入れながら行っていく。

#### ② 肯定的なフィードバックを重視する

児童が少しでも良いプレーをしたら、結果だけでなく「スパイクが打ちやすい場所へパスができたね」「今のサーブ、相手のいないところに打とうとしていたね」のように、プロセスを具体的に褒める声かけをする。これにより、運動が苦手な児童も「自分でもできた」という自信をもたせることができる。

### 2. 全員が活躍できるチームでの活動

#### ① 作戦会議の時間を設ける

児童が主体的・協働的に作戦を立てる時間を設ける。全員が意見を出しやすいように、少人数のグループで話し合わせるなど工夫していく。これにより、「作戦を立てて試合をするのは好き」という児童の肯定的な気持ちを最大限に活かし、運動が苦手な児童も自然と活動に入っていけるように促す。

#### ② 全員がボールに触れる

3人で試合を行う際に、全員が必ず1回はボールに触れ、3回目でスパイクを打たないといけないルールにする。一人一人が自分の立ち位置や動きを意識しながら、チームのためにどんな動きができるかを思考させることがねらいである。

その後は、児童の実態に合わせて、ルールを段階的に難しくしていく。

## (3) 指導と評価の計画における工夫 等

「主体的・対話的で深い学び」の実践に向けた指導

この授業では、こどもたちが自ら課題を見つけ、チームで協力して解決策を探る過程を重視したい。教師は、その学びを深くするための仕掛けづくりをしていきたい。

### 1. 主体性を引き出すための指導

#### ・課題設定を児童に委ねる

教師が「今日はこれを練習します」と指示するのではなく、「どうすれば相手のコートにボールを返せるかな?」「どうすれば味方にうまくパスできるかな?」といった問いかけから授業を始める。こどもたち自身が「どうしたらいいんだろう?」と考えることで、学びを自分事として捉えさせていきたい。また練習の内容も児童から出た解決策をもとに考えていきたい。(パスやアタックなどの練習)

#### ・「作戦」を考える機会を増やす

ゲームの前に必ず作戦タイムを設ける。その際、単に「話し合っただけ」で終わらせず、体育ノート(作戦ボード)を提供し、攻撃と守備の役割分担、相手の弱点を突く方法などを具体的に考えさせる。こどもたちが「自分たちの作戦で戦うんだ」という意識を持つこ

とで、主体的にゲームに臨むようになると考える。

- ・活発な試行錯誤

試合中にうまくいかないことがあっても、「それは作戦が間違っているから」と否定しない。「どうすればこの課題を乗り越えられるかな？」と問いかけ、こどもたちが自ら作戦を修正するよう促したい。これにより、試行錯誤しながら学びを深める力を育てたい。

## 2. 対話性を高めるための指導

- ・映像を用いた振り返り

試合の様子をタブレットで録画し、プロジェクターに投影しながらチームやクラス全体で振り返る。口頭での説明だけでは伝わりにくい動きやタイミングを、映像で具体的に共有していく。例えば、「このとき、〇〇さんはどういう体勢だったかな？」「どうしてこのパスはうまくいったのかな？」「どのようにパスすれば良かったかな」と映像を指し示しながら問いかけ、対話を促す。

- ・グループワークの充実

作戦を立てたり、振り返りをしたりする際は、ペアやグループでの話し合い活動を充実させる。その際、「まずは自分の考えを体育ノートに書いてみよう」「隣の人と自分の考えを伝え合ってみよう」など、話し合いが苦手な子も参加できるような工夫をする。

- ・チームを超えた交流

良いプレーができたチームや、面白い作戦を立てたチームの映像を全体で共有する。成功事例をクラス全体で共有することで、互いに学び合い、ゲーム全体への理解を深めていきたい。

## 3. 深い学びを促すための指導

- ・「なぜ？」を問いかける

単に「アタックがうまくいったね」で終わらせず、「なぜ今のパスはうまくいったと思う？」と「なぜ？」を問いかける。こどもたちが「ボールが落ちる場所に素早く移動したから」「強くはじいてパスしたから」など、成功の理由を言語化するプロセスが、技能の定着と深い理解につなげたい。

- ・共通する課題の発見を促す

複数チームの試合映像を比較して見せ、「どのチームにも共通する課題や良い点はないかな？」と問いかける。これにより、自分たちのチームの課題だけでなく、ゲーム全体に共通する原理原則に気付く機会を与えていく。

単元の目標		知識及び技能								ネット型ゲーム（プレルボール）のルールを理解し、基本的なボール操作とボールを操作できる位置に体を移動する動きによって、易しいゲームをすることができるようにする。
単元の目標		思考力、判断力、表現力等								規則を工夫したり、ゲームの型に応じた簡単な作戦を選んだりするとともに、考えたことを友達に伝えることができるようにする。
単元の目標		学びに向かう力、人間性等								運動に進んで取り組み、規則を守り誰とも仲良く運動したり、勝敗を受け入れたり、友達の考えを認めたり、場の用具の安全に気を付けたりすることができるようにする。
時	1	2	3	4	5（本時）	6	7	8	授業づくりのポイント	
ねらい	学習の進め方、ゲームルールの確認をし、単元の見通しを持つ。	基本的な技能の習得、自分や友達の課題点を見つける。	試合を想定したチームの連携を意識した練習から課題を見つける。	チームの特徴や課題に応じて、個人の役割にあった作戦を選んで取り組む。	チームの特徴や課題に応じた作戦を実行し、その中で考えたことを伝える。	ゲーム③のルールでこれまでの作戦が使えなさを考え取り組む。	チームの特徴や課題に応じた作戦を実行し、その中で考えたことを伝える。	本単元で身につけた技能を活かして、チームで協力して試合に取り組む。	【主体性を引き出させる工夫】 ・課題に対しての練習メニューを児童から出させて、取り組ませていく。	
学習の流れ	0	1.学習の進め方を知る 2.本時のめあて（プレルボールの試合をやってみよう）	1.場の準備をする 2.本時のめあてを知る。（ボールをよく見て打ち、味方につなごう。）	1.場の準備をする 2.本時のめあてを知る。（相手のいないところに打ったり、チームで助け合おう）	1.場の準備をする 2.本時のめあてを知る。（相手のいないところに打ったり、チームで助け合おう）	1.場の準備をする 2.本時のめあてを知る。（攻めと守りを切り替えて、声をかけながらプレーしよう）	1.場の準備をする 2.本時のめあてを知る。（攻めと守りを切り替えて、声をかけながらプレーしよう）	1.場の準備をする 2.本時のめあてを知る。（攻めと守りを切り替えて、声をかけながらプレーしよう）	【運動が苦手な児童への手立て】 ・基本的な動きやボール操作を確実に身につけさせ、段階的に技能や知識を習得させていく。	
	10	3.準備運動をする 4.作戦会議をする 5.ドリルゲームをする（ペア・個人）	3.準備運動をする 4.作戦会議をする 5.ドリルゲームをする（ペア・個人） 床バウンド、バウンドパス キャッチありなし（ペア・個人） パスをつなぐ練習（グループ）	3.準備運動をする 4.作戦会議をする 5.ドリルゲームをする（ペア・個人） 床バウンド、バウンドパス キャッチありなし（ペア・個人） パスをつなぐ練習（グループ）	3.準備運動をする 4.作戦会議をする 5.ドリルゲームをする（ペア・個人） 床バウンド、バウンドパス キャッチありなし（ペア・個人） パスをつなぐ練習（グループ）	3.準備運動をする 4.作戦会議をする 5.ドリルゲームをする（ペア・個人） 床バウンド、バウンドパス キャッチありなし（ペア・個人） パスをつなぐ練習（グループ）	3.準備運動をする 4.作戦会議をする 5.ドリルゲームをする（ペア・個人） 床バウンド、バウンドパス キャッチありなし（ペア・個人） パスをつなぐ練習（グループ）	3.準備運動をする 4.作戦会議をする 5.ドリルゲームをする（ペア・個人） 床バウンド、バウンドパス キャッチありなし（ペア・個人） パスをつなぐ練習（グループ）	【作戦を考える機会を確保する】 ・試合前と後に必ずチームで課題点を見つけさせ、改善できるように働きかける。	
	20	6.試合をする（ゲーム①） ・3人全員が触れて返す ・キャッチ2回あり	6.試合をする（ゲーム①） ・3人全員が触れて返す ・キャッチ2回あり	6.試合をする（ゲーム②） ・1～3回で返す ・キャッチ1回あり	6.試合をする（ゲーム②） ・1～3回で返す ・キャッチ1回あり	6.試合をする（ゲーム③） ・1～3回で返す ・キャッチなし	6.試合をする（ゲーム③） ・1～3回で返す ・キャッチなし	6.試合をする（ゲーム③） ・1～3回で返す ・キャッチなし	6.試合をする（ゲーム③） ・1～3回で返す ・キャッチなし	【授業の振り返り】 ・各授業の最後に振り返りの時間を確保し、成果と課題を見つけさせる。また、授業のMVPをチーム内で見つけさせることで、友達と認め合い、主体性を育む働きかけを行う。
	30	7.試合をする。	7.試合をする（ゲーム④） 8チーム試合、4チーム審判、動画撮影	7.試合をする（ゲーム⑤） 8チーム試合、4チーム審判、動画撮影	7.試合をする（ゲーム⑥） 8チーム試合、4チーム審判、動画撮影	7.試合をする（ゲーム⑦） 8チーム試合、4チーム審判、動画撮影	7.試合をする（ゲーム⑧） 8チーム試合、4チーム審判、動画撮影	7.試合をする（ゲーム⑨） 8チーム試合、4チーム審判、動画撮影	7.試合をする（ゲーム⑩） 8チーム試合、4チーム審判、動画撮影	
40	8.振り返り・片付けをする。	7.学習の振り返りをする ・大事だったポイント ・友達の良かったところや動き ・難しかったところなどを共有する。 8.片付けをする	7.学習の振り返りをする ・大事だったポイント ・友達の良かったところや動き ・難しかったところなどを共有する。 8.片付けをする	7.学習の振り返りをする ・大事だったポイント ・友達の良かったところや動き ・難しかったところなどを共有する。 8.片付けをする	7.学習の振り返りをする ・大事だったポイント ・友達の良かったところや動き ・難しかったところなどを共有する。 8.片付けをする	7.学習の振り返りをする ・大事だったポイント ・友達の良かったところや動き ・難しかったところなどを共有する。 8.片付けをする	7.学習の振り返りをする ・大事だったポイント ・友達の良かったところや動き ・難しかったところなどを共有する。 8.片付けをする	7.学習の振り返りをする ・大事だったポイント ・友達の良かったところや動き ・難しかったところなどを共有する。 8.片付けをする		
評価機会	1	2	3	4	5	6	7	8	評価方法	
	知		①				②	③	観察、体育ノート、ICT	
	思			①		②			観察、体育ノート、ICT	
態	③			②	④			①	観察、体育ノート	
単元の評価規準	知	①プレルボールの行い方について言ったり、書いたりしている。 ②ボールの方向に体を向けたり、ボールを操作しやすい位置に移動したりすることができる。 ③いろいろな高さのボールを打ち付けてパスをつなぐことができる。								
	思	①自分や友達、チームから出た課題点を解決するための作戦や練習メニューを選んだり、考えたりしている。 ②課題解決のために、自分が考えたこと（作戦）を、動作や言葉、絵図などを使って、友達に伝えている。								
	態	①ネット型ゲームに進んで取り組もうとしている。 ②ゲームの規則を守り、誰とも仲良くしようとしている。 ③ゲームで使用する用具などの準備や片付けを、友達と一緒にしようとしている。 ④ゲームやそれらの練習の中で互いに動きを見合ったり、話し合ったりして見つけた動きのよさや課題を伝え合う際に、友達の考えを認めようとしている。								

※知…「知識・技能」、思…「思考・判断・表現」、態…「主体的に学習に取り組む態度」

4 本時について

(1) 目標

(知識及び技能)

ボールの方向に体を向けたり、ボールを操作しやすい位置に移動したりすることができるようにする。

(思考力、判断力、表現力等)

課題解決のために、自分が考えたこと(作戦)を、動作や言葉、絵図などを使って、友達に伝えることができるようにする。

(学びに向かう力、人間性等)

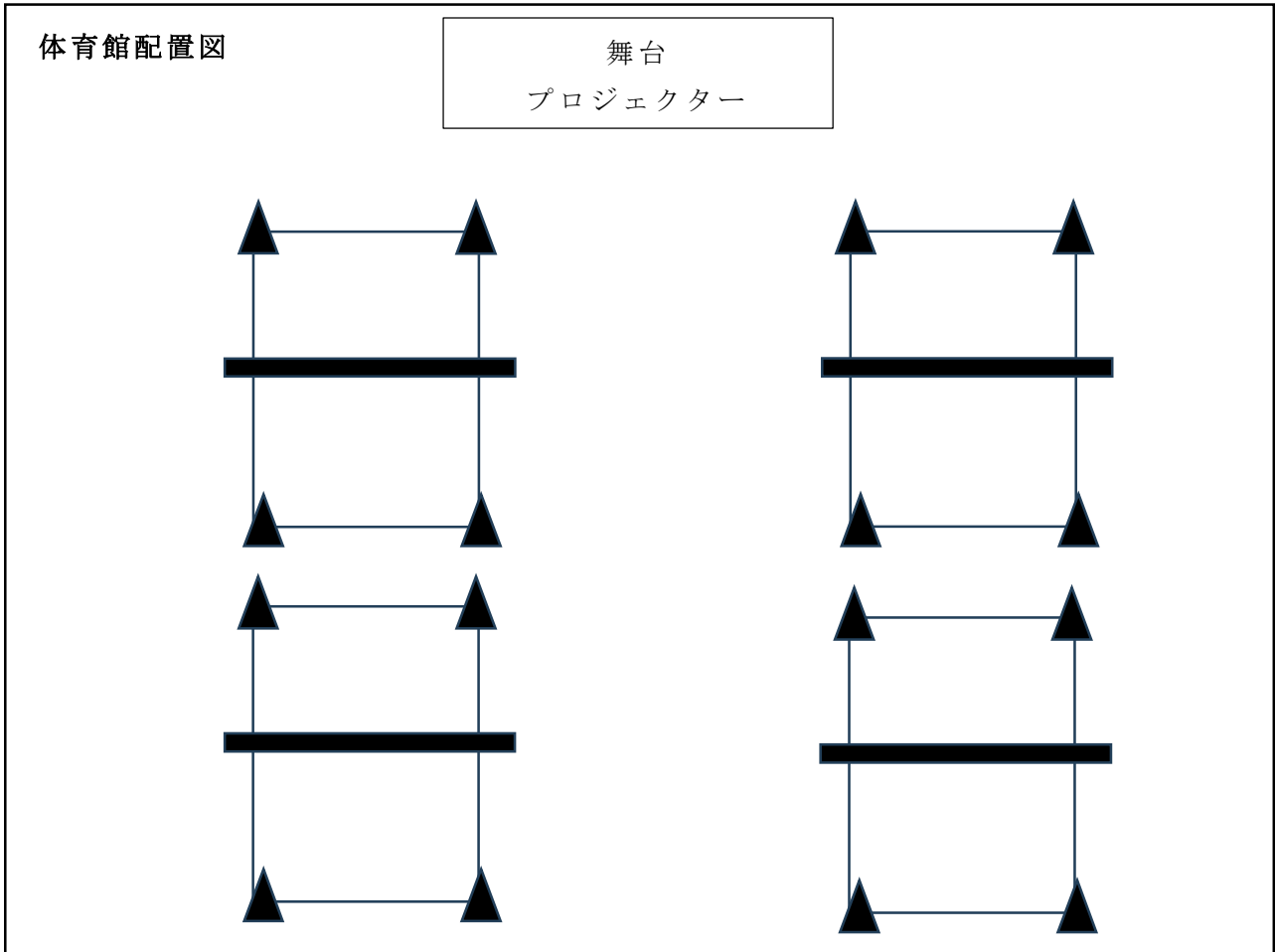
ゲームやそれらの練習の中で互いに動きを見合ったり、話し合ったりして見つけた動きのよさや課題を伝え合う際に、友達の考えを認めることができるようにする。

(2) 展開 (本時：5 / 8 時)

	学習内容・活動	○授業者の指導・支援 ☆評価
導 入	1 場作り (1分) 2 本時のめあてを知る (1分)	
	めあて：相手のいないところに打ったり、チームで助け合ったりしよう。	
展 開	3 準備運動をする (3分)  4 作戦会議 (6分) 体育カードを活用しながら、チームごとに作戦を考える。攻撃や守備の交代を意識した作戦を話し合いして立てていく。	○作戦タイムでは、体育ノートを指導し、子どもたちが発想しやすいよう「どこに打ったら相手は困るかな?」「相手のこの攻撃に対してはだれがどのように動く?」といった問いかけをする。  ☆課題解決のために、自分が考えたこと(作戦)を、動作や言葉、絵図などを使って、友達に伝えている。  【思考・判断・表現】(観察・ワークシート)
	5 ドリルゲームをする (5分) 【チーム】(三角フォーメーション) ・こぶし(こぶしの横)でたたいてパス、アタック ・平手でたたいてパス、アタック ・キャッチあり、なし 【兄弟グループ】(対面フォーメーション)	○練習中は、各チームの作戦内容を確認しながら具体的なアドバイスを(例：「スパイクを打つ場所を○○にしてみよう」)を行う。

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チームで分かれて入れ替わり連続パス</li> <li>・チームで分かれて入れ替わり連続ラリー</li> <li>・キャッチあり、なし</li> </ul> <p>6 試合（22分）</p> <p>チームごとに作戦に基づいた練習試合を行う。1試合目は、兄弟チームと対戦する。作戦通りいくかを試行する試合となる。</p> <p>2試合目、3試合目は、他のチームとの試合になる。チームで立てた作戦を基に試合を展開していく。</p> <p>試合をしない児童は、審判をしたり、動画を撮影したりする。（友達のレシーブ、パス、スパイクなどの動きで良いところや、相手のボールに対しての動きで課題が見られた場面を中心に撮影する。）</p>	<p>○試合中、特定の子どもやチームの動きに焦点を当てて児童がクロームブックで撮影する。良いプレーには声かけで賞賛し、子どもたちの意欲を高める。</p> <p>☆ゲームやそれらの練習の中で互いに動きを見合ったり、話し合ったりして見つけた動きのよさや課題を伝え合う際に、友達の考えを認めようとしている。</p> <p><b>【主体的に学習に取り組む態度】</b> <b>（観察）</b></p>
まとめ	<p>6 本時の学習を振り返り、次の時間に活かしたいことをまとめる。（5分）</p> <p>7 片付けをする。（2分）</p>	<p>○子どもたちの言葉で本時の学びをまとめさせる。自分たちの作戦が、試合でどう活かされたかを振り返る。</p>

(3) 場の設定 (体育館)



準備物

- ・ ボール 12 個
- ・ マーカーコーン 16 個
- ・ プレールボール用コート
- ・ ホワイトボード
- ・ 筆記用具
- ・ 体育ノート
- ・ 児童のクロームブック

(4) 板書計画

めあて

相手のいないところに打ったり、チームで助け合ったりしよう。

授業の流れ

- ① 場作り・めあて
- ② 準備運動
- ③ 作戦会議
- ④ ドリルゲーム
- ⑤ 試合
- ⑥ 片付け・振り返り

メンバー表

A	C	E
B	D	F
G	I	K
H	J	L

プレールボール ルール②

- 1 試合 5 分間
- 1 時間内に多くの得点を取ったチームの勝利
- 2 サーブは下から相手のコート内にノーバウンドで投げる。
- 3 ボールはバウンドさせてパス
- 4 1回～3回で相手コートにボールを返す。  
⇒キャッチは1回あり
- 5 アタックで自分のコートにバウンドができれば相手コートからボールが出てOK

プレールボール 反則

- 1 サーブで相手側のコートの外に投げてはいけない
- 2 パスのときにコート外でバウンドしてはいけない
- 3 ボールを2回キャッチしてはいけない
- 4 ノーバウンドで相手のコートに返してはいけない
- 5 自分のコートで2回バウンドしてしまったら相手の得点になる

## 5 学習資料（添付）

～声をかけあい、心をつなぐ。勝利のパス～ の学習について  
各授業の流れは、体育ノートの通りで進めていく。

### ● 授業のおおまかな流れ

① ゲームのコートづくり

② 授業のめあてを知る

③ 準備運動

④ ドリルゲーム

⑤ 作戦会議

⑥ 試合をする 1 試合目（対兄弟チーム） ☆音楽をよく聞いて活動に取り組みましょう  
移動

2 試合目（対相手チーム） ☆試合をしないチームは審判、動画撮影  
移動

3 試合目（対相手チーム）

⑦ 学習の振り返り・片付け

### ● ゲームについて

- ・ 1 試合 約 5 分間（あいさつに始まり、あいさつに終わる）
- ・ 4 コートで 3 対 3 の試合をする。（審判によるジャッジ）
- ・ コートの大きさは、縦 6 m 横 1 2 m ネットの高さ 3 0 c m
- ・ 時間内に多くの得点を取ったチームの勝利
- ・ 試合前の作戦会議、学習の最後の振り返りは積極的に友達や先生に伝え合う。

### ● ゲーム①のルール（2 時・3 時）

- ・ 全員ボールに触れて、3 人目でアタックをする。
- ・ キャッチは 2 回までとする。（キャッチした人はその場から動いてはいけない）

### ● ゲーム②のルール（4 時・5 時）

- ・ 1 回～3 回で相手コートへボールを返す。
- ・ キャッチは 1 回までとする。（キャッチした人はその場から動いてはいけない）

### ● ゲーム③のルール（6 時・7 時・8 時）

- ・ 1 回～3 回で相手コートへボールを返す。
- ・ キャッチはしてはいけない。

### ● ゲームの共通のルール

- ・ サーブは毎回交代で始める。
- ・ サーブは下から相手のコート内にノーバウンドで投げる。（投げるときは合図をする）
- ・ パスやアタックのボールは、地面へはじくように打つ。
- ・ アタックで自分のコートにバウンドができれば相手コートからボールが出ても OK。

● ゲームの共通の反則（相手の得点になる）

- ・サーブで相手側のコートの外に投げてはいけない。
- ・パスのときにコート外でバウンドをしてはいけない。
- ・ボールを2回以上バウンドさせてはいけない。
- ・ノーバウンドで相手のコートに返してはいけない。

● ドリルゲーム一覧

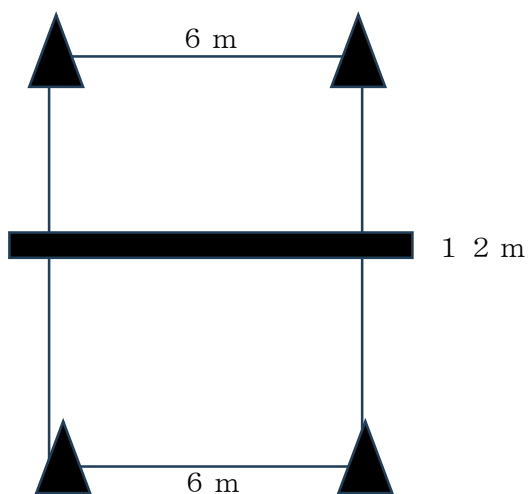
【チーム】（三角フォーメーション）

- ・こぶし（こぶしの横）でたたいてパス、アタック
- ・平手でたたいてパス、アタック
- ・キャッチあり、なし

【兄弟グループ】（対面フォーメーション）

- ・チームで分かれて入れ替わり連続パス
- ・チームで分かれて入れ替わり連続ラリー
- ・キャッチあり、なし

● コートの大きさ



## 6 考察（成果と課題）

### （1）児童アンケートからわかる取組の客観的な成果・分析

#### 児童アンケート調査

	『はい』	どちらかといえば 『はい』	どちらかといえ ば『いいえ』	『いいえ』
1. 「プレルボール」は楽しかったですか。	26人	7人	3人	0人
2. 「プレルボール」の学習で上手にできるようになったことがありますか。	21人	13人	3人	0人
3. 「プレルボール」の学習で「なるほど。」「そうだったのか。」と感じたことがありますか。	29人	8人	0人	0人
4. 「プレルボール」の学習で考えたことを友達に伝えることができましたか。	14人	12人	8人	2人
5. 「プレルボール」の学習で友達と協力しあうことができましたか。	21人	11人	4人	0人
6. チームで考えた作戦は試合でうまくいきましたか。	17人	16人	4人	0人

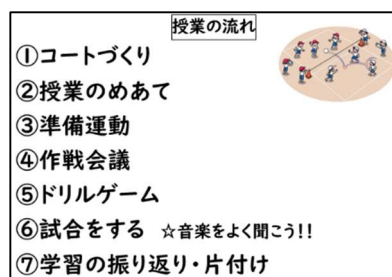
授業後に実施した児童アンケートの結果から、本単元の実践に一定の成果が見られた。「プレルボールは楽しかったですか」という問いに対して、多くの児童が肯定的に回答しており、技能に対する得意・不得意に関わらず、運動への参加意欲が高まったことがうかがえる。また、「上手にできるようになったことがある」「なるほどと思ったことがあった」と回答した児童も多く、活動を通して技能面や戦術面での気づきが生まれていたと考えられる。

特に注目すべき点は、「学習で考えたことを友達に伝えることができましたか」「友達と協力し合うことができましたか」という項目において、肯定的な回答が多かったことである。これは、作戦会議や振り返りの場を継続的に設定したことにより、自分の考えを言葉や図で表現し、仲間と共有する経験を積み重ねることができた結果であると考えられる。以上のことから、本単元の実践は、プレルボールという教材を通して、児童が主体的に考え、仲間と関わりながらゲームを改善していく力の育成に一定の効果があったと分析できる。

## (2) 課題解決のための学習形態の工夫

本実践では、運動に苦手意識をもつ児童も安心して取り組めるよう、学習形態に大きく3つの工夫を行った。

まず1つ目は、授業の流れの固定化である。ゲームの進行や場の移動に時間を要し、運動量や学習の連続性が低下することを課題として捉えていた。そこで、授業の流れを固定化するとともに、試合中及び試合と試合の間の移動時間に音楽を活用する学習形態の工夫を行った。



具体的には、「作戦⇒ドリルゲーム⇒試合⇒移動⇒試合⇒振り返り」という一連の流れを毎時間同一の構成で行い、試合と試合の間には音楽を流すことで、子どもたちが授業者の指示を待つことなく、音楽を合図に自ら移動・準備に取り組めるようにした。

この工夫により、活動の切り替えが円滑になり、学習の見通しをもって行動する姿や、仲間同士で声を掛け合いながら次の活動に向かう姿が多く見られるようになった。また、授業者の声かけや統制に頼らずとも学習が進行することで、運動に費やす時間の確保や学習のテンポの向上にもつながった。

二つ目は、ルールを段階的に設定したことである。運動経験や技能差のある児童が安心してゲームに参加し、プレルボールの特性である「ボールをつなぎ、相手のいない空間へ返す楽しさ」を実感できるよう、ルールを段階的に設定する工夫を行った。

導入段階では、キャッチを認める、動きを制限しないなど、成功体験を得やすいルールを設定することで、ボール操作やゲームへの心理的なハードルを下げた。これにより、ボールに積極的に関わろうとする姿や、仲間にボールをつなごうとする姿が多く見られた。



その後、学習の進度や児童の実態に応じて、パス回しの制限、自陣のコートでのバウンド回数、返球方法など、徐々にルールを発展させていった。この段階的なルール設定により、単にラリーを続けるだけでなく、相手の位置を見て打つ、空間を意識して返すといった戦術的な思考が自然と生まれるようになった。

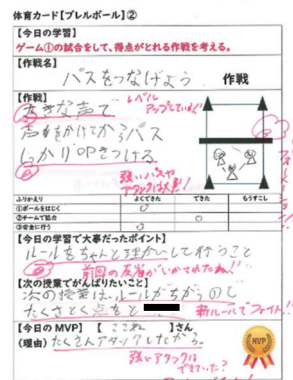
ルールを一律に提示するのではなく、学習のねらいに応じて段階化したことで、児童一人ひとりが自分の成長を実感しながら、意欲的にゲームに取り組む姿が見られた。

三つ目は、作戦会議を位置付けたことである。プレルボールの学習においては、単に技能を高めるだけでなく、仲間とともに考え、工夫し、改善していく学びを大切にしたい。そのため、各試合の合間に作戦会議の時間を意図的に設定した。

作戦会議では、「どこに返すと点が取れたか」「相手はどの位置にいることが多かった

か」など、ゲームの様子を振り返る視点を授業者が提示し、話し合いが具体的になるよう支援した。これにより、「空いている場所をねらう」「相手の後ろに返す」など、次の試合に生かそうとする意見が多く出されるようになった。

また、作戦会議を少人数・短時間で  
行うことで、全員が発言しやすい雰囲気  
が生まれ、運動が苦手な児童も自分の  
気づきや考えを言葉で表現する姿が  
見られた。こうした経験を通して、児童  
は「話し合うことでゲームがよくなる」  
という実感をもち、作戦会議そのもの  
に価値を見いだすようになった。



作戦会議を単なる話し合いに終わらせず、次の試合で試すことを明確にしたことが、学習内容の定着と戦術理解の深化につながったと考える。

これらの学習形態の工夫により、技能の向上だけでなく、仲間と協力して課題を解決しようとする態度の育成につながったと考えられる。

### (3) 指導と評価の進め方について

本単元の指導においては、児童がゲームの中で試行錯誤しながら学びを深めていけるよう、授業者が一方的に正解を示すのではなく、児童の気づきや考えを引き出す関わりを大切にしました。試合や振り返りの場面では、「今のプレーはなぜうまくいったのか」「次はどんな工夫ができそうか」といった問いかけを行い、児童自身が自分たちの動きを言葉で整理できるよう支援した。

また、授業を通して、学習の流れを理解し、見通しをもって行動できているかという点にも留意して指導を行った。活動の切り替え場面では、授業者の指示に頼らずに行動しようとする姿や、仲間と声を掛け合いながら準備を進める姿を積極的に認め、価値付けることで、主体的に学習へ向かう態度の育成を図った。

評価においては、勝敗や得点といった結果だけでなく、

- ・ 作戦を考え、自分の考えを仲間に伝えようとしているか
- ・ 試合中に仲間の動きを見て判断しようとしているか
- ・ 話し合いや振り返りの場で他者の考えを認めているか

といった学習の過程を重視した。これらの姿について、授業中の観察や体育ノートの記述、試合の様子を撮影した映像などを基に総合的に見取った。



#### (4) その他

本実践に関する研究協議では、児童の主体的な学びが多く見られた一方で、今後の授業改善に向けたいくつかの示唆が得られた。

まず、作戦の内容と難易度についてである。作戦会議では、多くの児童が意欲的に意見を出していたが、作戦が抽象的になり、試合中に十分生かしきれない場面も見られた。今後は、どのチームも作戦を立てる際に「どこに打つのか」「誰がどの動きをするのか」といった視点をより明確にし、児童が複数の作戦の中から状況に応じて選択できるような支援が必要であると考えます。

次に、空間の捉え方に関する指導についてである。研究協議では、「なぜ相手のいない場所に打てたのか」「どの位置が効果的だったのか」といった問いを、より丁寧に扱う必要性が指摘された。今後は、映像や図を用いてプレーを振り返ることで、空間の使い方を可視化し、児童自身がその有効性に気付けるような工夫を行っていきたい。

また、作戦を考える時間と技能を高める時間とのバランスについても課題が挙げられた。作戦を重視するあまり、技能面の練習が十分でないと感じる場面もあったため、今後はドリルゲームの内容を精選し、作戦に直結する技能が身に付く構成を意識していく必要がある。

さらに、授業者の関わり方については、児童の考えを尊重する姿勢が評価された一方で、「なぜうまくいかなかったのか」「次はどうするか」といった問い返しを、より焦点化することで、学びを一層深められる可能性が示唆された。

これらの研究協議会での意見を踏まえ、今後は、

○作戦を選択・修正できる学習過程の工夫

○空間認知を高めるための視覚的支援

○技能と戦術が結び付く授業構成

を意識しながら、児童が「考えて動く」体育の実現を目指していきたい。

# 体育科学習指導案

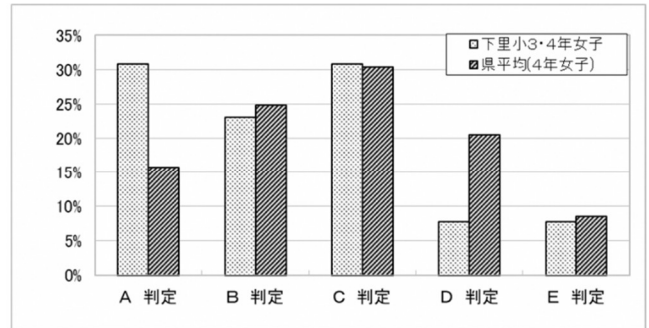
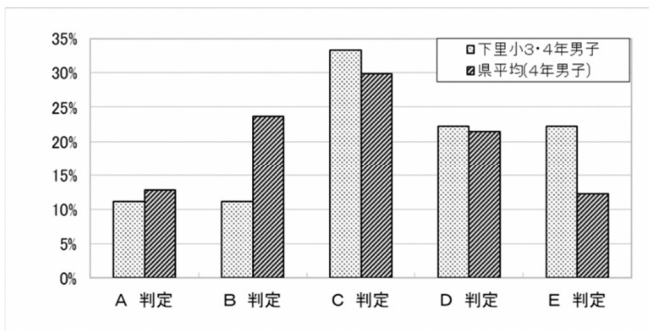
日 時：令和 7 年 1 2 月 1 7 日（水） 13:45～14:30  
 場 所：那智勝浦町立下里小学校 グラウンド  
 学 級：4 年 11 名 3 年 11 名 計 22 名  
 （男子 9 名、女子 13 名）  
 授業者：河野 美麻 TT：森田 倅生

1 単元名 E ゲーム ゴール型ゲーム：サッカー

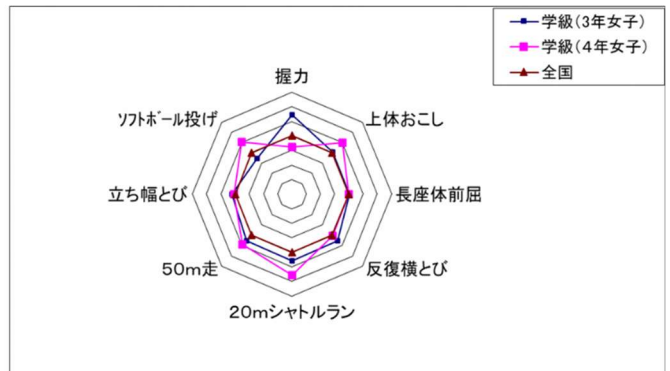
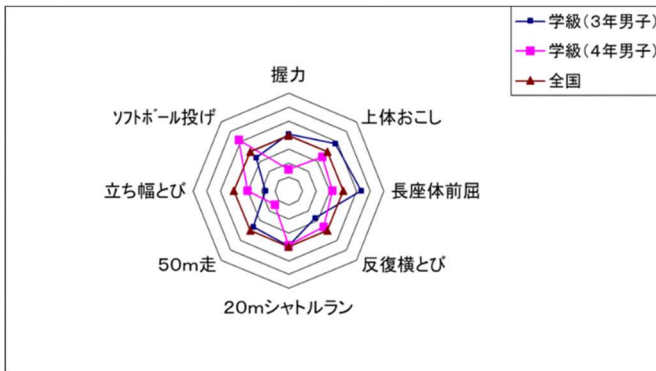
2 児童の実態

〔令和 7 年度児童生徒の体力・運動能力調査結果から見た実態〕

〔グラフ 1〕 判定別割合（男女別）



〔図 1〕 【T スコアによる全国比較図（男女別）】



令和 7 年度新体力テストの結果から

1 学期に実施した新体力テストの結果は、3、4 年生合わせて、A 判定が 5 名、B 判定が 4 名、C 判定が 7 名、D 判定が 3 名、E 判定が 3 名という結果であった。女子児童は、ほとんどの種目で全国平均を上回っているが、男子児童は、平均を下回っている種目が多くなっている。全体的に見ても、決して運動能力が高い集団であるとは言えない。

サッカーに必要な体力要素として、全身持久力や瞬発力、敏捷性が挙げられる。これらは、新体力テストの種目の 20m シャトルラン、立ち幅とび、反復横とびが関係している。結果を見ると、20m シャトルラン、立ち幅とび、反復横とびで、男子が全国平均を下回り、女子は全国平均を上回っている。そのため、本単元の学習を通して、瞬発力や敏捷性を伸ばすことができるようにしていきたい。

### 3 指導にあたって

#### (1) アンケート調査から見えてくる課題

##### 児童アンケート調査

アンケート内容	『はい』	どちらかといえ ば『はい』	どちらかといえ ば『いいえ』	『いいえ』
1.体育学習は好きですか	16	4	1	1
2.体育学習は得意ですか	10	8	3	1
3.今回学習する「ゲーム」は好きですか	16	5	1	0
4.3で「どちらかといえ ばいいえ」「いいえ」と答 えた児童の理由	理由 勝ち負けを勝手に決められるのが嫌だから。			
5.今回学習する「サッカー」は好きですか	4	9	2	7
6.5で「どちらかといえ ばいいえ」「いいえ」と答 えた児童の理由	理由 女子サッカーをしたときにぼろ負けして笑われて嫌になった。 あまりサッカーをしないから。バレーの方が得意だから。 あまり、やったことがないから。(2) あまりしようと思わないから。 好きではないから。 得意じゃないから。 きらいだから。 コケるから。			
7.試合をするとき、チー ムで作戦を立てるのは好 きですか	10	8	2	2
8.7で「どちらかといえ ばいいえ」「いいえ」と答 えた児童の理由	理由 自分の意見を言うのがあまり得意ではない、自分が頑張っ て意見を言っている時、割り込んで話に入ってこられるの が少し嫌だ。 人の意見で自分の行動を決められるのが嫌いだから。 あまり自分がしたいと思う作戦の話ちゃんと聞いてくれ ないから。			

アンケートの結果から、体育学習が好きだと回答した児童は全体の約90%となっており、ほとんどの児童が体育学習について肯定的な考え方をしていることがわかる。野球やバレーなどスポーツ少年団に所属している児童も多く、休み時間にもおにごっこやドッチボールなどをして体を動かすことに前向きな児童も多いため、このような結果になったと考えられる。しかし、体育学習が得意だと思っている児童は全体の約80%となっており、

好きではあるが、得意ではないと感じている児童が数名いることが読み取れる。これは、体育学習中の全体の雰囲気や、自己肯定感の低さなどが原因となっているのではないかと考える。

今回の単元である「ゲーム」が好きな児童は、全体の約95%であるが、サッカーが好きな児童は、全体の約60%と低くなっている。「サッカーが得意ではない」「サッカーが好きではない」「サッカーをあまりしたことがない」などが理由として挙げられていた。さらに、「負けた時に笑われたからいやになった」という理由を挙げている児童がおり、過去の経験からトラウマ的な思いを抱えている児童もいることが分かる。

お楽しみ会や休み時間などに、ドッチボールをすることは多いが、サッカーやそれに関連するような種目をすることはほとんどなく、経験が少ないことが原因にあると考えられる。また、「足で何かをコントロールする」というのは、普段の生活の中であまり経験することがなく、腕や手でコントロールするよりも難易度が高いことである。「足でボールをコントロールしなければならない」というサッカーの特性が、苦手意識を生み出しているのではないかと考える。

また、試合の際に、チームで作戦を立てることが好きだと回答した児童がほとんどであったが、否定的な思いをもっている児童も約20%いることが分かった。その理由としては、「意見を言うのが得意でない」「話をきちんと聞いてもらえない」などがあつた。

#### (1) 課題解決のための学習形態の工夫

本単元では、瞬発力や俊敏性を伸ばすことができるような授業を展開していきたいと考える。また、サッカーの特性を楽しめる易しいゲーム「ラインサッカー」を行い、経験したことがない児童もサッカーに慣れ親しむことができるようにしたい。

また、本校の研究主題である「読み解き、気づき、考える学習活動」を目指し、以下の力をつけさせたいと考える。

##### ◎本単元でつきたい力

- ・自分たちに必要な力を考え、練習メニューを選択する力。
- ・自分の考えを伝え、相手の考えを認める力。

① 準備運動では、けがの防止と柔軟性を高めるために、動的ストレッチを行う。関節の可動域を広げることで、けがの防止だけでなく、蹴ったりシュートしたりという動作を円滑に行うことができるようにしたい。

② 瞬発力や敏捷性を伸ばすことができるよう、ウォーミングアップとして、ボールタッチを取り入れる。繰り返し練習することで、上記能力を身に付けるとともに、ボールの基本的操作の感覚も得ることができるのではないかと考える。また、活動に入る前に心拍数を上げることで、効率よく体を温め、けがの防止につなげることができる。そして、「うまくできない」という意識が、こどもたちのサッカーに対する苦手意識につながっているため、ボールタッチを繰り返し行うことで、「足でボールをコントロールする」という動作に慣れてほしいと考える。

③ サッカーを経験したことがない、あまりと得意ではないという児童が多くいるた

め、基礎的な練習からスタートしていく。試合をする際には、「パスをする」「ドリブルをする」などの動作が必要とされる。これらができないと、「おもしろくない」「やりたくない」という意識につながってしまうので、チームの中で必要な能力は何かを考え、それを伸ばすことができる練習方法を選択していく。また、ゲーム要素を含むようにし、楽しく慣れ親しむことができるようにする。

それぞれの技術練習として、以下のようなメニューを考えた。チームで話し合い、この中から1時間の中で2～4つのメニューを設定するようにする。こどもたちには、これは一例であり、自分たちで練習メニューを工夫してもよいことを伝える。

パスの基礎練習	① 対面パス ② パスアンドゴー ③ 三角パスアンドゴー
ドリブルの基礎練習	① 三角（四角）ドリブル ② コーンドリブル ③ ボールを奪え！ドリブルゲーム
シュートの基礎練習	① ドリブルシュート ② パスアンドシュート
守備の基礎練習	① スピードパス ② 鳥かご ③ 3対2のミニゲーム

④ 授業の最後には、練習試合を行う。最初に立てた作戦を、どれくらい実行できるか、また、その作戦がどれくらい試合において有効であるかを試す。試合後には振り返りの時間を設け、うまくいったところ、うまくいかなかったところを話し合う。そして、次回の授業では、うまくいかなかったところを伸ばすための練習方法を選択する。

⑤ 単元の最後には、サッカー大会を行う。リーグ戦で行い、全てのチームと対戦することができるようにする。試合を行う前には、チームで作戦を立てる。いくつかの作戦をこちらで用意しておき、選択して考えもよいことにする。自分の意見を言うのが苦手な児童でも、発言しやすくするための手立てである。また、「話が聞いてもらえない」「話をしている途中で割り込まれる」というような、話し合いに対する否定的な考えをなくすために、話し合いのときのルールをあらかじめ決めて全体で共有しておく。また、試合前には整列をして「お願いします」、試合後には「ありがとうございました」とあいさつをし、試合の勝敗に関わらず、相手チームにリスペクトの気持ちを持つことができるようにする。

試合のルールは、以下の通りである。

## 【ルール】（5～8時間目）

- ・ 1 試合 5 分
- ・ フィールド 2 人、アシストマン 2 人
- ・ アシストマンは、決められたエリアを出ることはできない
- ・ アシストマンは、手を使っても良い
- ・ パスを受けたところから動くことができない
- ・ シュートを打つのは、ハーフラインを越えてから
- ・ ボールを取るのは、パスカットのみ
- ・ ボールを持っている相手から、1メートル以上離れる
- ・ ボールを外に出したときは、相手ボールとなり、相手陣地のエンドラインからスタート

## （2） 指導と評価の計画における工夫

こどもたちが自ら課題を見つけ、解決するために、以下のような工夫を行う。

### ① 作戦ボードの活用

どのような作戦にするかは、候補案をいくつか提示するが、それに加えて各チームに1つずつ作戦ボードを渡す。

自分たちで駒を動かし、それぞれの児童がどのように動くのか、スペースをどのように活用するのかなど、自分たちの考えを表現しやすいようにする。

また各グループにサッカーカードを配付し、試合でうまくいったところやうまくいかなかったところについて、話し合ったことを記録させるようにする。また、授業後に、どのような作戦を立て、その結果はどうだったのかを、個人でもワークシートに記入し、こどもたちの内面的な学びを捉える。

### ② 役割分担の明確化とローテーション

ゲームに出ない児童に、審判、得点係などの役割をあたえ、チーム全体への貢献意識を高める。また、試合を外から見ることによって、新たな作戦を思いついたり、相手チームのいいところを真似したりすることができるようにする。

また、全員が攻撃、守備を経験できるよう、ポジションは固定せず、試合にごとに交代するようにする。

### ③ 試合のルールを2段階に分ける

3，4時間目で行う試合では、アシストマンはボールをもらったあと、自チームのエリア内であれば動いても良いものとする。また、アシストマンには手でボールを操作することを許可し、手でボール持ったまま移動しても良いこととする。

5，6時間目、最後に行うサッカー大会での試合では、アシストマンは、手でボールを操作しても良いが、「パスをもらったところから動いてはいけない」というルールにする。

そのため、1段階目のルールよりも、アシストマンの立ち位置、アシストマンに渡ったあとのフィールドプレイヤーの動きが重要となる。

アシストマンが手でボールを操作してもよいとすることで、苦手な児童でも前向きに取り組むことができるようにする。

3 指導と評価の計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・【別紙様式参照】

4 本時について

(1) 目標

(知識及び技能)

パスを出したり、シュートをしたりして、ゲームをすることができるようにする。

(思考力、判断力、表現力等)

課題の解決のために考えたことを、友達に伝えることができるようにする。

(学びに向かう力、人間性等)

友達の考えを認めることができるようにする。

(2) 展開 (本時：6/8時)

時間	学習内容・活動 ●予想される児童の発言	○授業者の指導・支援 ☆評価
0	1. 場作り (1分)	
1	2. 本時のめあてを確認する (2分)	
	<p>作戦にあった練習を考え、試合でためしてみよう！</p>	
3	<p>3. グループで活動する (20分)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 作戦、練習メニューを考える。 前時の振り返りを見ながら、本時の作戦、練習メニューを考える。</li> <li>●パスがうまくできなかったから、パスの練習をたくさんしよう。</li> <li>●シュートがなかなか決まらなかったから、シュート練習をしよう。</li> <li>●守り方の練習をしよう。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 準備体操 動的ストレッチを行う。</li> <li>・ ボールタッチ 20秒交代で行う。</li> </ul>	<p>○「前回の試合で、どんなことができなかった?」「どんなことができれば、もっとよくなるかな?」と問いかけをする。</p> <p>☆課題解決のために考えたことを、友達に伝えている。</p> <p>【思考・判断・表現】 (観察、ワークシート)</p> <p>○各チームの練習を見回りながら、具体的に</p>

	23	<p>前タッチ、左右タッチ、インサイドタッチの3種類を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各チームで練習する</li> </ul> <p>決めた練習メニューを行う。</p> <p>それぞれ練習場所を決めておき、自分たちの練習に必要な道具を持っていく。</p> <p>4. 練習試合をする（16分）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1試合5分で行う。</li> <li>2コートで、それぞれ2試合行う。</li> </ul>	<p>アドバイスをする。</p> <p>「ボールを蹴る時は、足のここで蹴るとまっすぐ転がるよ」</p> <p>「ボールをとめたあと、顔を上げてまわりをみてみよう」</p>
ま と め	39	<p>5. 試合を振り返って、チームで話し合う（3分）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>チームの代表者が、振り返りカードに話し合ったことを記入しておく。</li> </ul>	<p>☆課題解決のために考えたことを、友達に伝えている。</p> <p><b>【思考・判断・表現】</b></p> <p>（観察・ワークシート）</p>
	42	<p>6. 全体でいいプレーや、よかったところを共有する。（2分）</p>	
	44	<p>7. 片づけを行う（1分）</p>	

4 指導と評価の計画(小学校用)

単元の目標		知識及び技能	ゴール型ゲーム(サッカー)の行い方を知るとともに、基本的なボール操作とボールを持たないときの動きによって、易しいゲームをすることができるようにする。							
		思考力、判断力、表現力等	規則を工夫したり、ゲームの型に応じた簡単な作戦を選んだりするとともに、考えたことを友達に伝えることができるようにする。							
		学びに向かう力、人間性等	運動に進んで取り組み、規則を守り誰とでも仲良く運動をしたり、勝敗を受け入れたり、友達の考えを認めたり、場や用具の安全に気をつけたりすることができるようにする。							
時	1	2	3	4	5	6(本時)	7	8	授業づくりのポイント	
ねらい	サッカーで用いる基本操作を知る。	サッカーで用いる基本操作を知る。	試合のルールを知り、挑戦する。	自分たちに必要なトレーニングを選択して練習し、試合に生かす。			作戦を選び、サッカー大会を行う。		【主体性を引き出させる工夫】 ・課題解決に向けて、練習メニューを自分たちで選択する。  【運動が苦手な児童への手立て】 ・基本的なボール操作を身に付けられるように、ウォーミングアップとしてボールタッチを取り入れる。 ・試合において、アシストマンは、手での操作を可能とする。  【話し合いの時間の確保】 ・試合前や試合後、練習前などに話し合いをする時間を設け、自分たちの課題を見つけ、改善へつなげていくよう働きかける。	
学習の流れ	1 整列、挨拶 2 めあての確認 3 準備運動(体操、ボールタッチ等)			1 整列、挨拶 2 めあての確認						
	4 単元の学習内容の確認  5 蹴る・止めるなどの基本的動作の練習をする ・4時より行うトレーニングメニューについて、説明を行う。	4 基本的動作の練習をする ・4時より行うトレーニングメニューについて、説明する。	4 試合のルールを説明する  5 試合を行う	3 グループでの話し合い ・自分たちの必要な練習メニューを選択する。 ・前回の試合をふりかえり、できなかったことや作戦に合わせてトレーニングを選択する。  4 グループで活動する ・準備体操、ボールタッチをする ・グループで決めた、練習メニューを行う。  5 練習したことを活かして、練習試合に取り組む			3 試合に向けて、作戦を立てる  4 試合を行う ・5チームでリーグ戦を行う。 ・試合がないチームは、審判や得点係をする。			
本時のふりかえり、片付け、挨拶										
評価機会		1	2	3	4	5	6	7	8	
	知			②	①	③			④	観察
	思						②	①		学習カード・観察
態	⑥		④	③	②	⑤		①		学習カード・観察
単元の評価規準	知	①ゴール型ゲーム(サッカー)の行い方について、言ったり書いたりしている。 ②パスを出したり、シュートをしたりすることができる。 ③空いている場所に素早く動くことができる。 ④アシストマンを生かすことができるパスを出したり、動いたりすることができる。								
	思	①簡単な作戦を選んでいる。 ②課題の解決のために考えたことを友達に伝えている。								
	態	①ゴール型ゲーム(サッカー)に進んで取り組もうとしている。 ②ゲームの規則を守り、誰とでも仲良くしようとしている。 ③用具などの準備や片付けを、友達と一緒にしようとしている。 ④勝敗を受け入れようとしている。 ⑤友達の考えを認めようとしている。 ⑥周囲を見て、場や用具の安全を確かめている。								

※知…「知識・技能」、思…「思考・判断・表現」、態…「主体的に学習に取り組む態度」

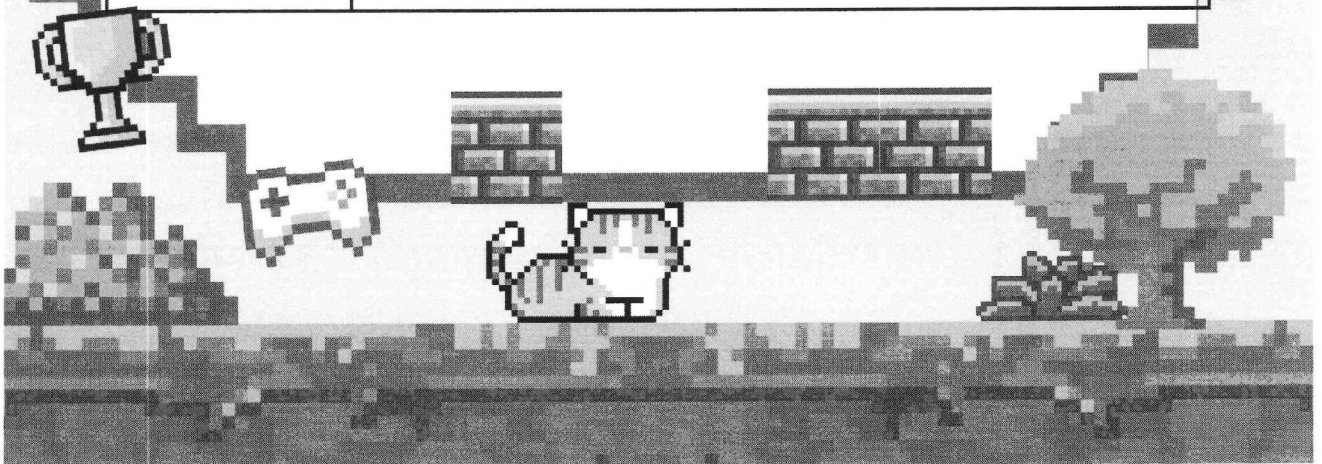
# トレーニング メニュー

パス トレーニング	①対面パス ②パス & ゴー ③三角パス & ゴー
ドリブル トレーニング	①三角（四角）ドリブル ②コーンドリブル ③ボールをうばえ！ ドリブルゲーム
シュート トレーニング	①ドリブルシュート ②パス & シュート
まもる トレーニング	①スピードパス ②鳥かご ③3対2（2対2）のミニゲーム



# サッカーカード

本日の作戦	
トレーニング メニュー	
試合でうまく いったところ	
試合でうまく いかなかった ところ	





## 6 考察（成果と課題）

### （1）児童アンケートからわかる取組の客観的な成果・分析

児童アンケート調査（1名欠席のため、未回答）

	『はい』	どちらかといえば 『はい』	どちらかといえ ば『いいえ』	『いいえ』
1.ゲーム「サッカー」は楽しかったですか。	15	3	2	1
2.ゲーム「サッカー」の学習で上手にできるようになったことがありますか。	9	8	2	2
3.ゲーム「サッカー」の学習で「なるほど。」「そうだったのか。」と感じたことがありますか。	6	11	2	2
4.ゲーム「サッカー」の学習で考えたことを友達に伝えることができましたか。	12	8	0	1
5.ゲーム「サッカー」の学習で友達と協力しあうことができましたか。	13	6	1	1

単元学習前のアンケートでは、「サッカーは好きですか」という質問に対して、「はい」「どちらかといえばはい」と答えた児童が、全体の59%であったが、単元終了後のアンケートにおいて、「楽しかった」「どちらかといえば楽しかった」と答えた児童が、約86%という結果になった。好きではないと答えていた児童も、楽しかったと回答している。「足を使って、ボールを操作する」という動作は、日常生活や遊びの中で行うことが少ないためか、否定的な回答をした児童も多かったが、単元を通して楽しかったと感じた児童が多かった。授業中も、とても楽しそうに取り組む児童の姿が見られた。研究授業後の協議では、『「サッカーが好きではない」と答えた児童がこんなに多くいるとは思えないくらい、みんな楽しそうだった』と意見があった。

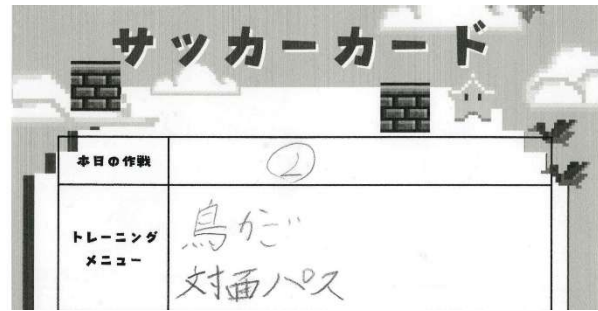
「どちらかといえば楽しくなかった」「楽しくなかった」と答えた児童は、試合のルールが難しかったことや、試合の時に自分たちが考えた作戦通りに周りが動けなかったために、フラストレーションがたまったことなどから、「楽しくない」と考えたのではないかと考える。

また、「学習で考えたことを友達に伝えることができましたか。」という質問に対しては、全体の95%の児童が肯定的な回答をした。話し合いの時間を確保したり、練習メニューを自分たちで考えるようにしたりしたことで、積極的に話し合いに参加することができたのではないかと考える。

## (2) 課題解決のための学習形態の工夫

### ・練習メニューを自分たちで考える

練習メニューを自分たちで考えることによって、サッカーに対して前向きに取り組んでいた児童が多くいた。単元の最初に、「今回は、自分たちで話し合っって練習メニューも考えてもらうよ」と伝えていたので、その時間が始まる前から、「次は自分たちでメニュー考える？」と楽しみにしている児童もいた。中には、家で練習方法をネットで調べてきて、「こんな練習をするといいらしい」とチームに伝えている児童も見られた。



### ・練習を始める前に「ボールタッチ」を取り入れる

今回、グループで練習する前に、「ボールタッチ」を取り入れた。毎時間、繰り返し練習することで、どんどん上達していった。最初に簡単なボール操作を取り入れたことで、「できる」という自信につなげることができていたのではないかと考えるが、運動量を確保するという面では、不十分であったように感じる。協議では、「おにごっこ」や「ドリブルゲーム」など、楽しみながら心拍数を上げられるゲームを取り入れてもよかったのではないかという意見が出た。また、体操、ボールタッチなどに時間がかかってしまい、試合時間を十分に確保できないこともあった。そのため、体操から練習まで、全てをグループ単位で活動するようにした。こどもたちは、時間を見ながら、主体的に動くことができていたのではないかと思う。

### ・試合のコートについて

試合時のゴールは、コーンとコーンの間を通すという形にしたが、ゴールが狭く、シュートコースをなかなか作り出すことができなかつたり、ディフェンスが前に立ってしまうと、どうすることもできなかつたりということが起き、どのチームもあまり点が入らず、0対0で試合が終了することが多かった。ゴールの大きさや、ディフェンスが立つ位置、シュートゾーンを作るなどの工夫が必要であったように感じる。

例えば、「ゴールをエンドラインすべてにする。」「シュートゾーンを作り、そこに入れば、相手は入ることができないようにする。」などのルールを追加することで、たくさん点を取ることができ、「楽しかった」という思いにつなげていけるのではないかと考える。

### ・ 作戦ボード、作戦カードの活用

本時の話し合いを行う際には、試合を通しての作戦をプリントにかき、細かな作戦は口頭で伝え合うようにしたが、うまく言葉にできなかつたり、チームメイトに作戦が伝わってなかつたりということが起きた。研究協議にて、作戦ボードの使用をアドバイスしていただき、その後の試合の際には、作戦ボードを利用し、チームメイトや相手チームに見立てたマグネットを実際に動かしながら作戦を立てるようにした。また、試合後すぐに作戦会議の時間を作るようにした。そうすることで、作戦やそれぞれの場面での一人ひとりの動きが明確になるため、話し合いが以前より活発になり、内容も深いものとなった。



### ・ 基礎練習からスタートする

サッカー未経験者が多くいたため、基礎練習からスタートした。「パスができる」「ボールを止めることができる」能力は、試合をする際に必要となる能力であり、これらができないことが、「おもしろくない」「楽しくない」という思いにつながると考えたからである。練習メニューは、チームで選ぶようにした。上記のように、自分で選ぶことによって、話し合いにも練習にも意欲的に取り組むことができているのではないかと思う。しかし、「自分たちに必要な練習メニュー」を自分たちで判断し、選択できていたかという点、そうではないチームもある。こちらが一つひとつのチームの課題を把握し、アドバイスすることが必要であったと考える。



### ・ 授業の最後に練習試合を行う。

練習の後には、練習試合を行った。自分たちの作戦や練習の成果を試し、できること、できないことを明確にするためである。2試合行い（5チームあるため、2チームは1試合しかできない）、その後に振り返りの時間を設けた。「アシストマンが使いえなかった」「すぐにパスを出せなかった」など、できなかったところをワークシートに記述してい

た。また、次の時間の授業の時には、できなかったことをもとにして、練習メニューを計画することができていた。しかし、それぞれのできなかったことと、練習メニューがうまくリンクしていないチームもあった。



### (3) 指導と評価の進め方について

- ・ チームでの振り返りカードと、個人の振り返りカードを書いた。チームでの振り返りについては試合後に時間を設け、授業時間内に間に合わなかったときは、3、4年生合同で時間を設け、チームで話し合いながらカードを書くようにした。それぞれのチームが自分たちの試合を振り返り、できたこと、できなかったことを考えることができていた。しかし、その振り返りを次の時間の練習メニューを考えることにつなげられていなかったチームもある。そのため、練習メニューまでを振り返りの時点で考えておき、こちらが確認してから授業に取り組むことができればよかったと考える。
- ・ 個人の振り返りについては、自分ができなかったこと、できたことを書くことができていた児童が多くいた。「アシストマンを使えなかった」「焦ってパスできなかった」「素早くパスすることをがんばった」など、試合の中で具体的に何ができて、何ができなかったのかを、くわしく記述していた。しかし、「楽しかった」「勝ててよかった」など、感想で終わってしまっている児童、時間が無くて、慌てて書いている児童などもいた。振り返りを書く時間をどのように確保していくのか考えることも重要であると思った。
- ・ 今回のサッカーの試合のルールは、難しい内容となってしまったように感じている。児童の中には、どうすればいいか考えがあり、「こうしたい」という思いがあっても、自分自身がうまくできなかつたり、チームメイトが思うような動きをしてくれなかつたりということがあった。また、アシストマンのシステムがうまく使えず、「アシストマンをしたら、ボールを触れないからやりたくない」という児童もいた。そのため、基本的なルールは変えず、ボールをみんなが触れることができるようなルールを追加する必要があると感じた。



## 保健体育科学習指導案

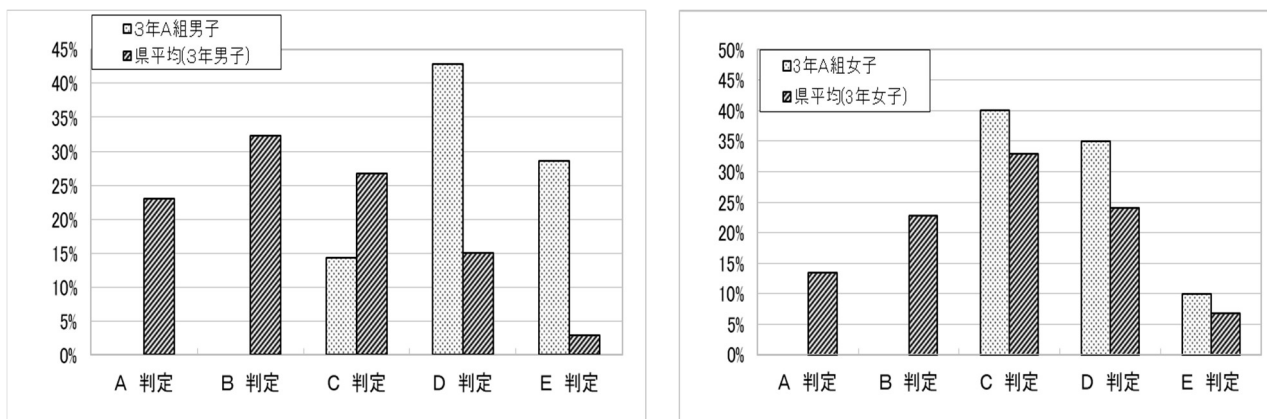
日 時：令和 7 年 1 1 月 1 0 日（月） 1 3：1 5～1 4：0 5  
 場 所：和歌山県立紀北工業高等学校 剣道場  
 学 級：システム化学科 3 年 A 組 2 7 名（男子 7 名、女子 2 0 名）  
 授業者：教諭 朝長 拓也

1 単元名 武道「剣道」

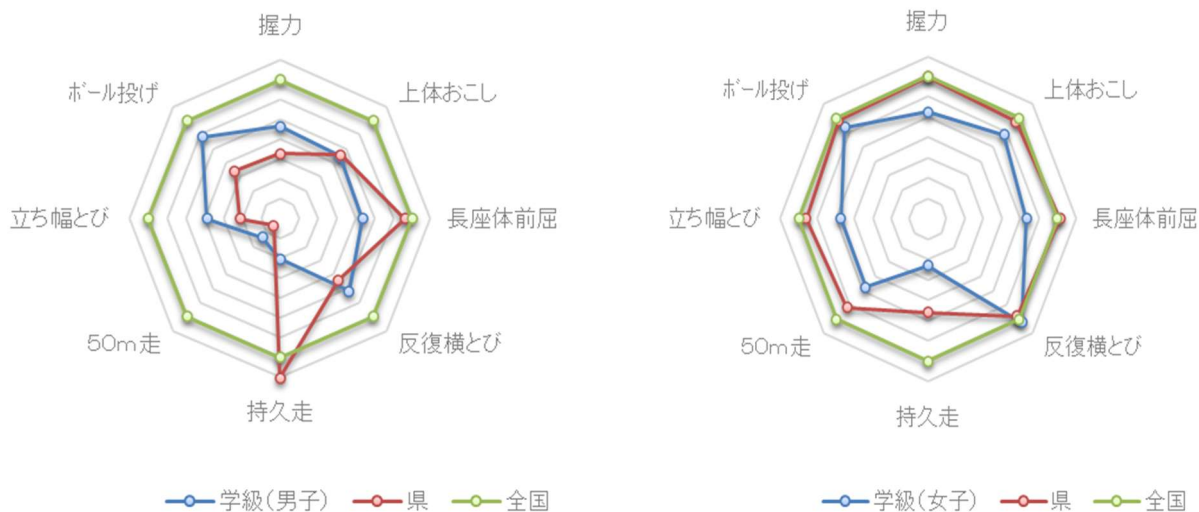
2 生徒の実態・指導にあたって

令和 7 年度体力・運動能力調査結果、アンケート調査から見た実態

〔グラフ 1〕判定別割合（男女別）



〔図 1〕【T スコアによる全国比較図（男女別）】



生徒アンケート調査

アンケート内容	『はい』	どちらかといえ ば『はい』	どちらかといえ ば『いいえ』	『いいえ』
1.体育学習は好きですか	9	1 1	5	2
2.体育学習は得意ですか	5	9	9	4

3.今回学習する「武道」は好きですか	3	1 2	6	6
4.3で「どちらかといえばいいえ」「いいえ」と答えた生徒の理由	理由 ●覚えることが多い。●「球技」の方が好きだから。 ●怪我が心配。●「武道」にあまり興味がない。			
5.今回学習する「剣道」は好きですか	2	1 5	5	5
6.5で「どちらかといえばいいえ」「いいえ」と答えた生徒の理由	理由 ●難しい動きが多く、覚えることが多いイメージ。 ●楽しくなさそう。●運動が苦手。●正座が苦手。			

(1) 令和7年度体力・運動能力調査結果、アンケート調査から見えてくる課題

- ・〔グラフ1〕を見ると、今回授業を行うクラスは、AB判定がなく、DE判定が県平均値よりも高く、県内の生徒と比較しても、体力・運動能力が低いことがわかった。
- ・〔図1〕は、男女ともにすべての種目において全国平均値を下回っていたこと、県平均値を上回る種目も少ないことがわかった。
- ・生徒アンケート調査結果では、「1. 体育学習が好きですか」という質問に対し、『はい』、どちらかといえば『はい』と回答した生徒は、27名中20名で、次に「2. 体育学習は得意ですか」の質問には、『はい』、どちらかといえば『はい』と回答した生徒は、27名中14名だった。

調査結果から見えてきたことは、今回授業を行うクラスの生徒たちは、体力・運動能力が低いだけで、決して体育学習が嫌いや不得意ではなく、運動や体力向上の仕方がわからない、運動の楽しさや喜び方がわからない生徒が多いということがわかった。

- ・生徒一人ひとりの人格を尊重し、様々な運動の仕方に挑戦させ、運動の楽しさや喜び方など、授業者が積極的な指導や声かけをしていくことが課題である。

(2) 課題解決のための学習形態の工夫

- ・現状を踏まえ、主体的・対話的な学びを通して、運動の興味や関心がもてる日々の授業展開、個々に応じた目標設定がしやすい学習カードの活用、積極的にグループワークを取り入れるなど、生徒が運動の楽しさや喜び、生涯スポーツの大切さを生徒たちが実感しやすい学習形態の工夫に取り組んでいきたい。

(3) 指導と評価の計画における工夫

- ・剣道授業において、同じ運動や基本動作・礼法などを毎回反復練習することで、互いに打ち合う攻防の展開の中から有効打突を求め、相手の人格を尊重し、剣道の楽しさや特性、礼法の大切さを学ばせ、日本文化の良さや人間力の育成、運動量の確保および、仲間と教え高められる指導と評価の計画をしていきたい。

なお、指導と評価の計画については、はじめて剣道授業を実施することから学習指導要領おける入学年次の内容を基にしている。

3 指導と評価の計画																					
単元の目標	知識及び技能	剣道の特性や成り立ち、伝統的な考え方、技の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、相手の動きに応じた基本動作や基本となる技を用いて、打ったり受けたりするなどの簡易な攻防をすることができるようにする。																			
	思考力、判断力、表現力等	基本となる動作や技について、自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向け、運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えることができるようにする。																			
	学びに向かう力、人間性等	剣道に自主的に取り組むとともに、伝統的な運動の仕方を守り、相手を尊重し、一人ひとりに応じた課題や挑戦を大切にしようとするこ、健康や安全を確保することができるようにする。																			
時間	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	授業づくりのポイント			
ねらい	剣道の特性を知る。		礼法や基本動作を知り、積極的に取り組む。			相手の動きに応じた、基本打突を身につける。					安全に剣道具を着けることができる。			相手を尊重し、試合を楽しむことができる。		・三つの資質・能力の内容をバランスよく指導していく。 ・健康と安全を確保し、礼法や伝統的な考え方を重視して指導していく。 ・授業を振り返り、知識や技能の定着および動き方や考え方などを、学習カードの活用やグループワークを取り入れ、整理をしていく。 ・毎時間、剣道の特徴である動きがスムーズに行えるよう、積極的に声かけをしながら、知識と技能を関連させた指導をしていく。					
学習の流れ	0	集合、挨拶 健康観察 本時学習の見通しの確認 柔軟・準備運動																			
	10	オリエンテーション	剣道の歴史	礼法 竹刀の安全確認 足さばき			礼法 竹刀の安全確認 素振り 足さばき														
	20	剣道に関連する体ほぐしの運動	礼法・足さばき	(素振り・基本動作・礼法・発声・構え方・間合い)			(打ち込み・基本動作・突手・胴打ち)			(基本動作・打突・竹刀で受ける)			着装(垂・胴)		着装(垂・胴・小手)		着装(垂・胴・小手・面)				
	30			(素振り・基本動作・礼法・発声・構え方・間合い)			(打ち込み・基本動作・突手・胴打ち)			(基本動作・打突・竹刀で受ける)			(踵・基本動作・踏込み・残心)		(基本動作・打突・竹刀で受ける)		(既習技の練習)		(グループ練習)		
	40			(素振り・基本動作・礼法・発声・構え方・間合い)			(打ち込み・基本動作・突手・胴打ち)			(基本動作・打突・竹刀で受ける)			(踵・基本動作・踏込み・残心)		(基本動作・打突・竹刀で受ける)		(既習技の練習)		(グループ練習)		
50	(素振り・基本動作・礼法・発声・構え方・間合い)			(打ち込み・基本動作・突手・胴打ち)			(基本動作・打突・竹刀で受ける)			(踵・基本動作・踏込み・残心)		(基本動作・打突・竹刀で受ける)		(既習技の練習)		(グループ練習)					
50	本時学習のふりかえり・健康観察・次時の確認																				
評価機会		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	評価方法		
	知		(①)		①				(②)	②									総合的な評価		
	技			(①)		①		(②)			②			(③)	③						
	思									①							②				
態			(①)	①		(③)					(②)					②	③				
単元の評価規準	知	①武道を学習することで、自国の文化に誇りをもつことや、礼法の大切さ、国際社会で生きていく上で有意義であることを言ったり書きだしたりしている。 ②それぞれの技を身につけるための技術的なポイントがあること具体例を挙げている。																			
	技	①足さばき、素振りでは、体さばきや竹刀操作を用いながら、スムーズに行うことができる。 ②構えでは、相手の動きの変化に応じた自然体で中段に構えることができる。 ③適正な姿勢で、基本となる技を打つことができる。																			
	思	①仲間を尊重するなどの伝統的な行動をする場面、よりよい所作について、自己や仲間の活動を振り返っている。 ②自己や仲間の技術的な課題や課題解決に有効な練習方法の選択について、自己の考えを伝えている。																			
	態	①仲間を尊重し、伝統的な行動の仕方を大切にしようとしている。 ②武道(剣道)の学習に自主的に取り組もうとしている。 ③健康や安全を確保している。																			

※知…「知識」、技…「技能」、思…「思考・判断・表現」、態…「主体的に学習に取り組む態度」

#### 4 本時について

##### (1) 目標

(知識及び技能)

- ・ 剣道の特性や伝統的な考え方、技の名称や行い方など、運動に関連して高まる体力などを理解することができるようにする。
- ・ **適正な姿勢で、基本となる技を打つことができるようにする。**

(思考力、判断力、表現力等)

- ・ 安全上の留意点を学習場面であてはめ、合理的な解決に向けて運動の取り組みを工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えることができるようにする。

(学びに向かう力、人間性等)

- ・ 剣道に自主的に取り組むとともに、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守ろうとすることができるようにする。

##### (2) 展開 (本時：13 / 17時)

	学習内容・活動	○授業者の指導・支援 ☆評価
導 入	1. 集合、挨拶 (座礼) 2. 本時の学習内容と課題の確認 3. 柔軟・準備運動 4. 竹刀の安全管理	○健康観察、服装確認をする。 ○本時の活動や前回までの振り返りについて確認をする。 ○号令をかけながら、入念に柔軟・準備運動を行うようにする。 ○各自で竹刀の点検を行うようにする。
展 開	5. 立礼・素振り (上下、左右、正面、跳躍) 6. 足さばき (すり足) 7. 着装 (垂、胴、小手) 8. 基本打突 (面・小手・胴) 9. 連続技 (面胴・小手面・小手面胴) 10. 応じ技 (面に対して)	○立礼後、前進後退素振りを実践させるようにする。(各素振り5本) ○中段の構えで、前進後退すり足、剣先を合わせたすり足を実践するようにする。 <b>☆適正な姿勢で、基本となる技を打つことができる。</b> ○安全に留意し、連続技や応じ技に挑戦させ、自己の考えを相手に伝えられるようにする。
ま と め	11. 後片付け 12. 本時のまとめ・次時の確認 13. 挨拶 (座礼)	○怪我の有無を確認する。 ○授業の取り組みの総括、次時授業について確認をする。

## 5 考察（成果と課題）

### （1）生徒アンケートからわかる取組の客観的な成果・分析

#### 生徒アンケート調査

アンケート内容	『はい』	どちらかといえば 『はい』	どちらかといえ ば『いいえ』	『いいえ』
1.「武道・剣道」は楽しかったですか。	16	8	2	1
2.「武道・剣道」の学習で上手にできるようになったことがありますか。	11	10	5	1
3.「武道・剣道」の学習で「なるほど。」「そうだったのか。」と感じたことがありますか。	14	8	4	1
4.「武道・剣道」の学習で考えたことを友達に伝えることができましたか。	6	12	4	5
5.「武道・剣道」の学習で友達と協力しあうことができましたか。	14	8	3	2

「武道・剣道」の単元学習終了後、アンケートを実施し、大半の生徒が「楽しかった」や「上手にできるようになった」と回答した。「体力・運動能力調査において、Tスコアが全国平均よりも低い」や「体育学習があまり好きではない」など、体育授業に前向きになれない生徒が多い集団ではあったが、剣道授業が進むにつれ、運動の楽しさや喜び方などを多く体験できたことが、今回のアンケート結果につながったと考える。また、同じ運動や基本動作・礼法など、毎回反復練習を実施したことで、自分が上手くなっていることを体感し、友達に「伝える」や「協力し合う」などを積極的に挑戦することにつながったのではないかと考える。さらに、大半の生徒が、武道「剣道」の授業に対して、決して否定的ではないこと、運動の仕方や特性、楽しさや喜び方、伝え方などがわかれば、仲間とともに楽しく、一緒に課題を解決しながら、取り組めることもわかった。特に防具を着装する授業では、友達同士で声かけや補助をしながら、装着している姿がとても印象的であった。

課題としては、「剣道」に対して、クラス全員が肯定的でなかったことである。この結果を踏まえ、授業者が仲間と教え高め合える授業の追求、武道の良さをもっと伝えられる授業展開の創意工夫が必要と考える。

## (2) 課題解決のための学習形態の工夫

### ① 毎時間の剣道文化や知識や安全面の工夫

単元開始当初から、剣道文化や礼法や基礎・基本の大切さについて、生徒に毎時間声かけをしながら、知識や技能の向上に努めた。また、季節による環境変化にも、迅速に対応し、学習形態を工夫したことで、生徒は状況に応じて、授業者に質問したり、生徒間で話し合ったりするなど、剣道授業を楽しみにしている生徒が増えた。

### ② 毎時間の反復練習

剣道授業に興味がない生徒に意見を聞くと、「難しい」、「痛い」、「怖い」などの意見が大半だったので、毎時間基礎・基本の反復練習を取り入れ、「自分でもできた」という自覚や自信がつく授業展開の工夫をした。結果、学びに向かう意欲が向上したように感じている。

### ③ 剣道の特性について

剣道は、相手に対してのレスペクトや礼法の大切さなどが重要な競技である。剣道場の入退室時や相手に対しての礼、思いやりの精神など、授業内で人間形成の育成につながる指導も授業者が声かけや実技を通して学ばせることができた。特に、剣道授業に興味があまりない生徒に対しても、粘り強く指導することができた。

### ④ 挑戦

一人ひとりの違いに応じた課題や挑戦を認め、場所や用具の安全に留意し、自分で剣道具の着装ができるように、「声かけ」を徹底した。結果、友達同士での声かけや教え合いをしながら取り組むことができ、クラス全員が一人で防具を着装することができた。

### ⑤ 約束練習・簡易な判定試合

剣道における基礎・基本動作の楽しさや難しさを理解し始めた頃から、対人競技のルールやマナー指導を再度徹底した。理由は、安全面に緊張感を持たせることで、勝敗に限らず、一人ひとりが怪我無く、相手を思いやる気持ちの育成につながると考えたからである。

### ⑥ 「学習カード」・「振り返りシート」の活用

「学習カード」・「振り返りシート」を生徒に記入させるようにし、現段階の自分の剣道に対する思いや悩みなどを共有することで、授業展開の工夫に繋げることができた。授業の主役は、生徒なので、仲間の思いや悩みを真摯に受け止めている姿がとても参考になった。

武道「剣道」 学習カード									
3年 (SC・E・MA・MB) 組 ( ) 番 ( )									
10	月	20	日	月	曜日	5	限目		
体調： <input type="checkbox"/> 良い <input type="checkbox"/> 普通 <input type="checkbox"/> 悪い									
本時の目標									
一人で着装（垂、胴、小手）を5分以内でできるようになろう。									
自己評価 *ABCのどれかに○をすること。									
①道場へのあいさつや礼法ができましたか。					A・B・C				
②相手を尊重し、活動ができましたか。					A・B・C				
③安全に気を配り、活動ができましたか。					A・B・C				
④進んで学習に取り組めましたか。					A・B・C				
⑤技能の向上を実感できましたか。					A・B・C				
⑥今日の活動を日常生活に活かせますか。					A・B・C				
R7剣道授業 個人振り返りシート (1学期)									
学年・クラス・番号			( )年 ( SC・E・MA・MB )組 ( )番						
氏名									
自己評価 (どれかに○)			A	B	C				
自己評価理由を書いて下さい。									
2学期の剣道授業に向け、あなたのこれからの取り組み方や意気込みを書いて下さい。									

(3) 指導と評価の進め方について

単元目標や学習の流れを意識し、指導と評価の計画を立てた。毎時間、生徒が楽しく授業に取り組める工夫や、見学者も参加できる授業展開などを特に意識した。全体的にうまくいかない時期もあったが、学習カードや授業観察を生かし、粘り強く指導した結果、徐々に生徒一人ひとりの意識の変化があらわれ、学びに向かう意欲が向上したように思う。また、友達同士で声かけやアドバイスをし合う光景が徐々に増え、生徒の実態に合った授業展開を進めることができた。また、評価においても、生徒が授業で身に付いた力を適切に「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3観点で評価することもできた。

公開授業後の研究協議では、参加して頂いた中・高・特別支援学校の教員より授業内容や課題、共生に関する視点から、男女共習できていたこと、できていなかったことなどについて協議してもらい、今後、授業で工夫できるポイントをたくさん学ぶことができた。また、和歌山大学教育学部村瀬教授より、「生涯スポーツへの資質・能力」や「共同体感覚」、「生徒達の互惠性」や「誰とでも関わり合えるように指導することが大切」だということについてご指導を頂いた。今後の授業に生かしていきたい。

## 体育科学習指導案

日 時：令和 7 年 12 月 11 日（木） 13：25～14：10  
 場 所：和歌山県立きのかわ支援学校 体育館  
 学 級：小学部 知的障害 第 3、4 年 19 名  
 授業者：教諭 新家 一輝

1 単元名 ボール運動「ボールを使った運動やゲーム」

2 指導にあたって

(1) アンケート調査、昨年度の取り組み（ボール運動）から見えてくる課題

児童アンケート調査（18名）※1名未実施

アンケート内容	『はい』	どちらかとい えば『はい』	どちらかといえ ば『いいえ』	『いいえ』
1. 体育は好きですか？	11人	6人	1人	0人
2. 体育は得意ですか？ (身体を動かすことは 得意ですか？)	14人	2人	1人	1人
3. 2で「どちらかといえば いいえ」「いいえ」と答えた児 童の理由 教師聞きとり	(理由) ・(ボールで) 捕るのと当てられるのが苦手。 ・疲れるから。			
4. ボールをつかった運動は 好きですか？ (ボールのイラスト入り)	15人	3人	0人	0人
5. ボールを つかって 投げる、捕る、蹴るの 運動は好きですか？ (動作のイラスト入り)	15人	1人	0人	2人
6. 5で「どちらかといえ ばいいえ」「いいえ」と答えた児 童の理由 教師聞きとり	(理由) ・当てられるのが苦手。 ・投げるのが嫌。			
7. 投げる、捕る、蹴る どれを頑張りたいですか？ (動作のイラスト入り)	・投げる（10人） ・蹴る（6人） ・捕る（2人）			

体育学習に関するアンケート調査では、実施した18名全員が「体育が好き」「どちらかといえば好き」と答えており、体を動かすことへの前向きな気持ちがうかがえた。ボールを使った運動についても「好き」「どちらかといえば好き」と18名全員が回答しており、活動への好意的な意識が高いことが分かった。一方で、「当てられるのが苦手」「投げるのが嫌」「疲れる」といった理由から、苦手意識や不安を示す児童も一部見られた。「投げる・捕る・蹴る」のうち、頑張りたい動きを尋ねた質問では「投げる」を選んだ児童が10名と最も多く、次に「蹴る」が6名、「捕る」は2名であった。捕球動作に対して苦手さや抵抗感がある一方で、「投げる、蹴る」といった動きへの肯定的な回答を示していることがうかがえた。

昨年度は、投げる・捕る・避ける動きを取り入れた「中当てゲーム」に取り組み、主に投げる活動を中心に実施した。投げ方にぎこちなさが見られる児童や、下から投げる児童も複数見られた。捕る動作に関しては、ボールに対する怖さを取り除くよう、受け止めやすさを意図として柔らかいボールを使用しても難しさが見られる児童もおり、避けてしまう様子も観察された。

今年度は、新たに「蹴る」動きを取り入れた活動に初めて取り組む。アンケートでも6人の児童が「蹴ることを頑張りたい」と答えており、児童の意欲を活かしながら、ボールを扱う基本的な動きを楽しく身に付けていけるような授業づくりを目指していきたい。

以上のことから、体育やボール運動に対して全体的には好意的な意識がある一方で、苦手意識や不安を感じる児童も見られる。ゲーム感覚を取り入れるなど、楽しみを感じながら少しずつ慣れていけるような活動を工夫し、勝敗にこだわらず楽しめる学習環境を整えていくことが重要だと考える。また、児童が達成感や楽しさを実感できる内容を段階的に設定し、自信をもって取り組めるようにしたいと考える。

## (2) 課題解決のための学習形態・教材の工夫

アンケート結果や昨年度の様子から、本單元における児童の実態は、勝敗にこだわったり、ボールを当てられることに敏感であったりして、不安や苦手意識を抱きやすく、自信をもちにくい傾向があると見られる。捕る動作においても、柔らかいボールであっても捕球動作に難しさを感じて避けてしまう児童が見られることから、活動に安心して参加できるよう、心理的ハードルを下げることが重要であると考え。そこで、学習形態として、まずは勝ち負けに直結しない的当てなどの活動から始め、協力型のルールを導入して成功を仲間と共有し、みんなで喜んだり、達成感を感じられたりする環境づくりを重視する。また、実態に応じて柔らかいボールから徐々に硬さのあるボールへと変更したり、活動の広さや距離を調整したりするなど、段階的に取り組むことができる学習環境を設定し、安心して活動に取り組めるようにする。最終的には、これまでに身に付けたすべての技能を生かして行うキックベース型のゲームに取り組む。ルールは児童の実態に応じて工夫し、チーム全員が活躍できるように守備の人数や得点方法を調整することで、「できた」「楽しい」と感じられる場面を設定する。

教材面では、児童が活動に興味を持ち、成功を実感しやすい工夫を行う。例えば、的に当たった際に鈴が鳴るようにしたり、入ったことが視覚的にわかる仕掛けを設定したりすることで、「できた」という実感につなげ、挑戦し続ける意欲の向上を図る。

さらに、「投げる・捕る・蹴る」の活動の際は、児童を3つのグループに分け、児童同士の関係性や活動への意欲を踏まえて構成することで、安心して活動に取り組める集団づくりを行う。特に、各グループにリーダーシップを発揮できる児童を配置し、仲間を支え合う雰囲気を作る。また、グループごとに教員1名を配置することで、小集団の中で細やかな支援を行い、安心して挑戦できる形態を整える。

活動後のグループ（チーム）の振り返りでは、教員が児童の頑張っていた点や良かった点を具体的に伝え、児童一人ひとりが自分の取り組みを肯定的に捉えられるようにする。また、振り返りシートを活用することで、自己評価や友達の良いところへの気づきにつなげ、友達と共に楽しみを共有できるようにする。

教師は動作を視覚化した提示や即時評価で児童への承認を行い、「またやってみよう」という意欲を高める。また、負けたり当てられたりして気持ちが不安定になる場面では、その思いを受け止め、次への工夫を一緒に考えることで立ち直りや次回への意欲につなげる支援を行う。

これらの支援や取り組みを通して、児童が安心感をもちながら成功を重ね、自信を育てつつ活動に喜びを見いだせるようにしていきたいと考える。

### （3）指導と評価の計画における工夫

本単元の指導と評価における工夫としては、児童が勝敗や当てられることに敏感で、不安や苦手意識を抱きやすいという実態を踏まえ、安心して挑戦できる学習環境を整えることを重視する。児童一人ひとりが「できた」「やってみよう」という気持ちをもてるよう、活動内容や目標をわかりやすく示し、評価の観点を児童にも共有することで、自らのめあてを意識して主体的な学びを促す。また、教員は「失敗しても大丈夫」「次はこうしてみよう」といった前向きな言葉かけを行い、挑戦を受け止めながら安心して取り組める雰囲気をつくる。

知識及び技能の観点では、「投げる・捕る・蹴る」などの基本動作のポイントを示し、段階的に経験しながら身につけられるようにする。また、活動後の振り返りでは、振り返りシートを用いて児童のできたことを見つけて自信につなげたり、うまくいかなかった場合は次にどうするかを考えたりできるようにする。キックベース型のゲームでは、これまでの学びで身に付けた基本動作を活かして取り組めるように指導及び評価をする。

思考力、判断力、表現力等の観点では、ねらう方向や力の入れ方などについて児童が自ら考え、試行錯誤しながら実践できる場を設ける。グループでの振り返り等を通して、友達の良さに気づき、伝え合うことで、互いの考えを尊重して学び合いを深める。

学びに向かう力、人間性等の観点では、「友達といっしょにやってみよう」という気持ちを大切に、友達と支え合いながら活動に取り組む姿勢を育てる。活動を通して、友達の頑張りを認めたり、困っている友達に声をかけたりするなど、互いを思いやる行動を引き出していく。また、活動中のやりとり等を通して、友達と共に成長を感じ取り、運動を通じて協調性や思いやりといった人間性を育てていく。さらに、前回の取り組みを踏まえ、今回は児童自身が「自分のめあて」をもって粘り強く挑戦する過程を大切にする。挑戦の過程そのものを評価し、努力を認めていくことで、「自分の力でできるようになった」という実感を高め、学びの意欲を継続できるようにする。こうした学びの積み重ねを通して、

児童が技能の習得だけでなく、考え方や気付きを次の活動に生かすことができる深い学びへとつなげていく。

教師間では、評価チェックリストや活動の記録を共有し、授業後の振り返りで児童の変化や課題を多面的に見取りながら、次時の指導改善につなげる。これらの工夫を通して、児童が安心感をもって活動に参加し、自ら考え、友達と関わりながら主体的に学びを深め、運動の楽しさと達成感を味わえることを目指していく。

3 指導と評価の計画														
単元の目標	知識及び技能	教員の支援を受けながら、楽しくボールを使った基本的な運動やゲームをすることができるようにする。												
	思考力、判断力、表現力等	ボールを使った基本的な運動やゲームに慣れ、その楽しさや感じたことを表現することができるようにする。												
	学びに向かう力、人間性等	簡単なきまりを守り、友達とともに安全に楽しく、ボールを使った基本的な運動やゲームをしようとするようにする。												
10 時	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10(本時)	11	授業づくりのポイント		
ねらい	・ボールに親しむ。	・ボールの投げ方を知る。	・投げるポイントを知り、実践する。	・ポイントを意識し、狙ったところに強く投げる。	・ボールの捕り方を知り、体の正面で捕る。	・蹴り方のポイントを知り、ねらった方向に蹴ったり、強く蹴ったりする。	・ゲームのルールや約束を知る。	・守るところや蹴る方向・強さを考えて、ゲームをする。 ・友達を応援する。	・できたことや頑張ったことをふりかえる。	・実態に応じて柔らかいボールから徐々に硬さのあるボールへと変更したり、活動の広さや距離を調整したりするなど、段階的に取り組むことで、安全で安心感のある学習環境を構築していく。 ・的当てでは鈴をつけたり、当たって倒れたり、入ってボールがなくなったりと聴覚的、視覚的にわかる仕掛けを設定することで、「できた」という実感を持てるようにする。 ・ふりかえりシートを活用することで、自己評価や友達の良いところへの気付きにつなげ、友達と共に楽しみを共有できるようにする。 ・教員は「失敗しても大丈夫」「次はこうしてみよう」という前向きな言葉かけを行い、安心して挑戦できる雰囲気をつくる。 ・成功体験と次への意欲を積み重ねられる段階的な活動を設定する。 ・授業者は動作を視覚化した提示や即時評価を行い、「またやってみよう」という意欲を高める。				
学習の流れ	0	1 挨拶、本時の予定・ねらいの確認 2 準備運動(屈伸、腕回しなど)												
	5	3 単元の学習内容・約束の確認			3 感覚づくりの運動・ポイントの確認 (紙鉄砲、キャッチボール、なげっこ・けりっこゲーム等を個人やペア、グループで取り組む)				3 ポイントの確認(投げる・捕る・蹴る) ルール・約束の確認					
	15	4 感覚づくりの運動 ・新聞紙ボールで遊ぼう 5 試しのボールを使った運動 ・遠くへ投げよう ・遠くへ蹴ろう	4 的当てゲーム ○音がなる的(的当て・玉入れ) ○倒れる的 ○フラフープ的 ・ルールの説明 ・3グループに分かれてゲーム(5分交代で各的をまわる) ※第3時、4時と段階的に難易度をあげる。	4 キャッチゲーム ○かごでキャッチ ○転がしキャッチ ・ルールの説明 ・3グループに分かれてゲーム(5分交代で各的をまわる)	4 蹴り蹴りゲーム ○ゴールを決めよう ○的を倒そう ○間を通そう ・ルールの説明 ・3グループに分かれてゲーム(5分交代で各的をまわる)	4 キックベースをしよう(試合①) ・教員が見本を示す ・チームの目標を決める ・試合をする ※1回目なので、教員がかごにボールを入れる役割をする	4 キックベースをしよう(試合②) ・チームの目標を決める ・試合をする	4 キックベースをしよう(試合③) ・チームの目標を決める ・試合をする	4 キックベースをしよう(試合④) ・チームの目標を決める ・試合をする					
	35	5(6) グループでのふりかえり・本時のまとめ・片付け、挨拶											6 単元のふりかえり、片付け、挨拶	
45														
評価機会	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10(本時)	11	評価方法		
	知	①	①	①	①	①	②	②	②			観察・振り返りシート		
	思		②	①②	①②	①②	①②	①②	①②	①②	①②	①②	観察・振り返りシート	
態			①②	①②			①②	①③	①③	①③	①③	観察・振り返りシート		
単元の評価規準	知	①ボールを投げる・捕る・蹴るなどの基本的な運動や動作を知り、身につけている。 ②教員の支援を受けながら、ルールに沿ってボールを投げたり、捕ったり、蹴ったりしてゲームをすることができる。												
	思	①ボールの強弱やどの方向に投げたり蹴ったり、守ったりするかを考えて行動している。 ②ボールを使った運動やゲーム活動を通して「楽しい」「できた」「やってみよう」との気持ちや、言葉や選択肢から表現している。												
	態	①ゲームのルールや約束を守って、活動しようとしている。 ②安全に気を付けて、活動している。 ③活動中に友達を応援したり、終わったあとに拍手や声をかけたりするなど、仲間と一緒に楽しもうとしている。												
※知…「知識・技能」、思…「思考・判断・表現」、態…「主体的に学習に取り組む態度」														

#### 4 本時について

##### (1) 目標

(知識及び技能)

・教員の支援を受けながら、楽しくボールを使った基本的な運動やゲームをすることができるようにする。

(思考力、判断力、表現力等)

・ボールの強弱やどの方向に投げたり蹴ったり、守ったりするかを考えて行動している。  
 ・ボールを使った運動やゲーム活動を通して「楽しい」「できた」「やってみたい」などの気持ちを、言葉や選択肢から表現することができるようにする。

(学びに向かう力、人間性等)

・ゲームのルールや約束を守って、活動することができるようにする。  
 ・活動中に友達を応援したり、終わったあとに拍手や声をかけたりするなど、仲間と一緒に楽しむことができるようにする。

##### (2) 展開 (本時：10 / 11時)

	学習内容・活動	○授業者の指導・支援 ☆評価
導入	※授業前にチーム表を見てビブスを着用する 1 始まりの挨拶 本時の予定 ねらいの確認	○姿勢や視線に注意しながら、授業の始まりを意識できるようにする。 ○内容とめあてを確認し、見通しを持つるようにする。
	めあて：守るところや蹴る方向・強さを考えて、キックベースをしよう。 友達を応援しよう	
展開	2 準備体操 3 ポイントの確認 (投げる・捕る・蹴る) キックベースのルール・約束確認	○伸ばす部位を確認しながら取り組むようにする。 ○投げる・捕る・蹴る動作のポイントを白板に掲示し、確認する。 ○白板にキックベースのルールと約束を掲示し、確認する。
	4 試合 ・打順、守備のグループを知る ・チームの目標を確認する ・整列し、挨拶する ・試合をする ・整列し、挨拶する	○T1、T2はチームごとに配置する。主指導が審判と笛の合図をする。 ○試合中は良かった点やめあて、約束等を伝え、児童が意識して行動できるようにする。 ☆ボールの強弱やどの方向に投げたり蹴ったり、守ったりするかを考えて行動している。(思考力、判断力、表現力等)

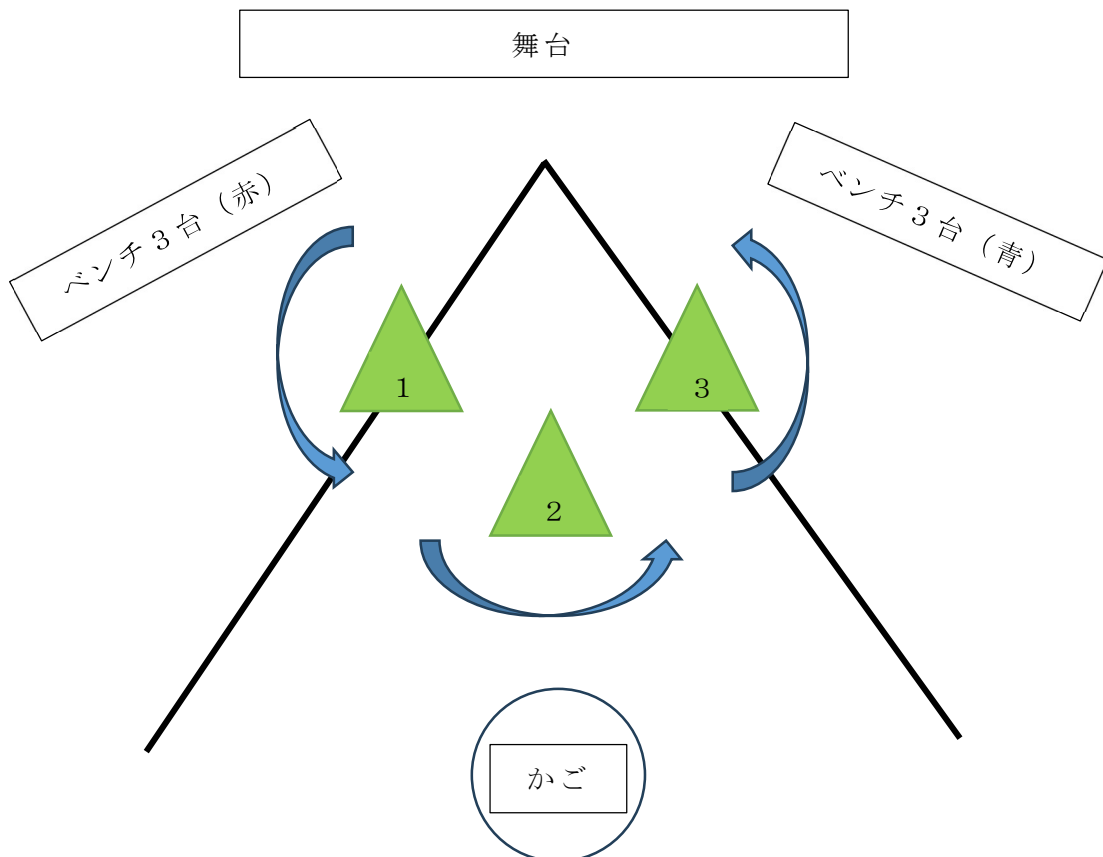
	5 ふりかえり	<p>☆活動中に友達を応援したり、終わったあとに拍手や声をかけたりするなど、仲間と一緒に楽しもうとしている。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>○教師がフィードバックを行い、努力や良かった点を具体的に伝えることで、児童一人ひとりが自分の取り組みを肯定的に振り返り、達成感を実感できるようにする。</p>
まとめ	<p>6 まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・感想を発表する</li> </ul> <p>7 終わりの挨拶</p>	<p>○チーム目標やめあての達成度を聞き取る。感想を聞く。</p> <p>○次回の予定を伝え、終わりが意識できるように挨拶を促す。</p>

(3) 準備物

- ・ホワイトボード2つ ・ソフトバレーボール ・かご ・ビブス2色
- ・椅子6台 ・キックベースのルール、約束表 ・チーム目標ボード2つ
- ・コーン3つ ・「投げる・捕る・蹴る」ポイントの確認表

5 学習資料 (添付)

【キックベース配置図】



### 【キックベースのルール】

- ・攻撃は3人ずつ交代する
- ・守備はボールをカゴに入れるとアウト
- ・ボールがかごに入るまでのコーンを回った数が点数になる
- ・守備につけるのは3人（チームで交代しながら守る）
- ・審判は教員が行う（アウト時に笛を鳴らし、得点を発表する）
- ・試合は6回裏まで行う
- ・捕る人は円の中から出ない。

### 【キックベースの約束】

- ・失敗しても大丈夫
- ・友達を応援しよう、良いところを見つけよう
- ・ルールを守ろう
- ・最後まで楽しもう

### 【投げる・捕る・蹴る動作のポイント】 ※今まで学習してきた内容を掲示する

#### ○投げる

- ・腕を上にあげて投げる
- ・腕をしっかり振る
- ・投げる手と反対の足を前に出す
- ・腰を回す

#### ○捕る

- ・体の正面でとる
- ・膝をまげる

#### ○蹴る

- ・ボールをよく見る
- ・けらない足はボールの横に置く
- ・足の前部分で蹴る
- ・蹴る足を大きくふりぬこう
- ・助走をつける

## 6 考察（成果と課題）

### （1）児童アンケートからわかる取組の客観的な成果・分析

児童アンケート調査（18名）※1名未実施

	『はい』	どちらかといえば 『はい』	どちらかといえ ば『いいえ』	『いいえ』
1.「ボールを使った運動」は楽しかったですか。	13	5	0	0
2.「ボールを使った運動」の学習で上手にできるようになったことがありますか。	12	2	4	0
3.「ボールを使った運動」の学習で「なるほど。」「そうだったのか。」と感じたことがありますか。	11	6	1	0
4.「ボールを使った運動」の学習で考えたことを伝えたり、活動したりすることができましたか。	14	4	0	0
5.「ボールを使った運動」の学習で友達と協力しあうことができましたか。	13	4	1	0

児童アンケートの結果から、本単元におけるボール運動の学習は、多くの児童にとって前向きな学びとなったことがうかがえる。「ボールを使った運動は楽しかったか」という質問に対しては、アンケートに回答した18名全員が「はい」または「どちらかといえばはい」と回答しており、活動に対して良い印象になっていたことが分かった。これは、単元の前半において成功体験を積み重ねられる教材の工夫や、安心して参加できる学習環境を整えたことが、運動への抵抗感を和らげる要因となったと考えられる。また、「ボールを使った運動の学習で上手にできるようになったことがあるか」という問いに対しては、「はい」が12名、「どちらかといえばはい」が2名であり、肯定的に回答した児童は14名であった。単元開始前のアンケートでは、「捕るのが嫌」「当てられるのが怖い」「投げるのが苦手」といった不安や苦手意識を示していた児童も含まれていることを踏まえると、段階的な課題設定や成功を実感しやすい活動が、不安や苦手意識を和らげ、技能的に向上したという自己評価につながったと考えられる。さらに、「『なるほど』『そうだったのか』と感じたことがあるか」という質問では、「はい」が11名、「どちらかといえばはい」が6名と、17名の児童が肯定的に回答しており、活動を通して動作を工夫したり、新たな発見をしたりする場面が多く生まれていたことがうかがえる。「考えたことを伝えたり、活動したりすることができたか」という項目では、「はい」が

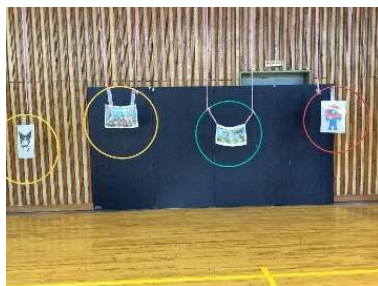
14名、「どちらかといえばはい」が4名と、全員が肯定的に回答しており、学習を通して自分なりに考えて行動していたことが読み取れる。また、「友達と協力し合うことができたか」という項目においても、17名が肯定的に回答しており、特にゲームを通じて仲間と関わりながら学ぶことができたという児童が実感できたのではないかと考えられる。一方で、「どちらかといえばいいえ」や「いいえ」と回答した児童も一部見られた。これは、うまくいかなかった結果から評価しているが、自分の活動を客観的に振り返られているという側面もあり、次につながる評価ができていると考える。授業の様子を振り返ると、これらの児童も活動に意欲的に参加しており、特にキックベースの活動では、うまくいかなかった場面について「どうしたら点が取れるか」と「次はこうしてみよう」といったように、自分なりに理由を考え、取り組もうとする姿が見られた。

以上のことから、本単元での学習は、ボール運動に対して不安や苦手意識をもっていた児童を含め、多くの児童が楽しさや達成感を感じながら主体的に学習に取り組む姿を引き出すことができたといえる。

## (2) 課題解決のための学習形態の工夫

### ①教材：児童が「やってみたい」と思える教材設定

本単元では、勝敗へのこだわりや失敗への不安から活動に消極的になりやすい児童の実態を踏まえ、単元の前半において「やってみたい」と意欲をもち、「できた」と実感しやすい教材を設定した。投げる・捕る・蹴るといった基礎的な活動では、的に鈴を付けて当たると音が鳴ったり、当たると倒れたりして、成功の結果が聴覚的・視覚的に分かるように設定した。さらに、児童が親しみやすいキャラクターを的に用いることで、「当ててみたい」「狙ってみたい」という気持ちを自然に引き出し、活動への意欲を高めることができた。これらの教材により、活動の結果が分かりやすくなり、児童は自分の動作と成功体験を結び付けて捉えることができた。その結果、失敗を過度に恐れることなく繰り返し挑戦する姿が多く見られ、「やってみたい」「もう一度挑戦したい」といった前向きな気持ちの高まりにつながったと考える。



一方で、教材の効果を十分に生かすためには、主指導者とサブ指導者を含め、投げ方・捕り方・蹴り方それぞれの活動において、どのような動作を「できている姿」として捉えるのかを事前に具体的に確認しておく必要があったことが課題として挙げられる。動作の質の見取り方や支援の視点について共通理解を図ることで、よりの確な言葉かけや支援につながり、児童一人ひとりの学びをさらに深めることができると考える。

### ② 段階的な活動設定：心理的な負担を軽減する工夫

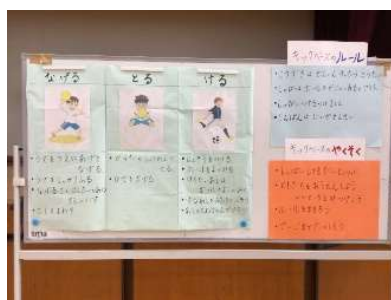
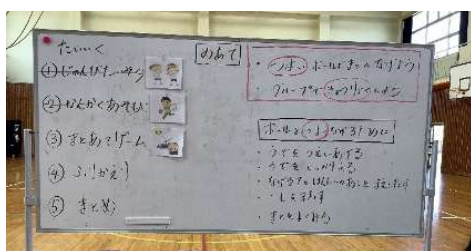
勝ち負けに直結しない的当てなどの活動から始めることで、当てられることへの不安や緊張を和らげ、安心して活動に参加できるようにした。また、新聞紙で作ったボールや柔らかいボールの使用や距離・広さの調整など、児童の実態に応じて段階的に活動を設定したことは、投げる・捕る・蹴る動作に対する抵抗感を軽減し、自信をもって取り組む基盤づくりにつながったと考える。

### ③ キックベースのルール：全員が理解し、参加できるキックベースの設定

単元後半のキックベースの活動では、児童の実態に応じたルールにすることで、安心して活動に参加できるようにした。攻撃は3人ずつの交代制とし、守備は3人に限定してチームで交代しながら守る形とすることで、活動量を確保するとともに役割の見通しをもちやすくした。捕球が難しい児童でも守備に参加できるようにボールをカゴに入るとアウト、得点はボールがカゴに入るまでに回った塁の代わりにコーンの数とした。また、止まっているボールを蹴ることで攻撃がしやすいようにした。さらに、審判を教員が行い、笛の合図や得点発表で結果を明確に伝えることで、ルールを理解しやすくした。これらの工夫により、児童はルールを理解しながら活動に取り組むことができ、勝敗だけでなく「参加できた」「役割を果たせた」という達成感を味わう姿も見られた。

### ④ 環境設定：見て分かり、安心して動ける学習環境

活動に集中し、安心して取り組めるよう、見通しをもって行動できる環境を設定した。「投げる・捕る・蹴る」の学習では、準備体操、感覚遊び、グループ活動、振り返りと毎回の流れを一定にすることで、活動への見通しをもちやすくなり、児童が落ち着いて学習に向かう姿が見られた。さらに、守備位置の目印やボールを捕ってかごに入れられる範囲のサークルを設置し、立ち位置や役割を視覚的に示すことで、「どこで」「何をすればよいか」が明確になり、自分の役割を理解して主体的に行動しようとする姿が見られた。その結果、授業者の指示を最小限に抑え、児童が掲示物や環境を手がかりに活動できるようになった。加えて、これまでに学習してきた「投げる・捕る・蹴る」動作のポイントや、キックベースのルール・約束、フェアゾーンとファールゾーンを掲示することで、児童が自ら確認しながら活動に取り組めるようにした。これらの環境設定により、児童が安心して活動したり、主体的に活動したりする姿につながったと考える。



### ⑤ 時間の確保：時間内での活動量の調整

キックベースの活動時間を十分に確保するため、事前に授業時間外でチームの目標や打順、守備の順番を事前に確認する機会を設けた。これにより、授業時間内ではキックベースに集中して取り組む時間を多く確保することができた。

### (3) 指導と評価の進め方について

知識及び技能の観点では、「投げる・捕る・蹴る」といった基本動作の学習場面において、動作のポイントを示しながら、段階的に経験・習得できるよう指導を行った。振り返りシートによる自己評価では、自分の動作が実際にできていたかどうかを客観的に捉えることが難しく、十分にできていなくても「できた」と回答する児童が見られた。このことから、振り返りの際に、動作のポイントを再度確認したり、授業者の具体的な言葉がけや見本、映像等を用いたりするなど、自分の動きを客観的に捉えられる工夫が必要であったと考える。

思考力、判断力、表現力等の観点では、キックベースの活動において、これまでに学習してきた「投げる・捕る・蹴る」の基本動作を、実際のゲームの中で活用することを重視し、教員の言葉がけや即時的なフィードバックを中心に評価を行った。3回目では、「どの方向に蹴ると得点につながるか」を考えながら行動する姿が多く見られ、前回の試合と比べて入った得点が多かった。これは、攻撃面において児童が自分なりに工夫し、試行錯誤しながら取り組んでいたことの表れであると考えられる。さらに、4回目では視点を守備にも広げ、「どこで守るとアウトにできるか」を考えながら取り組む姿が見られた。守備位置や動き方を意識する児童が増えたことで守備力が向上し、その結果、3回目と比べて入った得点が少ない展開となった。このことから、児童が単に得点を取るだけでなく、相手の動きや場の状況を踏まえて行動しようとしていたことがうかがえた。こうした姿から、運動を通して考え、状況に応じて判断・行動する思考が育まれたと考える。

学びに向かう力、人間性等の観点では、「友達といっしょにやってみよう」という雰囲気づくりを大切にし、挑戦する過程や仲間との関わりを評価することを意識した。その結果、キックベースの活動中には、友達を応援したり、良いプレーに拍手や言葉がけをしたりする姿が多く見られた。こうした関わりを肯定的に捉えて評価したことが、児童同士の支え合いを促し、安心して活動に参加できる集団づくりにつながったと考えられる。

以上のことから、「投げる・捕る・蹴る」の基本動作の学習場面では、動作のポイントを確認しながら段階的に経験できるようにし、教員の具体的な声かけや助言を通して、児童一人ひとりの取り組みを支えてきた。また、キックベースの活動では、試合の中での行動や工夫に着目し、即時的な評価やフィードバックを行うことで、児童が次の動きにつなげられるようにした。このように、活動の特性に応じて評価の視点や方法を工夫したことは、児童が安心して挑戦し、自分なりに考えながら主体的に学んでいく姿勢を育む上で効果的であったと考える。さらに、キックベースの試合の回を重ねる中で、攻撃だけでなく守備にも目を向け、「どうすれば得点が入るのを防げるか」「そのためにどこを守ればよいか」といった視点をもって仲間と関わる姿が見られたことは、運動を通して考えを深める学びにつながり、主体的・対話的で深い学びが実現できたのではないかと考える。

#### (4) その他（研究協議会を含め、単元を終えて）

キックベースの学習では、回を重ねるごとに、どの方向に蹴ると点数が伸びるのか、どこを守れば得点をおさえられるのかについて、教員が想像していた以上に子ども自身が工夫し、行動していたことは大きな成果であったのと同時に、これらのこどもの成長は、教員にとって、次の課題を示さなければいけないものとなった。児童の成長段階や気付きの一步先を常に見据え、次にどのような問いや活動の場を用意するかを構想していくことが求められる。児童が教員の想像以上の姿を見せ、活動するのであれば、教員自身もまた、その先を見通した指導と環境づくりによって、学びを更新し続けていく必要があり、こうしたことが、主体的・対話的で深い学びを支える基盤になると考える。今後も、児童の気付きや行動を丁寧に評価しながら、学びを次の活動へとつなげていきたい。



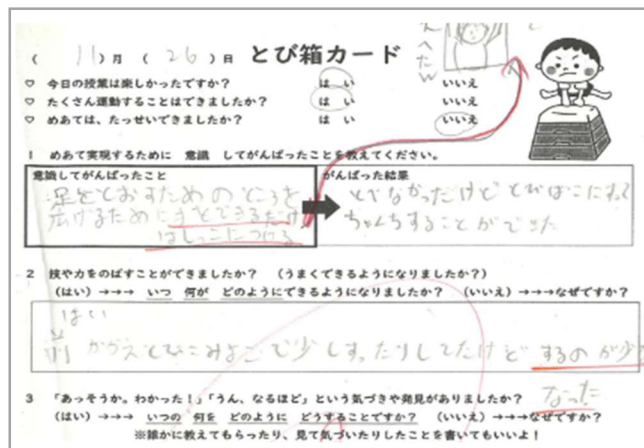
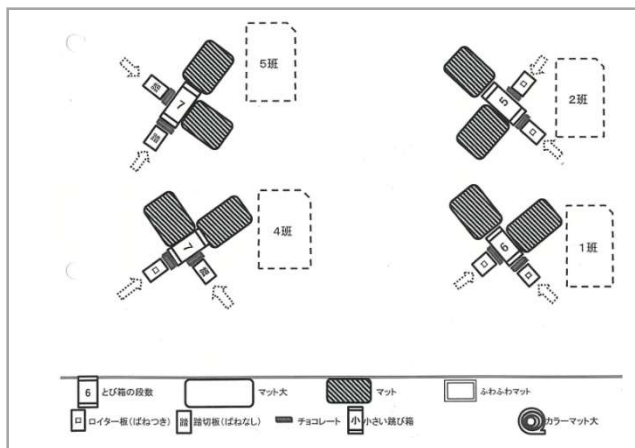
体力向上に向けた  
魅力ある授業づくりモデル校  
取組事例

体力向上に向けた魅力ある授業づくりモデル校（小学校）

学校名	和歌山市立楠見東小学校	学級数	11
		人数	290

1. 取組内容

○ 体育科授業の様子、使用した教材、作成した資料等



場や用具について、児童が一目で分かるように体育館壁面に上図を掲示した。また、とび箱やマットなどを体育館壁面に固めて置くようにし、年間指導計画を見直し、全学年で器械領域の実施時期を揃えた。これらの取組により、児童の準備・片付けが速くなり、運動する時間が増加した。

学習カードやチームカード、個人カードなどを教職員で共有して使用できるようにした。児童がめあてをもって取り組む中で運動の質が向上した。振り返りの際の話し合い活動においても、話し合い活動の共通の視点があることによって、思考面で向上がみられた。また、友達の動きの見合いにおいても具体的な言葉かけが増えてきた。



手作りで作戦ボードを作成した。簡単に入手できる物で作成したことで、他の学級でも作成し、活用していく広がりが見られた。また、吸着マットの切れ端を活用し、自由に使えるようにすることで、距離を変えて跳んだり、形を変化させて渡ったりする遊びに発展させていった。体育授業の中では、ラインの代わりに使うことができたので、有効的な活用だったと考える。

一本歯下駄の出前授業に取り組んだ。外部講師の人材を活用して、運動会前に体幹を鍛える授業を行った。普段意識しない体の部位を動かし遊び感覚で、楽しみながら運動に取り組むことができた。この一本歯下駄を自由に使い遊べるコーナーを作った。児童は吸着マットと併用して、自由に色々な場をつくり休憩時間に競ったり遊んだりする姿がみられた。

## 2. 成果

### ○ 体育授業に関する児童アンケート

	1学期				3学期			
	1. あてはまる	2. ややあてはまる	3. ややあてはまらない	4. あてはまらない	1. あてはまる	2. ややあてはまる	3. ややあてはまらない	4. あてはまらない
1. 体育の授業は楽しいですか。	67.5%	25.4%	3.7%	3.4%	65.8%	28.5%	3.6%	2.1%
2. 体育の授業では、精一杯運動できますか。	56.0%	35.4%	7.5%	1.1%	56.6%	38.4%	4.3%	0.7%
3. 体育の授業では、できるようになったことがありますか。	37.7%	47.8%	13.8%	0.7%	40.9%	50.5%	7.1%	1.4%
4. 体育の授業では友達と協力することができましたか。	41.8%	46.3%	10.8%	1.1%	40.7%	53.9%	5.4%	0.0%
5. 体育の授業で「あっわかった!」「ああ、そうか」と思うことがありますか。	38.1%	45.1%	14.6%	2.2%	35.2%	50.9%	11.4%	2.5%

全児童を対象に、体育科授業に関する児童アンケートを1学期と3学期に実施したところ、全ての質問項目において、1学期よりも3学期の方が「あてはまる・ややあてはまる」と回答した児童の割合が増加した。「1. 取組内容」に記載した内容を学校全体で取り組むことができた成果ではないかと考える。

特に、「3. 体育の授業では、できるようになったことがありますか。」で、「あてはまる・ややあてはまる」と回答した児童の割合が約6%、「4. 体育の授業では友達と協力することができましたか。」で、「あてはまる・ややあてはまる」と回答した児童の割合が約6.6%増加しており、年間指導計画の見直しや統一、職員への体育授業研修、ワークシートなどの共有により、学習内容が明確化し、多くの子が運動に対して楽しく友達と関わり合いながら活動することができているのではないかと考える。

## 3. 課題

全ての質問項目において「あてはまる・ややあてはまる」と回答した児童の割合が増加したが、「5. 体育の授業で「あっわかった!」「ああ、そうか」と思うことがありますか。」という質問で、「あてはまる・ややあてはまる」と回答した児童の割合が86.1%（3学期）と割合が低くなった。他の質問項目で「あてはまる・ややあてはまる」と回答した児童の割合が90%を超えている（3学期）ことを考慮すると、比較的高い数値ではあるものの、児童にとって、運動の理解や発見につながる実感を得られる取り組みができていないことがわかる。

今後、児童にとって分かりやすい体育授業となるように、引き続き、魅力ある授業づくりに向けて取り組んでいきたい。

学校名	岩出市立岩出小学校	学級数	12
		人数	317

## 1. 取組内容

○ 体力向上に向けた魅力ある授業づくりモデル校取組の様子

### ①第4時



外部講師が実際に動きを示しながら児童が表現したいことを、アドバイスしてもらっている様子。ジャングルにいる肉食動物を表現するために、腕に体重をかけたり、両足をリズムよく振り上げたりする動きを、取り入れようとしている。

空間の使い方、高低差ができるようにする方法やリズムやタイミングを変える工夫などについてアドバイスしてもらっている様子。児童は、自分達が表したい感じに近づけることができていることを実感することができた。

#### 外部講師からでた意見①

- ・児童から表現したい感じを引き出すために、その時の感情を意識させることが1番効果的だった。
- ・とにかく褒めたり、ポジティブな声をかけたりした。

#### 大学教授による助言

- ・児童から表現したい感じを引き出すためには、感情を意識させることはとても大切である。それに加えて、動きをスローにする（トラックにひかれる瞬間だけスローにする等）ことも考えられる。
- ・動きの幅を広げるためには、児童に下地が必要である。毎時間準備運動としてジャンプ・転がるなど、全身で動く運動を取り入れると良い。

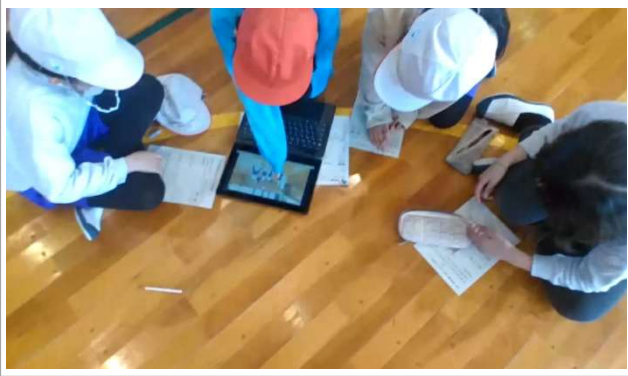
#### 外部講師からでた意見②

- ・こども達がテーマで設定したものの中にアニメがあったが、表現するものが具体的すぎると、表現しにくくなる。「1対1でないとダメ・この役はしたくない」などのこだわりがあると、役割がない児童がでてくることになる。

#### 大学教授による助言

- ・キャラクターを表現することは問題ないが、オリジナルストーリー（キャラクターになりきって山を登るなど）が必要である。
- ・どのテーマでも言えることであるが、「終わり」を設定することで、ストーリー自体に目的が生まれ、児童が表現しやすくなる。また、終わりを「次に続く…」などのように工夫すると、よりストーリーが面白くなる。
- ・1番の見せ所を決めて表現したり、見せ場を観客に知らせてから表現したりするとよい。

#### 授業の様子（第5時）



第4時でアドバイスもらったことから、「こんな動きをいれようよ。」「教えてもらった動きと、自分達の動きを組み合わせようよ。」など、グループで表現したいことについて話し合いが活発に行われた。



第4時でアドバイスもらったことを話し合っているうちに、自分達の表現したい動きの工夫が新しく生まれていた。アドバイスをもらうことで、児童は自分のしたい動きが分かり動きの幅が広がった。

#### 授業の様子（第7時）



クラス内で、発表会をしている様子。どのグループも自分達の動きに自信がある様子で、積極的に表現することができていた。また、自分達のグループ以外の発表を見た際に、良い表現に気付くことができた児童も多くいた。さらに、他のグループの動きを自分達の表現に取り入れようとしている様子も見られた。

## ②成果

### ○児童アンケート

#### 授業前

	ボール運動①				陸上運動①				陸上運動②				ボール運動②				表現運動			
	1.あてはまる	2.ややあてはまる	3.ややあてはまらない	4.あてはまらない	1.あてはまる	2.ややあてはまる	3.ややあてはまらない	4.あてはまらない	1.あてはまる	2.ややあてはまる	3.ややあてはまらない	4.あてはまらない	1.あてはまる	2.ややあてはまる	3.ややあてはまらない	4.あてはまらない	1.あてはまる	2.ややあてはまる	3.ややあてはまらない	4.あてはまらない
1.体育の授業は楽しいですか。	39	8	1	0	20	11	2	3	31	11	2	1	36	10	0	0	36	12	1	1
2.体育の授業では、精一杯運動できますか。	27	21	0	0	30	12	4	0	31	13	0	1	26	20	0	0	34	14	2	0
3.体育の授業では、できるようになったことがありますか。	32	13	1	2	24	14	4	4	18	21	5	1	28	12	3	3	26	16	8	0
4.体育の授業では、友達と協力することができましたか。	26	19	3	0	15	24	7	0	21	18	4	2	24	19	3	0	30	18	2	0
5.体育の授業で「あ！分かった！」「ああ、そうか」と思うことはありますか。	21	23	4	0	14	28	3	1	21	16	5	3	25	19	6	0	22	20	7	1
6.〇〇運動は好きですか。	30	13	4	1	26	12	3	5	26	15	1	3	24	22	3	1	35	11	3	1

#### 授業後

	ボール運動①				陸上運動①				陸上運動②				ボール運動②				表現運動			
	1.あてはまる	2.ややあてはまる	3.ややあてはまらない	4.あてはまらない	1.あてはまる	2.ややあてはまる	3.ややあてはまらない	4.あてはまらない	1.あてはまる	2.ややあてはまる	3.ややあてはまらない	4.あてはまらない	1.あてはまる	2.ややあてはまる	3.ややあてはまらない	4.あてはまらない	1.あてはまる	2.ややあてはまる	3.ややあてはまらない	4.あてはまらない
1.体育の授業は楽しいですか。	39	8	1	0	30	13	1	2	30	9	2	0	40	5	1	0	37	11	1	1
2.体育の授業では、精一杯運動できますか。	27	20	0	1	30	14	2	0	25	15	1	0	40	6	0	0	35	14	0	1
3.体育の授業では、できるようになったことがありますか。	33	9	5	1	23	14	5	4	26	9	6	0	35	10	1	0	34	15	1	0
4.体育の授業では、友達と協力することができましたか。	33	12	3	0	32	10	2	2	21	16	4	0	31	11	4	0	33	16	1	0
5.体育の授業で「あ！分かった！」「ああ、そうか」と思うことはありますか。	22	21	4	1	20	17	6	3	25	12	4	0	33	10	6	0	30	14	5	0
6.〇〇運動は好きですか。	33	15	0	0	30	10	2	3	22	17	0	2	40	5	1	0	40	7	2	1

アンケート結果の表現運動より、「あ！分かった！」「ああ、そうか」といった学びの深まりを実感する児童が増加した。特に、授業前は2人だった「1.あてはまる」の回答が、授業後には45人に増えていた。体育授業改善に取り組み、外部講師に指導してもらうことで得た成果だと考える。

外部講師の指導前と指導後の動きを比べると、空間の使い方、リズムの捉え方、タイミングの取り方が変わり、寝転ぶ、回るといった全身を使う動きを取り入れながら考えたことを表現することができるようになった。チームの動きが平面から立体に変わった印象を受けた。

また、表現運動の単元の振り返りに「チームでテーマを考えて発表するのが楽しかった。」「外部講師の人に動きを教えてもらうが楽しかった。」など、前向きな感想を書いていた。

さらに、陸上運動①（かけっこ・リレー）では、4「友達と協力できましたか。」の1「あてはまる」を選んだ児童が増えた。チームで活動するときの目的が明確化したこと、チームのメンバーを入れ替えず、固定化したことの2つが、要因だと考えられる。

そして、ボール運動②（ベースボール型ゲーム）では、ほとんどの項目で良い結果がでた。本校では、第4学年で初めてベースボール型ゲームを学習することになっている。初めて経験した児童もベースボール型ゲームの運動に慣れ親しむことができたと言える。

## ③課題

表現運動においては、児童が表現したいテーマを選択することで、意欲的に取り組むことができ、技能が向上すると考えていた。しかし、実際は表現したいことを考えることができても、その表現する方法が分かっていない状態だった。児童の実態と授業者が捉える目指すべき児童の姿に大きなずれがあることが分かった。今回その大きな差を外部講師の方々に埋めてもらったが、児童の実態を把握し、実態に合った教材を考えなければならないことを改めて認識できる機会となった。

また、今回の授業では大きな成果が出たと捉えている。そのことから、外部講師と連携をとって指導計画を立てるという授業展開に、今後挑戦していきたいと考えている。

## 2. 体育科学習指導案

日 時：令和8年2月10日（火）13：30～14：15  
 場 所：岩出市立岩出小学校 体育館  
 学 級：4年B組 26名  
 授業者：職名 教諭 藪本有希

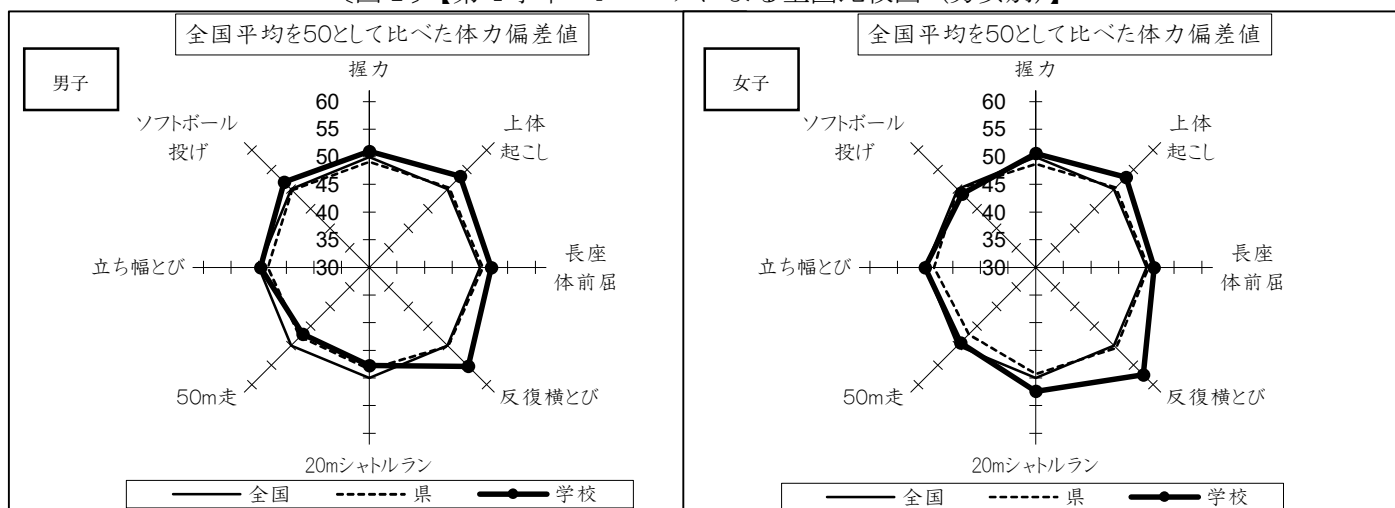
1 単元名 表現運動 表現 ー転生したら〇〇な世界だった！ー

2 指導にあたって

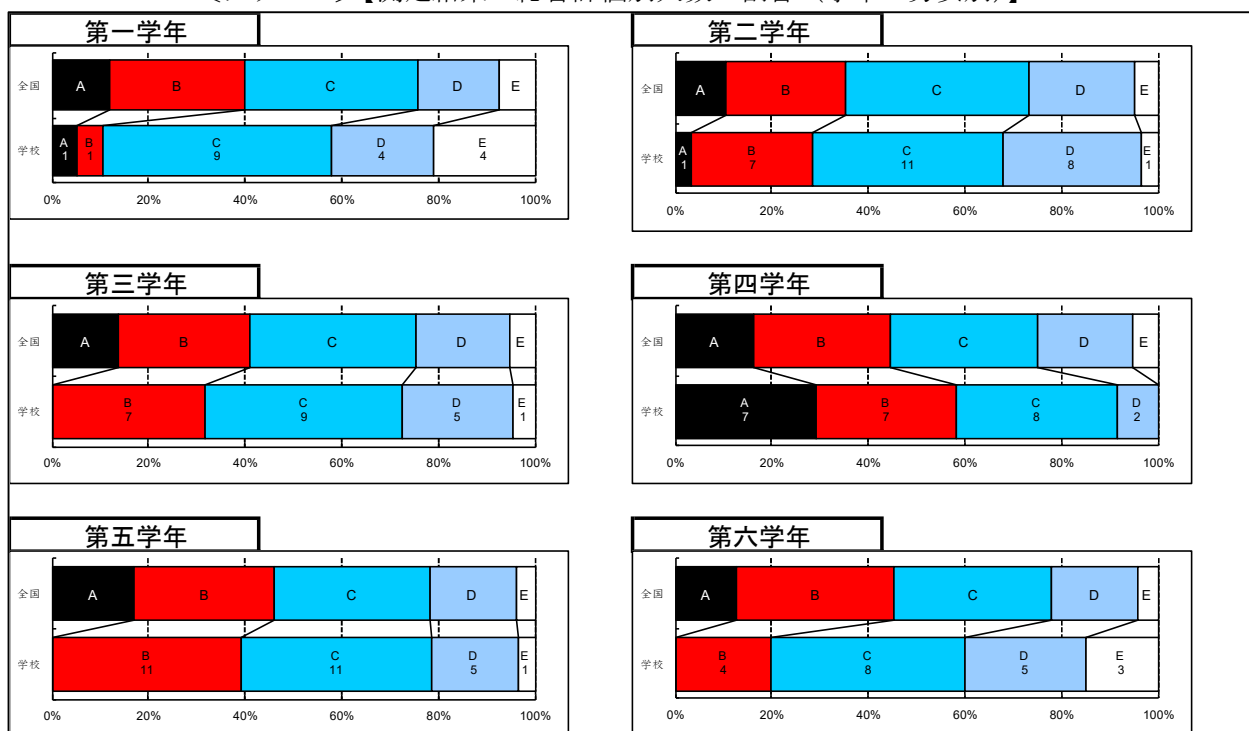
### (1) 児童の実態

〔令和7年度児童生徒の体力・運動能力調査結果から見た実態〕

〔図1〕【第4学年 Tスコアによる全国比較図（男女別）】



〔グラフ1〕【測定結果の総合評価別人数・割合（学年・男女別）】



本校の第四学年は男女共に全国平均を上回っている種目が多い学年である。〔図1〕また、他学年と比較したとき、A・B判定の児童の割合が多く、D判定の児童の割合が少なく、E判定の児童がいない学年である。〔グラフ1〕

本学級の児童26名（男子14名、女子12名）の体育科の授業を第3学年時より授業者が担当している。本学級の児童は、体育科の授業を積極的に取り組むことができる。第3学年の表現運動の「表現」の学習においては、具体的な生活の題材（運動会・UFOキャッチャーなど）を表したい感じのひと流れの動きで即興的に踊ることができた児童が多くいた。第4学年の表現運動の「リズムダンス」においては、ユーチューバーしなこの「歯ラ歯ラ」のリズムに乗って弾んで踊ることができた児童も多くいた。

しかし、「表現」においては、表したい感じの動きを誇張したり変化を付けたりしてメリハリ（緩急・強弱）を付けたりすることができない児童がいることが課題であった。これらのことから、児童が自ら表現したいテーマを選択し、その世界観に没入できるような設定が必要であると考えた。そこで、身近な日常から空想の世界へ飛び込む「転生」というストーリー性を導入する。

## （2）課題解決のための仮説・取組 等

本単元では、「表現するテーマを児童が自ら選択することで、主体的で対話的な活動が生まれ、楽しく踊ることができるのではないか」という仮説を立てた。

「自ら選択した転生ストーリーにおいて、各場面の中に『静』と『動』のコントラストを取り入れ、友達と教え合いながら楽しく表現することができるようにすること」を目標とし、以下の具体的な手立てを講じていく。

### 【児童の興味・関心を揺さぶる「選択型ストーリーの設定」】

児童が主体的に活動を選択できるよう、身近な「日常」と空想の「非日常」を掛け合わせた『転生したら〇〇な世界だった』というテーマを設定する。

- ・手立て：「転生前（学校の授業・掃除・歯磨き）」と「転生後（ジャングル・宇宙・アニメ）」の選択肢を提示し、グループごとに組み合わせを自由に選択させるようにする。
- ・目指す児童の姿：自分達でストーリー（例：掃除中に掃除機に吸い込まれて宇宙に転生）を決めることでオーナーシップが生まれ、活動の意欲が高まる。

### 【「対話」を生むための「転生スイッチ」の考案】

単に二つの場面を繋げるだけでなく、その「転換点」を創作する過程で対話的な学びを促すように指導をする。

- ・手立て：「どうやって世界が変わったか」という転生スイッチ（つなぎの動き）を必ず一つ入れるように指導する。
- ・目指す児童の姿：「掃除機に吸い込まれる感じにしよう」「授業中に寝てしまって夢の中で鬼と戦おう」といった、共通のイメージを具体化するための活発な意見交換を行う。

### 【ワークシートによる動きの対比（コントラスト）の可視化】

抽象的な「コントラスト」という概念を、直感的に扱えるように視覚化させるようにする。

- ・手立て：ワークシートに「じっくり・ゆっくり」ゾーンと「パツ・激しく」ゾーンを設け、それぞれの場面でどのような動きをするか、オノマトペを交えて記入させるようにする。
- ・狙う児童の姿：「歯磨きシーンなら、最初は『シャカシャカ（速・動）』だけど」、最後は『じーっ（遅・止）』と鏡を見ることにしよう」と、自分たちで表現の構成を工夫する。

### 【相互評価による「動きの差異」の認識】

- ・手立て：単元を通して動きをタブレットで撮影させるようにする。動画をスロー再生や一時停止を活用して振り返り、「動きの変化（コントラスト）がはっきり見えているか」を視点に話し合いを行わせるようにする。また、第六時に各チームの発表を見て、相互アドバイスができるように指導する。
- ・目指す児童の姿：友達の「止まる」瞬間の格好の良さや、「素早い」動きのキレに気付き、自分の表現やチームの表現に取り入れようとしている。

本単元は、これらの手立てを生かし、「テーマを選び、表現を工夫し、振り返る」というサイクルを繰り返しながら、児童が主体的にテーマや動きを選択し、友達と協力しながら表現することや変化のある動きを楽しみ、表現の質の向上を実感できるように指導していく。このような学習形態を通じて、児童が表現することの楽しさや難しさを知り、自ら意欲的に取り組む姿の育成を目指していきたい。

3 指導と評価の計画

単元の目標		知識及び技能		表現の楽しさや喜びに触れ、行い方を知るとともに、身近な生活などの題材からその主な特徴を捉え、表した感じを人流れの動きで即興的に踊ることができるようにする。									
		思考力、判断力、表現力等		自己の能力に適した課題を見付け、題材やリズムの特徴を捉えた踊り方や交流の仕方を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えることができるようにする。									
		学びに向かう力、人間性等		運動に進んで取り組み、誰とでも仲良く踊ったり、友達の動きや考えを認めたり、場の安全に気を付けたりすることができるようにする。									
時	1	2	3	4	5(本時)	6	7	8	9	授業づくりのポイント			
ねらい	学習の進め方を知り、単元の見通しを持つこと。	自分達の興味のあるテーマを考えること	テーマに合ったふさわしい動きを考えること。	良い動きを知ろうすること。	良い動きを知り、自己の動きに取り入れようとすること。	良い動きを知り、自己の動きに取り入れようとすること。	考えたことを表現すること。	発表に向けて良い動きを取り入れること。	学習したことを使って発表すること。	・単元を通して、自分達の表現したいテーマについて考える時間を作る。 ・学年発表会という単元のゴールを意識させながら学習に取り組ませる。 ・外部講師の先生に表現の仕方についてアドバイスをもらう時間を設定する。			
学習の流れ	0	1 準備体操 2本時の学習の流れを確認											
	10	2 単元の学習内容の確認 ・場の準備と片付けについて ・単元の流れを確認 ・学習カードについて	3 例テーマから特徴的な場面や動きをする ・具体的な生活(座学) 硬く・軟らかく 大きく・小さく 速く・遅く 一緒に・自由に  ・空想(ジャングル) 跳ぶ・転がる 素早く動く・急に止まる 一緒に・自由に	3 例テーマで練習する 4 テーマと前時に考えた動きを確認する 5 先生と一緒に考えながら踊る ・前時に考えた動きを一緒にしてみる ・アドバイスもらったことを動きを撮影する	3 前時もらったアドバイスを確認する 4 いれたい動きを話し合う 5 音に合わせて踊る ①撮影する ↓ ②撮影したものをみる ↓ ③自分達の表現したいことを近づけるためについて話し合う ↓ ①にもどる	3 前時に撮った動きを確認する 4 音に合わせて踊る ①ペアチームと表現を見せ合う ↓ ②アドバイスをし合う ↓ ③自分達の表現したいことを近づけるためについて話し合う ↓ ①自分達の動きを撮影する	3 各グループのアドバイスをもらいたいことを確認する 4 各グループの発表を見る ・発表を見ながらアドバイスや良かったところなどをメモする 5 発表を見てアドバイスや感想を伝え合う	3 前時の良かった動きやもらったアドバイスを確認する 4 音に合わせて踊る ①撮影する ↓ ②撮影したものをみる ↓ ③自分達の表現したいことに近づけるために話し合う ↓ ①にもどる	3 表現する内容を確認する 4 発表する ・A組とB組合同で行う ・A組はB組の空想のテーマを表現をみながら予想する(B組はA組のテーマを予想する) ・舞台で行う				
	20	3 学習課題の確認	4 自分達のテーマについて話し合う ・具体的座学 掃除 歯磨き ・空想 ジャングル 宇宙 アニメ	4 テーマにふさわしい動きを考える	6 振り返り	6 振り返り	5 振り返り	6 振り返り	5 次時の流れを確認する	5 発表を見た感想を伝え合う			
	30	4 3年生の復習 ・拍手 ・リズム&ポーズ											
	40	5 振り返り・片付け	5 振り返り	5 振り返り	6 振り返り	6 振り返り	5 振り返り	6 振り返り	5 次時の流れを確認する	5 発表を見た感想を伝え合う			
45													
評価機会	知	(1)	(2)					(3)		(1)	評価方法 ノート・観察・ICT		
	思					(2)			(3)		ノート・観察・ICT		
	態	(5)		(3)	(2)		(4)		(1)		ノート・観察・ICT		
単元の評価規準	知	①表現の行い方について、言ったり書いたりしている。 ②感じの異なる動きや急変する場面をメリハリ(緩急・強弱)のあるひと流れの動きにして即興的に踊ることができる。 ③題材やの主な特徴を捉え、表したい感じやイメージをグループで簡単なひとまとまりの動きにして表現することができる。											
	思	①表現の動きのポイントを知り、楽しく踊るための自己に合った課題を見付けている。 ②よい動きを知り、友達のよい動きやアドバイスもらったことを自己の動きに取り入れようと考えている。 ③表したい感じや様子にふさわしい動きで踊っていたかどうかを見合い、特徴を捉えた動きや変化のある動きなどよかったところを友達に伝えている。											
	態	①表したい感じをひと流れの動きで踊ったりする運動に取り組もうとしている。 ②表現に取り組む際に、誰とでも仲良くしようとしている。 ③表現を行う場の設定や用具の片付けを、友達と一緒にしようとしている。 ④表現での友達の動きや楽しく踊るための友達の考えを認めようとしている。 ⑤友達とぶつからないように周りの安全を確かめて踊ろうとしている。											

※知…「知識・技能」、思…「思考・判断・表現」、態…「主体的に学習に取り組む態度」

#### 4 本時について

##### (1) 目標

(知識及び技能)

感じの異なる動きや急変する場面をメリハリ（緩急・強弱）のあるひと流れの動きにして即興的に踊ることができるようにする。

(思考力、判断力、表現力等)

よい動きを知り、友達のよい動きやアドバイスもらったことを自己の動きに取り入れようとする  
ことができるようにする。

(学びに向かう力、人間性等)

表現での友達の動きや楽しく踊るための友達の考えを認めようとするようにする。

##### (2) 展開（本時：5／9時）

	学習内容・活動	○授業者の指導・支援 ☆評価
導 入	1 用具や場の準備をし、準備体操をする。	○体をほぐすとともに、本時の学習展開につながる準備運動をさせるようにする。
	2 本時のめあてを確認する。	○前時の学習内容を想起することで、本時の課題を把握させ、見通しを持たせるようにする。
	良い動きを自分や自分のチームの表現に取り入れよう。	
展 開	3 前時にももらったアドバイスを確認する。 ・前時の動きの様子を見る。 ・実際にアドバイスもらった動きを全員でやってみる。	○前時のアドバイスを振り返らせ、目指すべきコントラスト（静と動）のイメージを再確認させるようにする。
	4 音に合わせて表現し、自分達の動きについて話し合う。 ・音に合わせて、動き練習しタブレットで撮影する。	○撮影した映像をスロー再生や一時停止で確認させるようにし、「止まる・動く」の差がはっきりしているか視覚的に捉えさせるようにする。
	・撮影した動画を見て、自分達の良い動きや改善点を話し合う。 ・話し合ったことや、アドバイスをもらったことを基に音に合わせて練習する。	○ワークシートのオノマトペと映像を照らし合わせ、具体的にどこを直すか助言し合うように指導する。

		☆よい動きを知り、友達のよい動きやアドバイスをもらったことを自己の動きに取り入れようとしている。 (観察・ノート)
ま と め	5 振り返りと片付けをする。	○発表に向けた見通しを持たせるようにする。

準備物…教師 タブレット、マイク、笛  
 児童 タブレット、ノート、筆記用具

## 5 学習資料（添付）

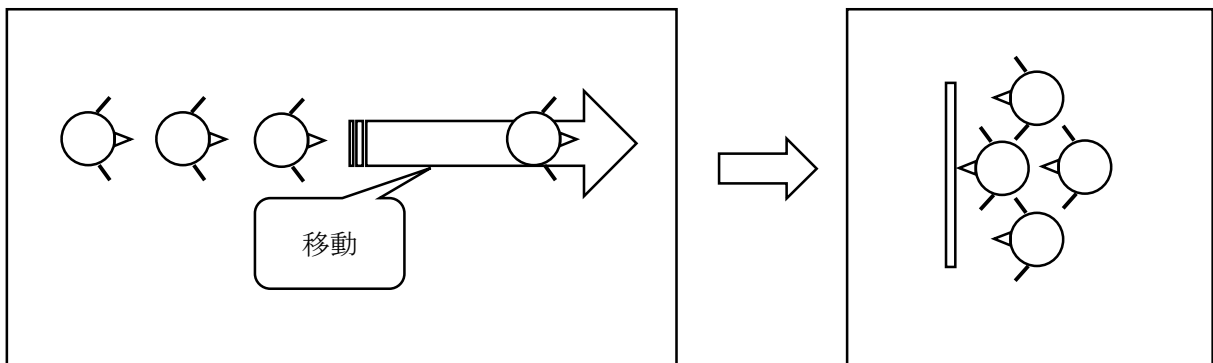
### （1）3年生の復習について

#### ○リズム&ポーズ

4～5人組に小グループになり、一列に並ぶ。その後合図や音楽に合わせてリズムをとりながら1人ずつ設定した場所に移動する。

移動した先で即興的に、ポーズをとり止まっておく。

二列目からの児童は、すでにポーズをしている児童に付け足してポーズをしていく。

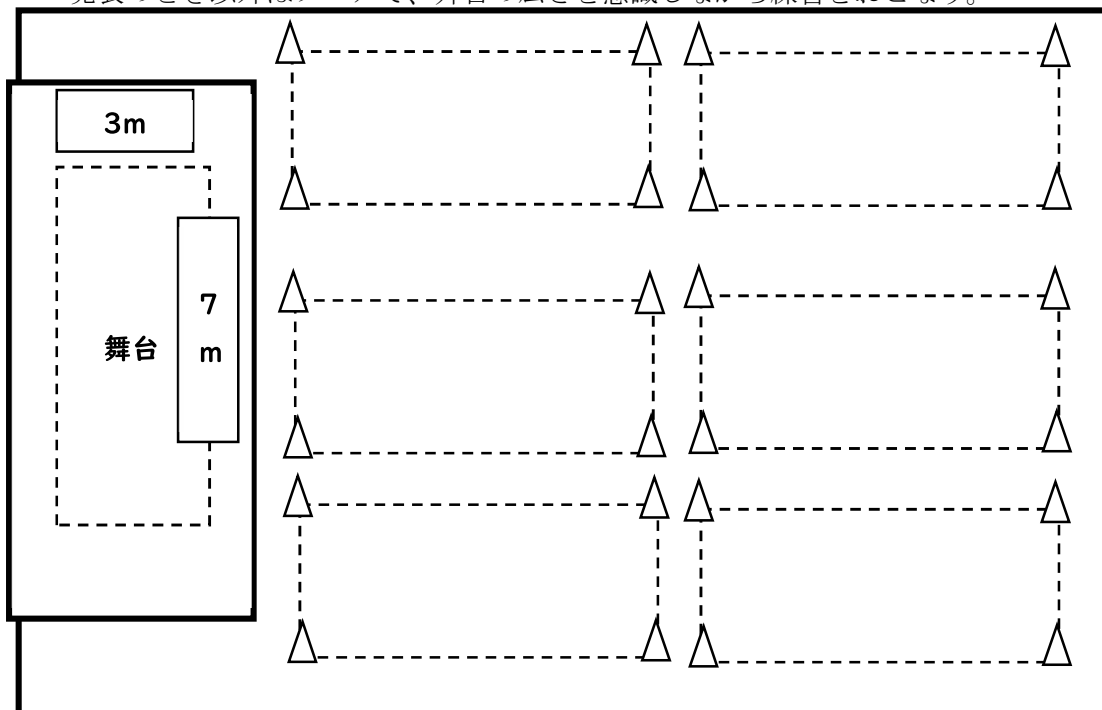


### （2）単元最終の発表方法について

- ・児童主体で3～6人のグループを作って、発表を行う。（必要な場合は編成する。）
- ・舞台上で行う。（縦3m横7m）
- ・発表時間は2～3分程度で行う。
- ・A組とB組の合同で行う。

### （3）場の設定について

- ・発表のとき以外はフロアで、舞台の広さを意識しながら練習をおこなう。



(4) ワークシートについて

○第2～4時のワークシート

**4年 表現運動**—転生したら○○な世界だった— 名前( Bの④ )

**☆転生スイッチ** (日常が異世界に変わる瞬間)

転生前(日常のテーマ)と転生後(異世界のテーマ)を考えよう。

静…じっくり・ゆっくり・止まる・小さく 動…はやく・激しく・大きく  
オノマトペ…バーン! ダダダ! ビシッ! ヒーッ そろーり ふわ～ など

**転生前** 学校の授業 掃除 はみがき

**転生後** ジャングル 宇宙 昔話 アニメ・マンガ

【静】の動き  
オノマトペ(例:そろーり):      どんな動き(例:先生にばれないように教室に入る。)

①	
②	
③	
④	
⑤	
⑥	

【動】の動き  
オノマトペ(例:ビシッビシッ):      どんな動き(例:何回も手をあげて発表させてほしいアピール。)

①	
②	
③	
④	
⑤	
⑥	

【静】の動き  
オノマトペ(例:ふわ～):      どんな動き(例:宙にういて泳いでいる。)

①	
②	
③	
④	
⑤	
⑥	

【動】の動き  
オノマトペ(例:ビーン!):      どんな動き(例:鬼にたくさんかまれて痛がる。)

①	
②	
③	
④	
⑤	
⑥	

○第5・6時のワークシート

○児童用の単元計画

**4年 表現運動**—転生したら○○な世界だった—

名前( )

良い動きを自分や自分のチームの表現に取り入れよう。①と②

○自分の動きをどう変えるのか決めよう。

転生前の動き

転生スイッチの動き

転生後の動き

○動画を見て自分の動きは変わった?

変わった【5・4・3・2・1】あまり変わっていない

**4年 表現運動** 名前( )

自分のひょうがを自分でつけよう。できた…◎ まま…○ あまりできなかった…△

1	4年生の表現運動を知ろう。	
2	生活と異世界のテーマを考えよう。	
3	テーマにふさわしい動きを考えよう。	
4	良い動きを知ろう。	
5	良い動きを自分達の表現に取り入れよう。①	
6	良い動きを自分達の表現に取り入れよう。②	
7	表現についてアドバイスし合おう。	
8	アドバイスをもらったことを使って、表現をレベルアップしよう。	
9	発表しよう。	

体を使って考えたことを表現しよう。  
アチョー…♪♪♪

表現運動のふりかえり

体力向上に向けた魅力ある授業づくりモデル校（小学校）

学校名	日高町立志賀小学校	学級数	10
		人数	187

1. 取組内容

○ 体育科授業の様子、使用した教材、作成した資料等



スピードアップ走（短距離走） 班

名前	自己ベスト 秒		
	設定タイム	タイム	得点
1			
2			
3			
4			

同時期に同領域の学習を実施できるよう、全学年の実施時期をそろえ、体育用具の準備・片付けをしやすくするため、用具を体育館の壁際に集めるなどの工夫をした。低・中・高学年別に系統性を意識した学習カードを用い、児童一人ひとりが単元のめあてを設定することで、児童の運動意欲の向上、達成感を実感させられるように工夫した。

陸上運動系では、走ることの楽しさに触れ、自身の走力の向上にチームでの競走を通して取り組むようにした。

陸上競技実技講習会で学んだことを教員で共有し、高学年で実施した。楽しみながら一人ひとりが活躍でき、さらに、自己の走力も向上する取り組みとなり、児童の意欲の向上につなげることができた。



ししがわがこ  
志賀小学校 かわどびがんばりカード 高学年用

種目	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計	平均
縄跳び(1分)	10	15	20	25	30	35	135	22.5
縄跳び(1分)	10	15	20	25	30	35	135	22.5
二重(1分)	10	15	20	25	30	35	135	22.5
二重(1分)	10	15	20	25	30	35	135	22.5
合計(1分)	40	60	80	100	120	140	440	73.3
平均(1分)	10	15	20	25	30	35	135	22.5

※100%達成を目指す。達成率を競う。達成率を競う。達成率を競う。

3学期はラグビーの授業に取り組んだ。単元の導入部で外部講師を招聘し、低・中・高学年別に分かれて指導していただいた。専門性のある指導により、児童の興味・関心や意欲の向上、授業者の指導の幅が広がるといった効果があった。学校では準備できない分の教具も貸し出していただき、学校で行える体育授業の幅も広がった。

体づくり運動で縄跳びを実施し、「きのくにチャレンジランキング」の個人の各種目に取り組んだ。

同時に、本校で実施している「縄跳びがんばりカード」と連携して、連続して跳ぶ運動を行った。リズム感、筋力、持久力を鍛えると共に、達成感や挑戦心を育む取組となった。

○ 児童アンケート

	1 学期				2 学期				3 学期			
	1. あてはまる	2. ややあてはまる	3. ややあてはまらない	4. あてはまらない	1. あてはまる	2. ややあてはまる	3. ややあてはまらない	4. あてはまらない	1. あてはまる	2. ややあてはまる	3. ややあてはまらない	4. あてはまらない
1. 体育の授業は楽しいですか	133	37	7	4	141	32	5	4	148	29	5	2
2. 体育授業は精一杯できていますか	112	56	7	5	119	56	4	3	131	44	6	3
3. 体育の授業では、できるようになったことがありますか	128	42	7	5	132	45	5	0	142	34	8	0
4. 体育の授業では、友達と協力することができましたか	128	40	6	7	125	44	10	3	118	52	8	6
5. 体育の授業で「あっわかった!」「ああ、そうか」と思うことがありますか	97	50	23	10	115	43	17	7	88	77	10	9
6. 体育の授業を通して、運動することに自信を持てるようになりましたか	103	50	18	10	88	64	24	6	115	44	15	10

「体育の授業は楽しいですか」の設問で、「あてはまる」と回答した人数が1学期133人、2学期141人、3学期148人と、楽しんで体育をする児童が増えてきた。また「体育の授業は精一杯できていますか」と「体育の授業では、できるようになったことがありますか」も学期毎に増加した。この結果から、全校で体育の実施領域を統一したこと、系統性を考慮した学習カードを使用したこと、さらに分かりやすく簡素化したカードを用いたことが体育授業の質の向上につながったと考える。

### 3. 課題

「体育の授業では、友達と協力することができましたか」という設問で、「あてはまる」と回答した児童が1学期128人、2学期125人、3学期118人と減少していった。特に3学期は体づくり運動系の用具を操作する運動遊び・用具を操作する運動で縄跳びをメインに実施していたことにより、個人での取組が多くなった。そのため協力する機会の減少につながり、児童の協力の実感が薄れてしまったと考える。そこで「きのくにチャレンジランキング」の大縄跳びにも挑戦し、協力して運動する機会を確保するようにしていきたい。また、校内体育部が中心となって、実施領域の全学年統一、教具や教材の開発に努め、学校全体で体育授業のさらなる質の向上に努めていきたい。

# 武道推進モデル校

## 取組事例

## ●実践研究のねらい

- 合気道・なぎなたを通じてそれぞれの種目の基本理念や礼儀作法・基本動作・受け身・対人的技能を学ぶことにより、作法や技能の定着を図る。
- 外部指導者による専門的な指導で生徒の知識及び技能の習得を目指す。指導・援助の役割分担を明確にし、より効果的な指導を目指す。

## ●多様な武道の指導モデル

## 合気道・なぎなた 第1学年 (3学級 88名)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
種目	合気道								なぎなた	
学習の流れ	オリエンテーション (合気道の歴史、理念、基本動作、受け身の練習)		導入(挨拶、健康観察、本時の目標)							
			準備運動							
			基本動作、受け身の練習						基本動作型の練習	
			対人的技能の復習							
			新しい技の習得							
まとめ、振り返り										

## ●指導の工夫

- 効果的な指導のための工夫
  - 合気道の事前授業を2時間行うことで基本動作や受け身などの技能をより定着させることができた。また、2年生については昨年度の復習を行うことで、よりスムーズに技能定着を図ることができた。
  - 合気道の授業では、2時間連続で行い、より時間を効果的に使うことができた。また、外部指導者から模範となる動作を示してもらうことで、よりわかりやすい指導となり、技能習得につながった。さらに、教職員と連携することでより細やかな指導を行うことができた。
  - なぎなたの授業では、外部指導者に来ていただき、専門的な指導を行ってもらうことで、生徒は楽しみながら活動することができた。
- 生徒の安全を確保するための工夫
  - 合気道の本格的な授業に入る前に、事前学習として受け身や礼儀作法の学習を行っている。このことにより、合気道の授業がスムーズに行え、怪我や事故の防止につながっている。
  - 「受け」と「取り」の位置を揃えるとともに、外部指導者と教職員が巡回することで、隣同士や技をかける際の安全を意識した。

## ●授業の様子



【 合気道の技の習得 】  
1年生の「小手返し」をペアで練習している様子



【 なぎなたの基本動作の習得 】  
面打ちの練習をペアで練習している様子

## ●生徒の取り組み方や意識の変容、感想など

<p>1. 多様な武道（※2種目以上または、柔道、剣道、相撲以外の武道）を学習したことで、武道への関心は高まりましたか。</p>	<p>2. 多様な武道を学習したことで、伝統的な考え方や行動の仕方への理解は深まりましたか。</p>	<p>3. 多様な武道を学習する授業は楽しいですか。</p>
<p>●深まった ●やや深まった ●あまり深まらなかった ●深まらなかった</p>	<p>●深まった ●やや深まった ●あまり深まらなかった ●深まらなかった</p>	<p>●楽しい ●やや楽しい ●あまり楽しくない ●楽しくない</p>

### 【感想】

- ややこしい技がいっぱいあって苦戦したのですが、ペアの子と助け合ってなんとかできるようになりました。合気道を通して、仲を深めたり、自分の可能性が増えたりしたと思います。
- はじめは技をみて、これ本当にできるのかなって思ったけど、ゆっくり練習している内にできるようになっていったので、感覚が体に入っていました。技も楽しかったし、教えてもらっている時もわかりやすかったです。
- なぎなたは初めて経験して、難しそうと思っていたが、先生がわかりやすく教えてくれたので楽しく練習することができた。

## ●成果

- 合気道の指導において外部指導者の存在は大変重要である。専門性が高く、模範となる動作を示してもらえことや、細かなポイントのアドバイスなど、きめ細かな指導をしてもらうことができた。また、教職員と外部指導者で指導の連携を図ることで、より安全で効果的な指導を行うことができた。
- 2年間継続して授業を行うことで、各学年のつながりをもって技を習得できるとともに合気道を通じて相手を思いやる心や礼儀について指導することができた。
- 合気道・なぎなたは、運動が比較的苦手な生徒も、技を習得することができ、達成感を得られるのが大変良い点であり、授業を楽しんでいる生徒が多い。

## ●課題

- 合気道指導者の確保と、打合せの時間の確保が課題である。合気道有段者の方々には、各々仕事があるため、授業時間に講師として指導していただける人が限られる。また、教職員との連携が大事であるため、今年度も夏季休暇中に時間をとって、指導内容や方法、注意点など打ち合わせを行った。
- 事前授業は教員だけでの指導であったため、支援を要する生徒への対応が難しかった。
- 今後も教員研修を進めることと、外部指導者との役割分担や連携を明確にした指導計画について、引き続き検討していく。

# 合気道・剣道

田辺市立近野中学校

## ●実践研究のねらい

- 武道の精神から和合の心を知ることで、日常生活においても人を敬う心を養う。
- 合気道で、基本動作から受け身、技能を学び、発展的な技を習得することによって、合気道の良さを知る。
- 外部指導者による専門的な指導で生徒の技能習得を目指す。指導、支援の役割分担を明確にし、より効果的な指導を目指す。
- 剣道において勝敗を決める一本（有効打突）とは何かについて掘り下げ、気剣体一致の獲得を目指す。
- 気剣体一致の獲得をめざし、お互いの動作を見とることで自己の課題に気づき、課題に応じた運動の取り組み方を工夫する。

## ●多様な武道の指導モデル 第1・2・3学年（全校13名）

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		
種目	合気道								剣道					
学習の流れ	オリエンテーション	導入（健康観察・本時の流れの説明）								剣道の歴史と防具や竹刀の取り扱い方	導入（健康観察・本時の流れの説明）			
		準備運動									準備運動			
		基本動作受け身 4段階の学習	相対した時相半身から交差持ち 逆半身から片手持ち	新たな対人技能の習得 片手持ち小手返し	基本動作 受け身 前回の学習した対人的技能の復習	新たな対人技能の習得 交差持ち四方投げ	基本動作 受け身 前回の学習した対人的技能の復習	新たな対人技能の習得 突き一教	発声と類似の運動を使つて気剣体一致の練習		有効打突の説明と送り足、打突時の踏み込み・足さばき全般	基本打ちの練習と気剣体一致の見とり		
		整理（振り返り・次時の連絡）									整理（振り返り・次時の連絡）			

## ●指導の工夫

- 効果的に指導するための工夫
  - 2時間続きの授業を主とし、継続した授業時間の活用、時間の効率的な使い方をし、技の反復、応用の定着を図った。
  - 外部指導者の模範となる技、受け身を通して視覚的に訴え、技の練習の際には教職員含め、3人の巡回指導で細やかな指導を行った。
- 生徒の安全を確保するための工夫
  - 「受け」と「取り」位置を揃えとともに、外部指導員2名、教職員1名の3名で見守り、隣接する生徒同士の間隔を取り、技をかける際の安全を意識した。
  - 受け身の練習時間の確保と、技をかける際の相手を思いやる精神を指導した。
  - 剣道防具を着装しない指導であるため、竹刀の取り扱いには十分留意させけがの防止を重点的に配慮し、指導を行った。
  - 剣道の動きをボールを使ったアナログ（類似運動）を取り入れ、剣道特有の動きを身に付けさせるようにした。
  - 生徒用の防具は用意できなかったが、教師用の防具一式、木刀、小太刀、合口を用意し、刀と竹刀の共通点について説明した結果、竹刀の扱いが大変丁寧になった。

## ●授業の様子



【二人の外部講師】

3つの技の習得を行った。講師が技を実演し、技のポイントを丁寧に指導した。生徒は大変意欲的に、楽しく授業を受けることができた。



【面の打ち込み動作】

お互いに打ち太刀、元立ちとなり面の打ち込みの練習を行った。指導者が防具を着装し、面、胴、小手打ちの打ち込みをさせるようにした。

## ●生徒の取組み方や意識の変容、感想など

<p>1. 多様な武道（※2種目以上または、柔道、剣道、相撲以外の武道）を学習したことで、武道への関心は高まりましたか。</p>	<p>2. 多様な武道を学習したことで、伝統的な考え方や行動の仕方への理解は深まりましたか。</p>	<p>3. 多様な武道を学習する授業は楽しいですか。</p>																														
<table border="1"> <tr><th>Category</th><th>Percentage</th></tr> <tr><td>高まった</td><td>61.5%</td></tr> <tr><td>やや高まった</td><td>15.4%</td></tr> <tr><td>あまり高まらなかった</td><td>15.4%</td></tr> <tr><td>高まらなかった</td><td>7.7%</td></tr> </table>	Category	Percentage	高まった	61.5%	やや高まった	15.4%	あまり高まらなかった	15.4%	高まらなかった	7.7%	<table border="1"> <tr><th>Category</th><th>Percentage</th></tr> <tr><td>深まった</td><td>53.8%</td></tr> <tr><td>やや深まった</td><td>23.1%</td></tr> <tr><td>あまり深まらなかった</td><td>15.4%</td></tr> <tr><td>深まらなかった</td><td>7.7%</td></tr> </table>	Category	Percentage	深まった	53.8%	やや深まった	23.1%	あまり深まらなかった	15.4%	深まらなかった	7.7%	<table border="1"> <tr><th>Category</th><th>Percentage</th></tr> <tr><td>楽しい</td><td>61.5%</td></tr> <tr><td>やや楽しい</td><td>30.8%</td></tr> <tr><td>あまり楽しくない</td><td>7.7%</td></tr> <tr><td>楽しくない</td><td>0.0%</td></tr> </table>	Category	Percentage	楽しい	61.5%	やや楽しい	30.8%	あまり楽しくない	7.7%	楽しくない	0.0%
Category	Percentage																															
高まった	61.5%																															
やや高まった	15.4%																															
あまり高まらなかった	15.4%																															
高まらなかった	7.7%																															
Category	Percentage																															
深まった	53.8%																															
やや深まった	23.1%																															
あまり深まらなかった	15.4%																															
深まらなかった	7.7%																															
Category	Percentage																															
楽しい	61.5%																															
やや楽しい	30.8%																															
あまり楽しくない	7.7%																															
楽しくない	0.0%																															

### 【生徒の感想】

- 初めての合気道でしたが先生や友達のアドバイスで上手になれました。分かりやすく丁寧に教えてくださったので理解しやすかったです。
- 武道に少し興味があったのでとても楽しかったです。私は「突き一教」が好きです。合気道の授業を今年やって、3つの技を習うことができて良かったです。
- 伝統的な文化である剣道は、今の時代とは違った良さがあるのだなと思った。
- 気剣体一致するのが難しかったです。初めて知る技ばかりだったので覚えるのが難しかったけど楽しかったです。

## ●成果

- 合気道の授業を通して、礼儀や相手を思いやる気持ちだけでなく、お互いが教え合ったりアドバイスし合ったりして技を習得していくという協同的な授業ができたと考えている。また、技を覚えることに意欲的で、熱心に取り組めた。
- 剣道の授業を通して、礼儀や相手を思いやる気持ちだけでなく、お互いが教え合うために、見とりを行ったことは、考えて動くことに大きく役立ったと感じる。また、アドバイスし合って技を習得していくという協同的な授業ができたと考えている。

## ●課題

- 武道の授業では、専門性の高い外部指導者による指導が必至。是非とも、来年度も同じ先生に指導していただきたい。
- 教職員が複数体制で指導し、安全管理を徹底すること。
- 剣道の授業では、防具を装着してお互いが対峙し、技を仕掛けたり打突したりして攻防することに醍醐味があるが、そのことができないことは大きな痛手である。また、防具は事故防止にもつながり、今回竹刀の扱いについては気を遣った点が多い。

## ●実践研究のねらい

- 合気道・柔道という二つの武道に触れることで共通する特性や、それぞれの特有の技能や考え方を学ぶ。
- 武道には様々な種目があることを知り、体験することで、武道の奥の深さを実感させることができるようにする。
- 外部指導者による専門的な指導で生徒の技能及び知識の習得を目指す。

## ●多様な武道の指導モデル 第全学年（4学級7名）

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
種目		合気道							柔道		
学習の流れ	オリエンテーション・武道	導入（あいさつ、健康観察、本時の目標、本時の学習の見通し）									学習のまとめ・武道
		準備運動									
		基本動作・受け身の学習	前時の復習 (対人的技能の習得)						昨年度の復習		
			対人的技能の習得 (新しい技の習得)						受け身の学習		
振り返り											

## ●指導の工夫

- 1 効果的に指導するための工夫
  - ・実技指導を1週間間に計画的に詰めて行うことで、技能の定着を図った。また、復習と発展を繰り返し行うことで、効果的な指導につなげた。
  - ・外部指導者による模範指導で、本格的な武道に触れさせることで、意欲の向上を図った。
- 2 生徒の安全を確保するための工夫
  - ・生徒の人数が少ないため、間隔を広く取り、実技指導にあたるようにした。
  - ・滑り止めを用意し、畳がずれないように可能な限り配慮した。
  - ・外部指導者と担当教員やTTによる授業を行うことで、複数の目でより円滑に授業を展開し、技をかける際の安全性を高めた。

## ●授業の様子



【柔道・礼儀作法】  
礼の仕方や座り方について学ぶ



【合気道・技の復習】  
交差持ち入り身投げの実践

## ●生徒の取組み方や意識の変容、感想など

<p>1. 多様な武道（※2種目以上または、柔道、剣道、相撲以外の武道）を学習したことで、武道への関心は高まりましたか。</p>	<p>2. 多様な武道を学習したことで、伝統的な考え方や行動の仕方への理解は深まりましたか。</p>	<p>3. 多様な武道を学習する授業は楽しいですか。</p>
<p>■高まった ■やや高まった ■あまり高まらなかった ■高まらなかった</p>	<p>■深まった ■やや深まった ■あまり深まらなかった ■深まらなかった</p>	<p>■楽しい ■やや楽しい ■あまり楽しくない ■楽しくない</p>
<p>4. 自由意見</p> <p>○今回の学習で、武道は相手を倒すためだけにあるのではないことが改めて分かりました。</p> <p>○私は合気道の歩み足、送り足、転回足、転換足を経験することで精神が無になっていく感じがして心地よかったです。</p> <p>○難しい技もあったけれど、丁寧に教えてくださったおかげで、覚えることができました。</p>		

## ●成果

<p>○外部指導者の存在が大きく、専門性が高い模範となる動作を数多く教示していただいた。それにより生徒の意欲が高まり、きめ細かな指導につなげることができた。また、教職員と外部指導者で指導の連携を図ることでより安全に授業をすすめることができた。</p> <p>○合気道を通じて相手を思いやる心や礼儀について全学年で指導することができた。</p> <p>○合気道を学んだことで、受け身の際の安全への配慮を考えながら柔道に取り組むことができた。</p>
---

## ●課題

<p>○体育科を初めて指導したので、武道を教える手順がよくわからず、準備に戸惑った。</p> <p>○運動の経験が少ない生徒への配慮に時間がかかり、一部の技はスムーズに進めることができないこともあった。</p> <p>○1月開催はかなり寒かったので、次年度実施できるのであれば、1学期もしくは2学期に実施できるようにしたい。</p>
--

●実践研究のねらい

- 地元と関わりのある武道を経験し、人物や歴史についての知識を深める。
- 外部指導者による専門的な指導とTTとの連携を図り、安全でスムーズに授業を展開し、技の定着を図る。
- 複数の武道に触れることで、新たな武道への興味・関心を引き出し、武道に触れる機会を増やせるようにする。

●多様な武道の指導モデル 第2学年（学級31名）

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
種目	剣道			合気道						
学習の流れ	オリエンテーション	導入	導入	導入(挨拶、健康観察、本時の学習の見通し)						
		準備運動	準備運動	準備運動	準備運動	準備運動	準備運動	準備運動	準備運動	
		礼法	礼法	受け身	受け身	受け身	受け身	受け身		
		基本動作	基本動作	基本動作	基本動作	基本動作	基本動作	基本動作		
		素振り	素振り	1・2年生で習得した技の復習	前時の復習(対人的技能習得)	前時の復習(対人的技能習得)	単元のまとめ			
		対人的技能の習得	攻防の学習 対人的技能の習得	対人的技能の習得(新たな技の習得)	対人的技能の習得(新たな技の習得)	対人的技能の習得(新たな技の習得)				
		振り返り	振り返り	振り返り	振り返り	振り返り	振り返り			

●指導の工夫

- 合気道
- 2時間続きの授業を主とし、継続した授業時間の活用、時間の効率的な使い方をし、技の反復、応用の定着を図った。
  - 外部指導者の模範となる技、受け身を通して視覚的に訴え、技の練習の際には教職員含め、3人の巡回指導で細やかな指導を行った。
  - 本校には道場がないため、体育館を使用して武道の授業を行っている。本校にある、畳50畳以外にも市からマットを100枚借り、効率と安全を確保できるように工夫している。
- 剣道
- 本校には竹刀や防具がなく、新聞紙竹刀を作成したり、タオルを使つての攻防の学習をしたりすることで、道具がなくても剣道の特性に触れることができるように工夫をした。
  - 新聞紙切りや防具を着けた教員に実際に打突を行うことにより、興味・関心を引き出すとともに、技の習得、定着を図った。

## ●授業の様子



### 【外部指導者による指導】

技の手順やポイントなどの指導がわかりやすく、楽しみながら取り組むことができていた。



### 【新聞紙竹刀での素振り】

新聞紙竹刀を作成し、竹刀の握り方や足さばき、振り方を学習している様子。

## ●生徒の取組み方や意識の変容、感想など

<p>1. 多様な武道（※2種目以上または、柔道、剣道、相撲以外の武道）を学習したことで、武道への関心は高まりましたか。</p>	<p>2. 多様な武道を学習したことで、伝統的な考え方や行動の仕方への理解は深まりましたか。</p>	<p>3. 多様な武道を学習する授業は楽しいですか。</p>
<p>0.0% 21.4% 28.6% 50.0%</p> <p>●高まった ●やや高まった ●あまり高まらなかった ●高まらなかった</p>	<p>10.7% 0.0% 21.4% 67.9%</p> <p>●深まった ●やや深まった ●あまり深まらなかった ●深まらなかった</p>	<p>0.0% 0.0% 35.7% 64.3%</p> <p>●楽しい ●やや楽しい ●あまり楽しくない ●楽しくない</p>
<p>自由意見</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○自分の身を守るための授業を受けることができてよかった。</li> <li>○教えてくださった先生が優しく、面白かったので楽しく授業を受けることができた。</li> <li>○本物の竹刀で新聞紙を切るのが難しかったけど、良い経験になった。</li> <li>○竹刀の持ち方や礼法などを知ることができて勉強になりました。</li> <li>○普段できない体験がたくさんできて良かった。このような授業をもっと増やしてほしい。</li> <li>○他の武道もやってみたい気持ちになった。</li> </ul>		

## ●成果

- 3年間の合気道の授業を通して相手を敬う精神と基本的な技能を段階的に積み上げることができた。
- 外部指導者による丁寧な指導により、武道への関心や理解が深まり、楽しく授業に参加することができている生徒が多くいた。
- 2時間続きにすることで前時の復習と新しい技の習得に向けて、余裕を持って実施することができた。

## ●課題

- 授業の日程の間隔が空いてしまうことがあった。
- マットや畳の準備・後片付けに時間がかかるため、前日から準備ができるように社会体育への体育館の貸し出しを検討しなければいけないと感じた。
- 剣道の授業を実施する場合、さらに剣道の特性に触れるためにも道具を充実させる必要があると感じた。

## ●実践研究のねらい

- 地元にはゆかりのある合気道における歴史について学び、専門家の指導によって専門的な知識や技能を身に付ける。
- 和合の心を養い、合気道の授業の中だけでなく日常生活においても人を大切にすることを養う。
- 合気道と柔道の複数種目を経験することを通して、武道領域の共通点や、差異等に気づき、日本文化の伝統と所作を知る。

## ●多様な武道の指導モデル 第1学年（学級12名）

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
種目	合気道								柔道	
学習の流れ	事前学習① （植芝盛平翁・歴史について）	事前学習② （畳の設置や受け身について）	導入（あいさつ、点呼、本時の目標と展開について）							
			準備体操 基本動作・用語 受け身	準備体操 基本動作 受け身	準備体操 基本動作 受け身	準備体操		道着の 着用法 について	前回の 復習 （受け 身）	
				前時の振り返り （前時の技）	前時の振り返り （前時の技）		前回り 受け身			
			技の習得 （小手返し）	新しい技の習得 （入り身投げ）	学習のまとめ と振り返り	受け身 （後ろ受 け身、横 受け身）	体捌き の習得			
			本時の振り返り・まとめ			本時の振り返り				

## ●指導の工夫

- 安全面について
  - ・ 本校が所持する畳の周りに、スポーツ施設から借りたマットを設置し、安全面に配慮した。
  - ・ 生徒同士の接触を避けるため、方向を揃えて、並ばせるようにした。また、生徒を見回りやすくするために段差になるように交互に並ばせて授業を実施することで、技をかけた時も、各ペアがぶつからないように配慮した。
- 指導面について
  - ・ 外部指導者の専門的な指導を中心として、体育科教員による指導を織り交ぜた。そうすることで、授業者自身も武道の指導方法を学ぶ機会となった。
  - ・ 外部指導者や、体育科教員が協力して指導する際に、ローテーションすることで、教員と外部指導者が生徒全員とペアになり、習熟度を直接把握することができた。

## ●授業の様子



【 基本動作の確認の様子 】  
合気道を学ぶにあたって、送り足等の確認作業を行っている。



【 前回り受け身の様子 】  
柔道の受け身を体操服で行った。

## ●生徒の取組み方や意識の変容、感想など

<p>1. 多様な武道（※2種目以上または、柔道、剣道、相撲以外の武道）を学習したことで、武道への関心は高まりましたか。</p>	<p>2. 多様な武道を学習したことで、伝統的な考え方や行動の仕方への理解は深まりましたか。</p>	<p>3. 多様な武道を学習する授業は楽しいですか。</p>
<p>18.9% 0.0% 40.5% 40.5%</p> <p>■高まった ■やや高まった ■あまり高まらなかった ■高まらなかった</p>	<p>13.5% 0.0% 29.7% 56.8%</p> <p>■深まった ■やや深まった ■あまり深まらなかった ■深まらなかった</p>	<p>2.7% 0.0% 27.0% 70.3%</p> <p>■楽しい ■やや楽しい ■あまり楽しくない ■楽しくない</p>

### 生徒の感想

- ・合気道を初めてしてみて、楽しかった。
- ・合気道の学習を毎年楽しみにしている。
- ・先生と一緒に授業を受けることができ楽しかった。近くで教えてくれるので安心して取り組めた。
- ・今年度経験した技を来年度には、もっと磨きをかけて、上手になりたい。
- ・もしものことがあったときに役立つ合気道を今のうちに身に付けておきたい。

## ●成果

- 合気道の授業を通して、地元にはゆかりのある武道だということの学びとともに、礼儀・作法を学習することができたこと。また、生徒一人一人が武道と向き合う良い機会となった。
- 柔道や剣道と違い、体操服で行うことができ、保護者の経済面にも優しいものだと感じた。
- 今まで授業者が経験したことのなかった武道で、専門家による指導を受けられたことで、これからの授業に生かしていく学びとなった。

## ●課題

- 今年度は3年生13名、2年生9名、1年生12名と少人数だったので、目が行き届き指導することができた。専門的な知識を身に付けて、全員に配慮ができるようになる必要性を感じた。
- 今年度は2種目目に柔道を行ったが、来年度以降は事前に準備して、環境を整えてから複数種目の武道を行っていききたい。

## ●実践研究のねらい

- 外部指導者による専門的な指導、教師の補助的な指導で、限られた時数で、より効果的な指導を目指す。
- ・連携した指導で、生徒の知識及び技能の習得を目指す。
  - ・教師が経験の少ない武道について学ぶ機会とし、実際に授業を行う上で、教師のスキルアップにつなげる。
- 合気道は、1，2年で取り組み、本県発祥の武道の基礎を学ぶ。
- 合気道を通して、生徒同士の関係性構築ができるような指導を目指す。

## ●多様な武道の指導モデル 第2学年（学級33名）

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	
種目	少林寺拳法		合気道									
学習の流れ	導入 (挨拶/健康観察/本時の流れ・めあての確認)		オリエンテーション	導入（挨拶/伝統的な行動の仕方/健康観察/本時の流れ・めあての確認）								
	準備体操			準備体操（体育委員）								
				基本動作の確認			前時の復習					
	立ち方 座り方 あぐら 突き 蹴り 掌底			受け身の練習						受け身の練習		
	実践での使用 捕まれたときの対応など			対人技能の学習						対人技能の学習 (11時間目/まとめ)		
本時の振り返り/次時の連絡/挨拶												

## ●指導の工夫

- 2時間続きの授業とし、継続性、指導効率を高めた。
- 2日目以降は、1限目を教員が担当し、武道を授業者自ら指導する機会を作った。
- 外部指導者による専門的で模範となる技能を示し、ペアでお互いを尊重できるように指導した。
- 外部指導者の方に、演武や模範演技をしていただき、本来の合気道の迫力や技のポイントを具体的に伝えてもらえるようお願いした。また、指導の動画をICTで撮影し体育館に映写した。
- 技の指導は、外部指導者と教職員の計3～4名体制で、役割分担を明確にすることで、全生徒に目が行き届き、声をかけられる体制を作った。また、事故を起こさせない、ケガをさせない、安全体制を作った。

## ●授業の様子



### 【 合気道 】

天地投げ（簡潔な動きで、自分のバランスと相手のバランスを感じながら投げる）



### 【 少林寺拳法 】

掌底 でのひらの手首に近い位置で打撃や受けを行う

## ●生徒の取組み方や意識の変容、感想など

<p>1. 多様な武道（※2種目以上または、柔道、剣道、相撲以外の武道）を学習したことで、武道への関心は高まりましたか。</p>	<p>2. 多様な武道を学習したことで、伝統的な考え方や行動の仕方への理解は深まりましたか。</p>	<p>3. 多様な武道を学習する授業は楽しいですか。</p>																														
<table border="1"> <tr><th>回答</th><th>割合</th></tr> <tr><td>高まった</td><td>63.3%</td></tr> <tr><td>やや高まった</td><td>23.3%</td></tr> <tr><td>あまり高まらなかった</td><td>13.3%</td></tr> <tr><td>高まらなかった</td><td>0.0%</td></tr> </table>	回答	割合	高まった	63.3%	やや高まった	23.3%	あまり高まらなかった	13.3%	高まらなかった	0.0%	<table border="1"> <tr><th>回答</th><th>割合</th></tr> <tr><td>深まった</td><td>70.0%</td></tr> <tr><td>やや深まった</td><td>26.7%</td></tr> <tr><td>あまり深まらなかった</td><td>3.3%</td></tr> <tr><td>深まらなかった</td><td>0.0%</td></tr> </table>	回答	割合	深まった	70.0%	やや深まった	26.7%	あまり深まらなかった	3.3%	深まらなかった	0.0%	<table border="1"> <tr><th>回答</th><th>割合</th></tr> <tr><td>楽しい</td><td>50.0%</td></tr> <tr><td>やや楽しい</td><td>36.7%</td></tr> <tr><td>あまり楽しくない</td><td>10.0%</td></tr> <tr><td>楽しくない</td><td>3.3%</td></tr> </table>	回答	割合	楽しい	50.0%	やや楽しい	36.7%	あまり楽しくない	10.0%	楽しくない	3.3%
回答	割合																															
高まった	63.3%																															
やや高まった	23.3%																															
あまり高まらなかった	13.3%																															
高まらなかった	0.0%																															
回答	割合																															
深まった	70.0%																															
やや深まった	26.7%																															
あまり深まらなかった	3.3%																															
深まらなかった	0.0%																															
回答	割合																															
楽しい	50.0%																															
やや楽しい	36.7%																															
あまり楽しくない	10.0%																															
楽しくない	3.3%																															
<p>アンケート結果は上記の通りである。1～3の項目で「高まらなかった」「深まらなかった」「楽しくない」と回答した生徒が一人もいなかった。武道の授業の構成を今年度少し変え、技のレパートリーや武道の考え方をより多く扱ったことで、内容の充実ができたと考える。</p> <p>生徒の感想</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>合気道は相手を傷つける武道ではなく、相手からの攻撃を流すための武道だと分かりました。</li> <li>相手を抑えるために、ここを抑えたらいいとか、どのように曲げたらいいかを学べて興味深かったです。</li> <li>人間の構造を使って倒すのがかっこよかった。</li> </ul>																																

## ●成果

- 武道を学び、相手と協力して技を完成させることでお互いを理解し合う力が養われた。
- 講師の方が技を迫力ある演武で見せてくださるので、生徒が合気道に引き込まれていた。
- 相手の力を使うことや、人間の構造を理解して技を行うことで技への探究心を高めることができた。

## ●課題

- 地域に専門的な指導者がいるかどうか、また毎年指導を頼めるか等が継続していくための課題である。
- ICTとの関連性をさらに深める必要がある。
- 安全面の対策のため、複数で指導にあたる必要があるため、今後も人数確保に努める。

## ●第二武道（少林寺拳法）

— 成果 —

- 合気道とは違う身近にない武道を行う事で、武道種目の違いを感じたり、考えたりすることができた。
- 技の内容理解が簡単であり、実際に見たことがある技なども扱うので生徒の関心が高い。

— 課題 —

- 今年度は講師として地域の外部指導者が行ってくれたが、継続性を持って毎年行うのは難しい。
- 合気道と違い、相手を傷つけてしまう危険があり、指導の難しさがある（当て身、突きなど）。

## ●実践研究のねらい

- 田辺発祥である合気道を学習することで、住んでいる地域の文化に誇りを持ったり、愛着を深めたりできるようにする。
- 「礼に始まり礼に終わる」などの伝統的な行動を大切にし、自分で自分を律することができるようにすると共に、人間形成につながることを理解し、取り組めるようにする。
- 2年間で合気道の基本動作、受け身、対人的技能を学び、技能の定着を図る。

## ●多様な武道の指導モデル 第 2 学年（ 1 学級 23 名）

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
種目	合気道							柔道		
学習の流れ	オリエンテーション	導入（あいさつ、健康観察、本時の学習の見通し）								
		準備運動 （受け身、体さばき） 基本動作の習得	外部講師による技の指導	前時の復習	外部講師による技の指導	前時の復習	外部講師による技の指導	基本動作の習得（受け身）	固め技の習得	
		振り返り								

## ●指導の工夫

- 2時間続きの授業形態を基本とし、1時間目に本校教員による復習を中心とした指導、2時間目に外部講師による新しい技の習得を図った。また生徒が奇数の場合は講師の方がペアとなり実施した。
- 本校教員と外部講師の複数名で巡回指導を行うことで、きめ細やかな指導を行った。
- 授業は本校体育館に畳を70畳敷いて行った。
- 毎時間ワークシートに振り返りを記入させることで、知識及び技能の定着を図った。
- 合気道の授業後に柔道を行い、受け身の違いなどに重点をおき行った。

## ●授業の様子



【 投げ技の様子 】

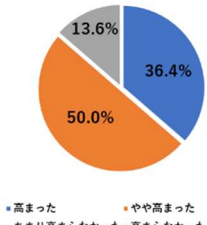
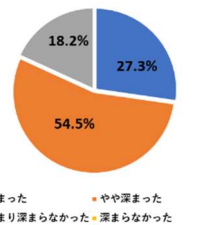
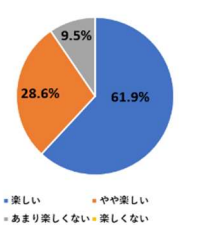
講師の先生が生徒とペアを組み直接指導を行っている様子



【講師の先生による指導の様子】

1つの技を丁寧に説明し指導を行っている様子

## ●生徒の取組み方や意識の変容、感想など

<p>1. 多様な武道（※2種目以上または、柔道、剣道、相撲以外の武道）を学習したことで、武道への関心は高まりましたか。</p>	<p>2. 多様な武道を学習したことで、伝統的な考え方や行動の仕方への理解は深まりましたか。</p>	<p>3. 多様な武道を学習する授業は楽しいですか。</p>
 <p>■高まった ■やや高まった ■あまり高まらなかった ■高まらなかった</p>	 <p>■深まった ■やや深まった ■あまり深まらなかった ■深まらなかった</p>	 <p>■楽しい ■やや楽しい ■あまり楽しくない ■楽しくない</p>
<p>授業後のアンケートの結果では、武道への関心や伝統的な考え方、行動の仕方については約8割の生徒が理解し関心を高められていることが分かった。また、武道を学習する授業が楽しいかという質問には、約9割の生徒が楽しいと答えている。授業後の生徒の感想では、「来年も合気道に取り組みたい」や「武道の伝統的な考えが深まりました」、「色々な武道にチャレンジしてみたい」などの前向きな感想が多かった。</p>		

## ●成果

<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生徒にアンケートをとったところ、約9割の生徒が楽しかった単元として合気道をあげていた。</li> <li>○ 合気道は、運動が苦手な生徒も、技を習得することで、達成感を得られている。</li> <li>○ 外部講師による授業は大変充実したものであり、専門性はもちろんのこと、模範演技などの迫力、実際に生徒が技を受けてみるなど、体育教員だけではできない授業をすることができた。</li> <li>○ 外部講師による指導の効果は生徒だけではなく、教員の指導力向上にもつながっている。</li> <li>○ 単元の後半に柔道を行い、多様な武道に触れることができた。</li> </ul>
---

## ●課題

<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 現在は外部講師と協力して授業ができているが、今後、体育科教員だけで授業を行う場面ができた場合に、専門性や技術指導の面で不安が残る。</li> <li>○ 生徒の興味・関心を高める工夫を考えていく。</li> <li>○ 畳の準備、片付けに時間を取られないように指導と手立てが必要だと感じた。</li> </ul>
---

●実践研究のねらい

- 様々な武道を学ぶことを通して、自分や相手との「心身の調和」をはかると共に、日本文化の伝統と所作を知る。
- 合気道発祥の地として、合気道の歴史、人物学習を行うとともに、武道ならではの礼儀作法や対人的技能を学び、「和合の心」について理解を深める。
- 外部指導者による専門的な指導、TTによる連携で生徒の知識及び技能の習得を目指す。指導、支援の役割分担を明確にし、より効果的な指導を目指す。

●多様な武道の指導モデル 第1学年（学級1年66名）

	1	2	3	4	5	6	7	8	9
種目	合気道							なぎなた	
学習の流れ	オリエンテーション	導入（健康観察・本時の流れの説明）							
		準備運動						作法	相手との間合い・形 振返
		受け身の学習	新たな対人的技能の習得	基本動作 受け身	新たな対人的技能の習得	基本動作 受け身	新たな対人的技能の習得		
			前回の学習した復習	前回の学習した復習	前回の学習した復習	前回の学習した復習			
整理（振り返り・次時の連絡）								基本動作	

●指導の工夫

- 1、効果的に指導するための工夫
  - 外部指導者の指導の工夫  
 （合気道：言葉をイメージしやすいように別のことに例えて伝えたり、技を細かく分割したり、ゆっくり丁寧な指導をしていただいた。なぎなた：言葉や動きを覚えさせるために、ゲーム的な活動で、生徒が自然に体に覚えさせていく等）
- 2、生徒の安全を確保するための工夫
  - 体育館を使用して武道の授業を行っている。合気道では、本校にある畳を使用し、効率と安全を確保できるよう工夫している。さらに畳がすべらないように、床に水をスプレーで吹きかけ、ほこりや汚れを拭いてから、畳を敷くようにした。合気道では、「受け」と「取り」の位置を揃えるとともに、隣どうしの間隔をとるようにし、技をかける際の安全を意識した。なぎなたでは、なぎなたの持ち方や、使用の諸注意を受け、第一に安全を意識するように促した。

## ●授業の様子

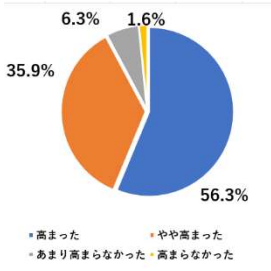
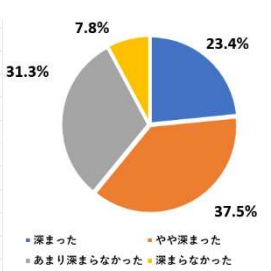
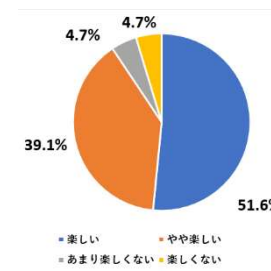


**【片手持ち四方投げの技の習得】**  
技の動きを1～6までに分割し、1つずつ説明を受けながら、確認する様子。



**【2人1組でなぎなたの形を学ぶ様子】**  
姿勢、基本動作、相手と間合い（なぎなたの合わし方）や形を学ぶ様子。

## ●生徒の取り組み方や意識の変容、感想など

1. 多様な武道を学習したことで、武道への関心は高まりましたか。	2. 多様な武道を学習したことで、伝統的な考え方や行動の仕方への理解は深まりましたか。	3. 多様な武道を学習する授業は楽しいですか。																								
 <table border="1"> <tr><td>高まった</td><td>56.3%</td></tr> <tr><td>やや高まった</td><td>35.9%</td></tr> <tr><td>あまり高まらなかった</td><td>6.3%</td></tr> <tr><td>高まらなかった</td><td>1.6%</td></tr> </table>	高まった	56.3%	やや高まった	35.9%	あまり高まらなかった	6.3%	高まらなかった	1.6%	 <table border="1"> <tr><td>深まった</td><td>37.5%</td></tr> <tr><td>やや深まった</td><td>23.4%</td></tr> <tr><td>あまり深まらなかった</td><td>31.3%</td></tr> <tr><td>深まらなかった</td><td>7.8%</td></tr> </table>	深まった	37.5%	やや深まった	23.4%	あまり深まらなかった	31.3%	深まらなかった	7.8%	 <table border="1"> <tr><td>楽しい</td><td>51.6%</td></tr> <tr><td>やや楽しい</td><td>39.1%</td></tr> <tr><td>あまり楽しくない</td><td>4.7%</td></tr> <tr><td>楽しくない</td><td>4.7%</td></tr> </table>	楽しい	51.6%	やや楽しい	39.1%	あまり楽しくない	4.7%	楽しくない	4.7%
高まった	56.3%																									
やや高まった	35.9%																									
あまり高まらなかった	6.3%																									
高まらなかった	1.6%																									
深まった	37.5%																									
やや深まった	23.4%																									
あまり深まらなかった	31.3%																									
深まらなかった	7.8%																									
楽しい	51.6%																									
やや楽しい	39.1%																									
あまり楽しくない	4.7%																									
楽しくない	4.7%																									

### <合気道>

・植芝盛平さんの考えた合気道を、外部指導者に教わり、体のさばき方、相手の動きを利用した技のかけ方など、すごく奥深いところまで学ぶことが出来た。

### <なぎなた>

- ・授業を受ける前、「剣道みたいなのかな、、、」「確か、歴史の、、、」など、いろいろなことを考えていました。実際に授業を受けると、剣道とはまた違う新鮮さや、かっこよさがありました。でも、喉をつくのもあると知って、「やっぱり戦国時代の名残が残っているのか」とも、思いました。
- ・合気道との共通点があり、「歩み足」「送り足」また、基本姿勢も似ていて、武道の共通点を知ることができました。大変わかりやすく丁寧に教えてもらい、ゲームなどを交えてもらい、基礎を自然に体に覚えさせることができました。

## ●成果

### <武道を通して>

「楽しかった」という感想が多く、合気道となぎなたの共通する部分等をしっかり考えることができていたこと。事前学習や、オリエンテーションや導入の部分で人物学習やその武道の歴史を紹介することによって、歴史を考えながら取り組めた等の感想も多かったことが成果として挙げられる。合気道では、外部指導者の技の説明の際には、わかりやすい言葉を選び、細かいポイントを伝えた。さらに、1つの技を5～7つに動きを区切って指導し、生徒が理解してから、区切る数を減らし、流れるように指導した。なぎなたでは、ゲームを導入しながら、動きの言葉（後ろのことを「あと」という等）を自然に生徒に覚えさせていくなどの工夫によって、短い時間ではあったが生徒の完成度も高かったように思う。

外部指導者の専門性が高く、教員は指導と併せて生徒の安全管理にも注力することができ、生徒達も深くまで技を理解することができた。今後も外部指導者との役割分担や連携を明確にした指導計画を作成し、生徒に対してよりきめ細かな指導を行っていく。

## ●課題

- 課題は特になかったように思う。生徒が、一生懸命武道に取り組み、興味関心が高まっていく姿を見て、とても良い機会だった。

## ●実践研究のねらい

- 合気道を通じて和合の精神や礼儀作法・基本動作・受け身・対人的技能を3年間継続して学ぶことにより、作法や技能の定着を図る。
- 外部指導者による専門的な指導、TTによる連携で生徒の知識及び技能の習得を目指す。指導・支援の役割分担を明確にし、より効果的な指導を目指す。
- 剣道を通して、礼儀作法・基本動作を行うことで、相手への思いやりや協力することを学ぶ。

## ●多様な武道の指導モデル 第1～3学年（9学級240名）

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
種目	合気道								剣道	
学習の流れ	〈昨年度の復習〉 ・基本動作確認 ・昨年度習得した技の確認		導入(挨拶・健康観察・本時の目標・本時の学習の見直し)					学習のまとめ	準備運動	
			準備運動						基本動作	
			基本動作・受け身の練習						礼法 足さばき 面打ち	
			前時の復習							
			(対人的技能の復習)							
			対人的技能の復習							
			(技の習得)							
振り返り										

## ●指導の工夫

1. 効果的な指導のための工夫
  - ・事前授業を2時間行うことで基本動作や受け身などの技能をより定着させることができた。また、2・3年生については昨年度の復習を行うことで、よりスムーズに技能定着を図ることができた。
  - ・外部指導者を招いた授業では、2時間続きの設定とし、より時間を効果的に使うことができた。また、指導者から模範となる動作を示してもらうことで、技能習得につなげることができた。
2. 生徒の安全を確保するための工夫
  - ・合気道の授業に入る前に、事前学習として受け身や礼儀作法の学習を行うことで、合気道の授業がスムーズに始められ、怪我や事故の防止につながった。
  - ・「受け」と「取り」の位置を揃えるとともに、外部指導者と教員が巡回し、生徒同士との間隔や技をかける際の安全を意識した。
  - ・生徒同士の間隔が広くとれるように体育館全体にマットを敷き、十分なスペースを確保できるよう工夫した。

## ●授業の様子



【合気道 習得した技の確認】  
授業の終わりに代表生徒が習得した技を披露する様子



【剣道 技の説明】  
指導者が技の説明・手本を示している様子

## ●生徒の取組み方や意識の変容、感想など

<p>1. 多様な武道（※2種目以上または、柔道、剣道、相撲以外の武道）を学習したことで、武道への関心は高まりましたか。</p>	<p>2. 多様な武道を学習したことで、伝統的な考え方や行動の仕方への理解は深まりましたか。</p>	<p>3. 多様な武道を学習する授業は楽しいですか。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・剣道や合気道などの日本の武道は、かっこよく、他のスポーツとは違う「和」を感じるところが魅力的だと感じた。また、合気道の方は歴史や基本を知ることによって、武道としての深みが増した気がした。</li> <li>・剣道と合気道という2種目の武道を経験して、日本の伝統的な考え方がわかった。相手に勝つことではなく、昨日の自分に勝つことが大切だとわかった。</li> <li>・武道は自分を守るためと、伝統を知ることができる良い学習になった。</li> <li>・合気道は試合をせず、勝敗を競わないところがとても素敵だと感じた。機会があればまたやりたい。</li> </ul>		

## ●成果

<ul style="list-style-type: none"> <li>○合気道の指導において外部指導者の存在は大変重要である。専門性が高く模範となる動作を示してもらえ、また細かなポイントのアドバイスなど、指導をしてもらえることができた。また、教職員と外部指導者が指導の連携を図ることでより安全で効果的な指導を行うことができた。</li> <li>○3年間継続して授業を行うことで、各学年のつながりをもって技を習得できるとともに合気道を通じて相手を思いやる心や礼儀について全学年で指導することができた。</li> <li>○剣道を通して、礼儀作法・基本動作を行うことで、相手への思いやりや協力することを学ぶことができた。</li> </ul>
--

## ●課題

<ul style="list-style-type: none"> <li>○合気道指導者の確保と、打合せの時間の確保が課題である。外部指導者の方々は、各々仕事があるため、授業時間に講師として指導していただける方が限られる。打合せの時間についても、それぞれの業務時間外に実施している。</li> <li>○事前授業は教員2名での指導であったため、支援を要する生徒への対応が難しかった。</li> <li>○教員研修を進めることと外部指導者との役割分担や連携を明確にした指導計画について、引き続き検討していきたい。</li> </ul>
--

## ●実践研究のねらい

- 合気道の礼法、基本動作、受け身、対人的技能を習得させるとともに、合気道が様々な武道の要素を取り入れて成立したことを理解させることができるようにする。
- 専門的な知識及び技能をもつ外部指導者と教科担任とが連携して授業を行うことで、生徒がより効果的に知識及び技能を習得するための指導計画の確立を目指す。

## ●多様な武道の指導モデル 第3学年（学級17名）

	1	2	3	4	5	6	7
種目	合気道						柔道
学習の流れ	導入（あいさつ、健康観察、本時の学習の見通し）						
	準備運動						
	受け身	対人的技能の習得 （新しい技の習得）	受け身	対人的技能の習得 （新しい技の習得）	受け身	「護身術」 対人的技能の習得 （新しい技の習得）	基本姿勢
	基本動作		基本動作		基本動作		組み方
	1・2年生で学習した技の復習		前時の復習 （対人的技能の習得）		前時の復習 （対人的技能の習得）		多様な受け身 （後ろ受け身・横受け身・前回り受け身）
	整理（本時の振り返り・健康観察・あいさつ）						

## ●指導の工夫

## 1 効果的に指導するための工夫

- 生徒が、外部指導者の模範となる技を理解するため、外部指導者2名を講師として招く。また、教科担任は合気道の知識及び技能を習得して授業に臨めるよう、外部指導者から事前に指導を受け、連携を図る。
- 生徒の学習効果を高めるために、2時間続きの授業展開を計画し、前時の復習と新しい技の習得が十分できる時間を確保する。

## 2 生徒の安全を確保するための工夫

- 準備運動を行う時間を十分にとることにより、けがの防止に努め、3人体制で授業を展開する。
- 85畳のたたみとその周りにマットを敷きつめることにより、効率的で安全な指導をする。

## ●授業の様子



【ペアによる対人的技能の習得(礼法)】  
相手を思いやる精神について学んでいる様子



【その他の武道(柔道)】  
受け身を実践

## ●生徒の取組み方や意識の変容、感想など

<p>1. 多様な武道(※2種目以上または、柔道、剣道、相撲以外の武道)を学習したことで、武道への関心は高まりましたか。</p>	<p>2. 多様な武道を学習したことで、伝統的な考え方や行動の仕方への理解は深まりましたか。</p>	<p>3. 多様な武道を学習する授業は楽しいですか。</p>																														
<table border="1"> <tr><th>Category</th><th>Percentage</th></tr> <tr><td>高まった</td><td>87.5%</td></tr> <tr><td>やや高まった</td><td>12.5%</td></tr> <tr><td>あまり高まらなかった</td><td>0.0%</td></tr> <tr><td>高まらなかった</td><td>0.0%</td></tr> </table>	Category	Percentage	高まった	87.5%	やや高まった	12.5%	あまり高まらなかった	0.0%	高まらなかった	0.0%	<table border="1"> <tr><th>Category</th><th>Percentage</th></tr> <tr><td>深まった</td><td>87.5%</td></tr> <tr><td>やや深まった</td><td>12.5%</td></tr> <tr><td>あまり深まらなかった</td><td>0.0%</td></tr> <tr><td>深まらなかった</td><td>0.0%</td></tr> </table>	Category	Percentage	深まった	87.5%	やや深まった	12.5%	あまり深まらなかった	0.0%	深まらなかった	0.0%	<table border="1"> <tr><th>Category</th><th>Percentage</th></tr> <tr><td>楽しい</td><td>81.3%</td></tr> <tr><td>やや楽しい</td><td>18.8%</td></tr> <tr><td>あまり楽しくない</td><td>0.0%</td></tr> <tr><td>楽しくない</td><td>0.0%</td></tr> </table>	Category	Percentage	楽しい	81.3%	やや楽しい	18.8%	あまり楽しくない	0.0%	楽しくない	0.0%
Category	Percentage																															
高まった	87.5%																															
やや高まった	12.5%																															
あまり高まらなかった	0.0%																															
高まらなかった	0.0%																															
Category	Percentage																															
深まった	87.5%																															
やや深まった	12.5%																															
あまり深まらなかった	0.0%																															
深まらなかった	0.0%																															
Category	Percentage																															
楽しい	81.3%																															
やや楽しい	18.8%																															
あまり楽しくない	0.0%																															
楽しくない	0.0%																															
<p>生徒の感想</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 相手の力を利用して、投げる仕組みを意識してできました。</li> <li>○ 手順を踏まえながら、教えてくれるのですぐに技ができるようになりました。</li> <li>○ 五味田先生と古川先生の演舞が、格好良くて素晴らしかったです。</li> </ul>																																

## ●成果

<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 3年間継続して取り組んだことで、技への関心が高まり、護身術を中心に身を守る方法を考えることができた。</li> <li>○ 体格差や性差関係なく組むことができ、武道を楽しく学べたことで、「合気道をもっと学習したい。」「卒業してからもやってみたい。」という生徒もいて、生涯スポーツとして考えようとしている生徒もいた。</li> <li>○ 礼儀作法を学習し、対人における敬意や相手を尊重する大切さを学ぶことができた。</li> <li>○ 昨年度の計画よりも、実施時期を早めたことで、指導計画に余裕をもって取り組むことができた。</li> </ul>
---

## ●課題

<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 今後、生徒数が減少していくと考えられるので、実技の実践経験を多く取り入れるための指導の工夫が必要であるととらえている。例えば、田辺市内の少人数クラスの学校と、合同授業を実施するなど、外部講師の負担を軽減することや、各校で無理のない計画を立てなければいけない。</li> </ul>
---

参

考

### 3 参考【平成21～令和6年度授業研究会開催内容一覧】

#### (1)幼稚園

校種	領域	内 容	学年	園名	授業者	年度
幼稚園	健康	運動遊び	年少 ～ 年長	和歌山市立湊幼稚園	全教員	H26
		運動遊び －親子運動遊び－		九度山町立九度山幼稚園	全教員	H26
		運動遊び		和歌山市立宮前幼稚園	全教員	H27
		運動遊び		和歌山市立中之島幼稚園	全教員	H28
		運動遊び	5歳児	和歌山市立中之島幼稚園	北川 泰大 上西 美穂	H29

#### (2)小学校

校種	領域	内 容	学年	学校名	授業者	年度
小 学 校	体づくり運動	多様な動きをつくる運動遊び	1年	和歌山市立今福小学校	岩崎 裕子	H23
		多様な動きをつくる運動遊び		和歌山大学教育学部 附属小学校	渡辺 圭	H24
		多様な動きをつくる運動遊び	2年	海南市立大野小学校	岩橋 由理	H28
		多様な動きをつくる運動	3年	海南市立大野小学校	辻 直敬	H29
		体力を高める運動 －パワーアップ大作戦－	5年	橋本市立紀見小学校	石井 美行	H21
		体力を高める運動		由良町立由良小学校	里森 翔	H24
		体力を高める運動		紀美野町立野上小学校	安田 雄一	H25
		体力を高める運動		和歌山市立中之島小学校	後藤 雅俊	H30
		体ほぐしの運動・体力を高める運動		田辺市立田辺第三小学校	塩路 文哉	H30
		体力を高める運動 －いろいろな用具を使って－	6年	海南市立黒江小学校	阪口 貴史	H21
		体力を高める運動 －縄跳び運動－		新宮市立王子小学校	山本 健一	H21
		体力を高める運動 －ミニ駅伝・走るっておもしろい－		紀の川市立長田小学校	小川 強	H22
		体力を高める運動		海南市立巽小学校	服部 康雄	H23
		体力を高める運動		岩出市立根来小学校	山脇 勇人	H28
		体ほぐしの運動・体力を高める運動		岩出市立山崎北小学校	熊代 悟志	R1

小 学 校	器械運動	器械・器具を使つての運動遊び	1年	和歌山市立中之島小学校	森下 華菜子	H27
		跳び箱運動	3年	印南町立清流小学校	山下 展弘	H22
			5年	上富田町立市ノ瀬小学校	蕨野 寿	H22
				岩出市立中央小学校	高橋 智紀	H23
			5・6年	古座川町立高池小学校	橘 創	H25
			6年	和歌山市立野崎西小学校	山田 充洋	H27
		マット運動	3年	有田川町立藤並小学校	寺村 太樹	H29
			4年	日高町立志賀小学校	北山 憲昭	H21
				有田川町立藤並小学校	寺村 太樹	H28
		5年	海南市立中野上小学校	中家 佳紀	H22	
	マット運動	5年	紀の川市立粉河小学校	池本 光夫	H28	
		4・5・6年	那智勝浦町立太田小学校	永立 琢人	H22	
		6年	紀の川市立調月小学校	森奥 健太	H25	
		全学年	那智勝浦町立太田小学校	堀口 徳正	H27	
	陸上運動	走・跳の運動遊び ーとびっこマスターになろうぜ！ー	2年	和歌山市立野崎西小学校	中筋 達也	H22
		走・跳の運動 幅跳び	4年	紀の川市立田中小学校	森口 裕介	H28
				紀の川市立田中小学校	森口 裕介	H29
		短距離走・リレー	6年	田辺市立上秋津小学校	瀬田 公寛	H21
	ハードル走	御坊市立湯川小学校		今北 知志	H26	
	水 泳	浮く・泳ぐ運動 ー呼吸をしながらの初歩的な動きー	4年	美浜町立和田小学校	山本 恵史	H26
		クロール・平泳ぎ	5・6年	有田川町立石垣小学校	生馬 裕久	H22
	ゲーム	ボールゲーム ーシュートゲームー	1・2年	由良町立白崎小学校	玉井 貴憲 望月 志保	R1
		ボールゲーム	2年	串本町立西向小学校	河田 恵美	H23
ベースボール型ゲーム ーティーボールー		3年	有田川町立小川小学校	竹内 秀昭	H21	
			和歌山市立中之島小学校	稲垣 輝一	R4	
			和歌山市立西脇小学校	小杉 栄樹	H21	
			有田市立港小学校	倉本 健吾	H23	
ゴール型ゲーム ータグラビーー		4年	和歌山市立中之島小学校	中筋 達也	H28	
ゴール型ゲーム ーポートボールー			高野町立高野山小学校	岡 恭行	H26	
ベースボール型ゲーム ーキックベースボールー	4年	高野町立高野山小学校	岡 恭行	H26		
ゴール型ゲーム ーアルティメットー		田辺市立鮎川小学校	尾崎 亮	R4		

小学校	ボール運動	ゴール型・ネット型 ーキンボールー	5年	橋本市立学文路小学校	大谷 裕幸	H22
		ゴール型 ーフラッグフットボールー		御坊市立塩屋小学校	橋本 晃和	H23
		ゴール型 ータグラグビーー		白浜町立西富田小学校	嶮口 智一	H24
		ネット型 ーソフトバレーボールー		和歌山市立川永小学校	南方 孝俊	H26
				海南市立大野小学校	山下 勝也	H28
				那智勝浦町立字久井小学校	西 起也	R3
				和歌山市立今福小学校	貴志 優太	R4
		紀の川市立田中小学校		山本 祥	R5	
		ベースボール型 ーティーボールー		和歌山市立中之島小学校	柳 政和	H29
		表現運動		ゴール型 ーバスケットボールー	6年	紀の川市立西貴志小学校
	ゴール型 ーハンドボールー		すさみ町立周参見小学校	深海 真也		H23
	ゴール型 ータグラグビーー		かつらぎ町立渋田小学校	上野 昌之		H23
	ゴール型 ーフラッグフットボールー		橋本市立西部小学校	東山 大次郎		R6
	ゴール型 ーTE-YA(庭球野球)ー		和歌山市立中之島小学校	中筋 達也		H27
	表現		海南市立大東小学校	松尾 彰彦		R3
	保健	病気の予防	6年	高野町立高野山小学校	中野 太一	H24
				美浜町立松原小学校	坂本 明菜	H26
広川町立南広小学校				三角 佑	H25	
			紀の川市立調月小学校	森奥 健太	H28	
			紀の川市立粉河小学校	上西 隆夫	H28	

### (3) 中学校

校種	領域	内 容	学年	学校名	授業者	年度	
中 学 校	体づくり運動	体力を高める運動	1年	かつらぎ町立笠田中学校	福島 浩彦	H21	
				白浜町立白浜中学校	桑原 仁史	H23	
				和歌山市立明和中学校	山田 靖子	H30	
			2年	新宮市立光洋中学校	角 利則	H23	
				田辺市立明洋中学校	中平 和徳 岩本 将広	H30	
				器械運動	マット運動	1年	紀の川市立打田中学校
	器械運動	マット運動	2年	田辺市立高雄中学校	宮野 好史	H25	
			3年	有田川町立金屋中学校	中澤 征司	H21	
		跳び箱運動	2年	紀の川市立貴志川中学校	森田 康介	H29	
		跳び箱運動・マット運動	1年	和歌山市立貴志中学校	中村 麻希	H28	
	2年		和歌山市立東和中学校	小川 泰伸	H21		
	陸上競技	陸上競技	ハードル走	2年	和歌山市立紀伊中学校	藤田 絢子	H23
			ハードル走・ 走り幅跳び・走り高跳び	1年	橋本市立紀見北中学校	松本 久彦	H24
			競走 ー長距離走ー	1年	串本町立西向中学校	堺 高行	H21
					新宮市立城南中学校	橋本 紀彦	H22
					有田市立保田中学校	蜂谷 俊幸	H23
				3年	すさみ町立周参見中学校	寺本 雄介	H21
和歌山市立貴志中学校					宮崎 潤	H29	
混成競技			3年	印南町立切目中学校	山本 拓 寺嶋 俊人	H27	
長距離走	3年	由良町立由良中学校	濱口 祐一	R1			
水 泳	泳法 ークロール・平泳ぎー	3年	上富田町立上富田中学校	中平 啓太	H22		

中 学 校	球技	ゴール型 ーバスケットボールー	1年	印南町立印南中学校	中根 譲治	H22
				和歌山市立西和中学校	尾崎 有希子	H22
			2年	田辺市立中芳養中学校	井上 一光	R4
			3年	かつらぎ町立妙寺中学校	山本 優	R6
		ゴール型 ーハンドボールー	3年	紀美野町立野上中学校	中谷 理沙子	H24
				紀の川市立貴志川中学校	小川 和	H28
				有田市立保田中学校	蜂谷 俊幸	H26
				和歌山市立楠見中学校	下田 健斗	R4
		ネット型 ーバレーボールー	2年	新宮市立城南中学校	成見 雅貴	H24
				紀の川市立貴志川中学校	畑山 武宏	R5
		みなべ町立上南部中学校		山本 尚貴	H25	
		海南市立第三中学校		下田 里奈	R3	
	ネット型 ーバドミントンー					
	武 道	柔 道	1年	日高町立日高中学校	中本 和志	H21
				広川町立耐久中学校	森川 博司	H22
				高野町立高野山中学校	木村 陽介	H22
				岩出市立岩出第二中学校	千原 慶晃	R1
			2年	紀の川市立荒川中学校	林 剛	H21
				岩出市立岩出第二中学校	東 芳弘	H23
				岩出市立岩出中学校	藤田 圭造	H25
				美浜町立松洋中学校	三原 史也	H26
		剣 道	1年	海南市立下津第二中学校	岩尾 元	H21
				御坊市立河南中学校	平林 常匡	H23
			2年	和歌山市立西浜中学校	永瀬 覚	H25
				海南市立第三中学校	芝崎 公彦	H28
			3年	海南市立第三中学校	芝崎 公彦	H29
		ダンス	創作ダンス	1年	海南市立亀川中学校	吉田 恵介
2年				海南市立巽中学校	立花 大輔	H22
現代的なリズムのダンス	2年		有田川町立吉備中学校	小松 柔	H28	
	3年		有田川町立吉備中学校	小松 柔	H29	

#### (4) 高等学校

校種	領域	内 容	学年	学校名	授業者	年度
高等学校	体づくり運動	体力を高める運動	1年	県立新宮高等学校	丹羽 泰一郎	H30
	器械運動	マット運動	1年	県立箕島高等学校	川嶋 英嗣	H23
				県立海南高等学校	安永 元樹	R4
	陸上競技	競走 －長距離走－	1年	県立新翔高等学校	脇本 優生	H24
				県立星林高等学校	山本 喜一郎	H25
			2年	県立那賀高等学校	川畑 源大	H29
	球技	ネット型 －バレーボール－	2年	県立那賀高等学校	谷 早織	H22
				県立粉河高等学校	板谷 沙緒里	R6
		ゴール型 －バスケットボール－	1年	県立田辺工業高等学校	樫山 匠	H27
				県立桐蔭高等学校	外川 広興	H28
			3年	県立桐蔭高等学校	外川 広興	H29
				2年	県立桐蔭高等学校	中条 文弥
	ネット型 －テニス－	3年	県立神島高等学校	古川 一	R1	
		武道	剣 道	1年	県立貴志川高等学校	柿原 千絵
	2年			県立那賀高等学校	塚本 浩史	H28
	ダンス	現代的なリズムのダンス 創作ダンス	1年	県立桐蔭高等学校	迫田 妙	H23
		現代的なリズムのダンス	1年	県立新宮高等学校	田寺 美絵	H25
		創作ダンス	1年	県立有田中央高等学校	福田 亜唯	H26

#### (5) 特別支援学校

特別支援学校	体づくり運動	大縄跳び	小学部 低学年	県立みくまの支援学校	坂田 昌寛	H26
		サーキット運動	小学部	県立紀北支援学校	小山 誓子	H28
		縄跳び	中学部	県立紀北支援学校	江川 清司	H28
		体ほぐしの運動・体力を高める運動	高等部	県立はまゆう支援学校	林 弘 道本 知紀 谷地 孝行 谷口 雄紀	R1
		体づくり運動遊び	高等部	県立紀北支援学校	津村 巧巳	R4
	器械運動	マット運動	中学部	県立たちばな支援学校	東谷 和彦	R6
	陸上運動	陸上サーキット運動	中学部	県立みくまの支援学校	上山 喜寛	H26

特別支援学校	球技	ベースボール型 -フットベースボール-	高等部 全学年	県立みくまの支援学校	尾崎 賀津	H26
		ベースボール型 -テューボール-	高等部	県立たちばな支援学校	山鷲 壮	H27
		ゴール型 -ポンポンホッケー-	高等部 全学年	和歌山大学教育学部 附属特別支援学校	谷 重男	H25
		キンボール	中学部	県立たちばな支援学校	湯森 昭人	H27
		ゴール型 -ユニバーサルホッケー-	高等部	県立きのかわ支援学校	水本 大史 安達 青児 伴 茉樹 堂本 圭司	H30
	武道	なぎなた	高等部	県立紀北支援学校	坂東 洲子	H28
				県立紀北支援学校	坂東 洲子	H29
	表現運動	リズムダンス	小学部 全学年	県立たちばな支援学校	池田 千奈	H27
	自立活動	身体の動きを通して	小学部 中学部	県立紀北支援学校・愛徳分 教室	川口 雅子	H28
		体づくり運動・ボールを 使った運動やゲーム	ボールで遊ぼう	小学部	和歌山大学教育学部 附属特別支援学校	籾本 安有美